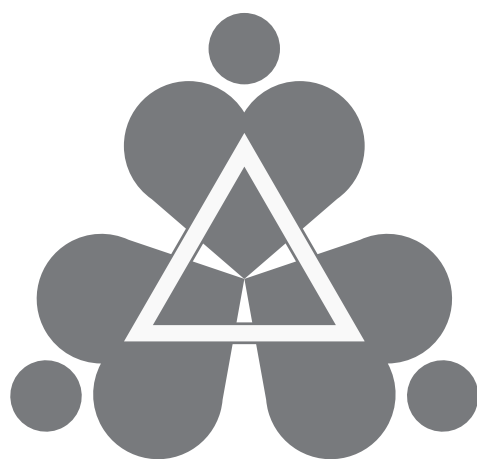




救急救命士国家試験 出題基準

令和 7 年度版

令和 7 年 3 月

一般財団法人 日本救急医療財団

救急救命士 シンボルマーク&コンセプト



ハートのマークに「愛」「信頼」「誠実」の3つの精神を託しました。

3つの丸は「迅速さ」「正確さ」「的確な判断力」をもって患者に対応するという意味を持ちます。尚、救急救命士は、患者、医者と三位一体であるということも含め、その総合的な見地から図案化されました。

救急救命士国家試験出題基準目次

必修

I 人体の構造と機能 2

- 1 体表からみる人体の構造 2
 - (1) 身体各部の構造と名称 2
 - (2) 身体各部の役割 2
- 2 人体の構成と生命の維持 2
 - (1) 人体の作りと役割 2
 - (2) 体液の作りと役割 2
 - (3) 生命の維持 2
- 3 呼吸・循環・神経系の構造と機能 2
 - (1) 呼吸系 2
 - (2) 循環系 2
 - (3) 神経系 2

II 疾患の成り立ちと回復の過程 ... 3

- 1 疾患 3
 - (1) 原因 3
 - (2) 発症と経過 3
- 2 感染 3
 - (1) 感染経路 3
- 3 死 3
 - (1) 死の概念 3
 - (2) 死体現象 3

III 健康と社会保障 4

- 1 保健医療制度の仕組みと現状 4
 - (1) 医療を取り巻く環境 4
 - (2) 医療提供体制 4
 - (3) 精神保健福祉 4
- 2 社会保障と社会福祉を支える仕組み 4
 - (1) 社会保障・社会福祉の制度 4

IV 救急医学概論 5

A 病院前医療概論 5

- 1 生命倫理と医の倫理 5
 - (1) 生命倫理の原則と医の倫理の沿革 5
 - (2) 患者の権利 5
- 2 救急医療体制 5
 - (1) 病院前医療 5
 - (2) 救急医療機関 5
- 3 救命の連鎖と市民教育 5
 - (1) 救命の連鎖 5
 - (2) 市民による一次救命処置 5
 - (3) 市民教育 5
- 4 メディカルコントロール体制 5
 - (1) 概念 5
 - (2) メディカルコントロール業務 5
- 5 救急救命士に関連する法令 5
 - (1) 救急救命士法 5
 - (2) 医師法 5
 - (3) 消防法 5
- 6 消防機関における救急活動の流れ 6
 - (1) 119 番受信と口頭指導 6
 - (2) 現場到着までの活動 6
 - (3) 現場活動 6
 - (4) 医療機関の選定と搬送 6
 - (5) 通信体制 6
 - (6) 救急活動の記録 6
 - (7) 他の関係機関との連携 6
- 7 安全管理と事故対応 6
 - (1) リスクマネジメント 6
 - (2) 傷病者への事故 6
 - (3) 救急救命士等への事故 6
 - (4) 医療事故と医療過誤 6
 - (5) 救急活動における事故の報告と対応 6
- 8 感染対策 6
 - (1) 感染予防策と感染防御 6
 - (2) 洗浄と消毒 7
 - (3) 感染事故と事故後の対応 7
- 9 災害医療体制 7
 - (1) 多数傷病者対応 7
 - (2) トリアージ 7

(3) 大規模災害	7
B 救急救命処置概論	8
1 観察の基本	8
(1) 観察の目的と意義	8
(2) バイタルサイン	8
(3) 観察の方法	8
2 現場活動の基本	8
(1) 状況評価	8
(2) 初期評価	8
(3) 全身観察と重点観察	8
(4) 判断と処置	8
(5) 緊急度・重症度の判断と医療機関の選定	8
(6) 搬送と車内活動	8
3 全身状態の観察	8
(1) 外見の観察	8
(2) 気道に関する観察	8
(3) 呼吸に関する観察	8
(4) 循環に関する観察	9
(5) 神経に関する観察	9
4 局所の観察	9
(1) 皮膚	9
(2) 頭部・顔面・頸部	9
(3) 胸部	9
(4) 腹部	9
(5) 骨盤	9
(6) 四肢	9
5 緊急度・重症度の判断	9
(1) 緊急度と重症度	9
(2) 判断の基準	9
6 資器材による観察	10
(1) パルスオキシメータ	10
(2) カプノメータ	10
(3) 聴診器	10
(4) 血圧計	10
(5) 心電図モニターと心電図伝送	10
(6) 血糖測定器	10
7 救急救命士が行う処置	10
(1) 用手的気道確保	10
(2) エアウェイを用いた気道確保	11
(3) 用手的気道異物除去	11
(4) 器具による気道異物除去	11
(5) 口腔内の吸引	11
(6) 声門上気道デバイスをを用いた気道確保	11

(7) 気管挿管	11
(8) 酸素投与	11
(9) 人工呼吸	11
(10) 胸骨圧迫	12
(11) 除細動	12
(12) 静脈路確保	12
(13) 心停止傷病者へのアドレナリン投与	12
(14) 輸液	12
(15) ブドウ糖の投与	12
(16) 自己注射用アドレナリン	12
(17) 体位管理	13
(18) 保温	13
(19) 止血	13
(20) 創傷処置	13
(21) 固定	13
(22) 産婦人科領域の処置	13
8 救急蘇生法	13
(1) 成人の救急蘇生法	13
(2) 小児の救急蘇生法	14
(3) 乳児の救急蘇生法	14
9 在宅療法継続中の傷病者の処置	14
(1) 在宅療法総論	14
(2) 救急隊が対応する在宅療法	14
10 傷病者搬送	14
(1) 搬送総論	14
(2) 搬送方法	14
C 必要な医学知識	15
1 医薬品	15
(1) 薬物総論	15
(2) 薬物の有害作用	15
(3) 救急救命処置に用いられる薬剤	15

V 救急症候・病態生理学 16

A 救急病態生理学	16
1 呼吸不全	16
(1) 原因と病態生理	16
(2) 症候と観察	16
(3) 現場活動	16
2 ショック	16
(1) 病態生理	16
(2) 分類	16
(3) 現場活動	16

3	心不全	16
(1)	病態生理	16
(2)	原因	16
(3)	現場活動	16
4	重症脳障害	16
(1)	原因と病態	16
(2)	発生機序	16
(3)	脳ヘルニア	16
5	心肺停止	16
(1)	原因と病態	16
(2)	心電図分類	16
(3)	心肺蘇生中の循環	16
B	救急症候学	17
1	救急症候	17
(1)	意識障害	17
(2)	頭痛	17
(3)	痙攣	17
(4)	運動麻痺	17
(5)	めまい	17
(6)	呼吸困難	17
(7)	失神	17
(8)	胸痛	17
(9)	腹痛	17
(10)	腰痛・背部痛	17
VI	疾病救急医学	18
1	神経系疾患	18
(1)	脳血管障害	18
(2)	感染症	18
(3)	てんかん	18
2	呼吸系疾患	18
(1)	上気道の疾患	18
(2)	下気道と肺胞の疾患	18
(3)	感染症	18
(4)	胸膜疾患	18
(5)	その他の呼吸系疾患	18
3	循環系疾患	18
(1)	虚血性心疾患	18
(2)	心不全	18
(3)	心膜疾患	18
(4)	血管疾患	18
4	消化系疾患	18
(1)	食道疾患	18
(2)	胃・十二指腸疾患	18

(3)	腸疾患	18
(4)	腹膜疾患	18
(5)	肝臓・胆道・膵臓疾患	18
5	泌尿・生殖系疾患	18
(1)	腎臓の疾患	18
(2)	尿路の疾患	18
6	内分泌・代謝・栄養系疾患	18
(1)	糖尿病と低血糖	18
(2)	その他の代謝疾患	18
7	血液・免疫系疾患	19
(1)	血液系疾患	19
(2)	免疫系疾患	19
8	小児と救急疾患	19
(1)	総論	19
(2)	神経系疾患	19
(3)	呼吸系疾患	19
(4)	消化系疾患	19
(5)	その他の疾患	19
9	高齢者と救急疾患	19
(1)	総論	19
(2)	高齢者に特有な疾患	19
10	妊娠・分娩と救急疾患	19
(1)	妊娠の異常	19
(2)	分娩の異常	19

VII	外傷救急医学	20
1	外傷総論	20
(1)	外傷の定義と分類	20
(2)	受傷機転	20
(3)	外傷に伴うショック	20
2	現場活動	20
(1)	現場活動の流れ	20
(2)	外傷現場活動	20
3	代表的な外傷の病態と症候	20
(1)	頭部・顔面外傷	20
(2)	脊椎・脊髓外傷	20
(3)	胸部外傷	20
(4)	腹部外傷	20
(5)	骨盤・四肢外傷	20
4	熱傷	20
(1)	病態	20

(2) 観察と処置	20
-----------	----

VIII 環境障害・急性中毒学 21

1 急性中毒	21
(1) 中毒総論	21
(2) 代表的な中毒	21
2 代表的な環境障害	21
(1) 溺水	21
(2) 熱中症	21
(3) 偶発性低体温症	21

専門基礎分野

I 人体の構造と機能 24

1 体表からみる人体の構造	24
(1) 身体各部の構造と名称	24
(2) 身体各部の役割	24
2 人体の構成	24
(1) 人体の作りと役割	24
(2) 体液の作りと役割	24
3 生命の維持	24
(1) 栄養と代謝	24
(2) 呼吸と循環	24
(3) 内部環境の維持	24
4 神経系	24
(1) 神経系の成り立ち	24
(2) 中枢神経系	24
(3) 末梢神経系	24
(4) 自律神経系	24
(5) 脳血流と代謝	25
(6) 意識	25
(7) 伝導路	25
(8) 反射	25
5 感覚系	25
(1) 感覚系の役割	25
(2) 視覚器	25
(3) 平衡感覚・聴覚器	25
(4) 皮膚感覚器	25
6 呼吸系	25
(1) 呼吸系の役割	25

(2) 気道	25
(3) 胸郭と呼吸筋	25
(4) 肺	25
(5) 呼吸の調節	25

7 循環系	25
(1) 循環系の役割	25
(2) 心臓	25
(3) 脈管	25
(4) 循環の制御	26
8 消化系	26
(1) 消化系の役割	26
(2) 口腔・咽頭	26
(3) 消化管	26
(4) 肝臓・胆道系	26
(5) 膵臓	26
(6) 腹膜	26
9 泌尿系	26
(1) 泌尿系の役割	26
(2) 腎臓	26
(3) 尿路	26
10 生殖系	26
(1) 男性生殖器	26
(2) 女性生殖器	26
11 内分泌系	26
(1) 内分泌系の役割	26
(2) 内分泌器官	26
12 血液・免疫系	27
(1) 血液の役割	27
(2) 血球	27
(3) 造血	27
(4) 血漿の役割	27
(5) 止血のしくみ	27
(6) 免疫系の役割	27
13 筋・骨格系	27
(1) 分類	27
(2) 骨	27
(3) 関節	27
(4) 靱帯と腱	27
14 皮膚系	27
(1) 皮膚系	27

II 疾患の成り立ちと回復の過程 … 28

1 疾患 ……………	28
(1) 原因 ……………	28
(2) 発症と経過 ……………	28
(3) 回復 ……………	28
(4) 予防 ……………	28
2 臓器と組織の変化 ……………	28
(1) 炎症 ……………	28
(2) 循環障害 ……………	28
(3) 代謝障害 ……………	28
(4) 退行性病変 ……………	28
(5) 腫瘍 ……………	28
(6) 先天異常 ……………	28
(7) 損傷 ……………	28
3 感染 ……………	29
(1) 微生物 ……………	29
(2) 感染の成り立ち ……………	29
(3) 感染経路 ……………	29
(4) 特別な感染 ……………	29
4 死 ……………	29
(1) 死の概念 ……………	29
(2) 死体現象 ……………	29
(3) 死因の推定 ……………	29

III 健康と社会保障 …………… 30

1 保健医療制度の仕組みと現状 ……………	30
(1) 医療を取り巻く環境 ……………	30
(2) 医療提供体制 ……………	30
(3) 公衆衛生の仕組み ……………	30
(4) 環境保健の仕組み ……………	30
(5) 労働衛生の仕組み ……………	30
(6) 学校保健の仕組み ……………	30
(7) 母子保健の仕組み ……………	30
(8) 高齢者を支える仕組み ……………	30
(9) 地域保健の仕組み ……………	30
(10) 精神保健福祉の仕組み ……………	30
2 社会保障・社会福祉を支える仕組み ……………	30
(1) 社会保障・社会福祉の仕組み ……………	30
(2) 社会保障と制度 ……………	30
(3) 社会福祉と制度 ……………	30

専門分野

I 救急医学概論 …………… 32

A 病院前医療概論 ……………	32
1 生命倫理と医の倫理 ……………	32
(1) 生命倫理の原則と医の倫理の沿革 ……………	32
(2) 患者の権利 ……………	32
2 救急医療体制 ……………	32
(1) 病院前医療 ……………	32
(2) 医療計画と救急医療体制 ……………	32
(3) 救急医療機関 ……………	32
(4) 救急医療情報 ……………	32
3 救命の連鎖と市民教育 ……………	32
(1) 救命の連鎖 ……………	32
(2) 市民による一次救命処置 ……………	33
(3) 市民教育 ……………	33
4 メディカルコントロール体制 ……………	33
(1) 概念 ……………	33
(2) メディカルコントロール協議会 ……………	33
(3) メディカルコントロール業務 ……………	33
5 救急救命士に関連する法令 ……………	33
(1) 法令の基本 ……………	33
(2) 救急救命士法 ……………	33
(3) 医師法 ……………	33
(4) 保健師助産師看護師法 ……………	33
(5) 消防法 ……………	33
(6) 医療法 ……………	33
(7) その他の法令 ……………	33
6 救急救命士の養成と生涯教育 ……………	34
(1) 救急救命士の養成 ……………	34
(2) 救急救命士の生涯教育 ……………	34
(3) 病院実習 ……………	34
7 消防機関における救急活動の流れ ……………	34
(1) 119 番受信と口頭指導 ……………	34
(2) 現場到着までの活動 ……………	34
(3) 現場活動 ……………	34
(4) 医療機関の選定と搬送 ……………	34
(5) 通信体制 ……………	34
(6) 救急活動の記録 ……………	34
(7) 他の関係機関との連携 ……………	34
8 コミュニケーションと問診 ……………	34
(1) 接遇とコミュニケーションの種類 ……………	34

(2) 対象に応じたコミュニケーション	35
(3) 問診	35
(4) 救急活動でのインフォームドコンセント	35
9 安全管理と事故対応	35
(1) リスクマネジメント	35
(2) 傷病者への事故	35
(3) 救急救命士等への事故	35
(4) 医療事故と医療過誤	35
(5) 救急活動における事故の報告と対応	35
10 感染対策	35
(1) 感染予防策と感染防御	35
(2) 洗浄と消毒	36
(3) 感染事故と事故後の対応	36
11 ストレス対策	36
(1) 救急活動でのストレス	36
(2) 救急活動でのストレスへの対応	36
12 災害医療体制	36
(1) 災害の概念	36
(2) 多数傷病者対応	36
(3) トリアージ	36
(4) 大規模災害	36
(5) 特殊災害	37
B 救急救命処置概論	38
1 観察の基本	38
(1) 観察の目的と意義	38
(2) バイタルサイン	38
(3) 観察の方法	38
2 現場活動の基本	38
(1) 状況評価	38
(2) 初期評価	38
(3) 全身観察と重点観察	38
(4) 判断と処置	38
(5) 緊急度・重症度の判断と医療機関の選定	38
(6) 搬送と車内活動	38
3 全身状態の観察	38
(1) 外見の観察	38
(2) 気道に関する観察	38
(3) 呼吸に関する観察	39
(4) 循環に関する観察	39
(5) 神経に関する観察	39
4 局所の観察	39
(1) 皮膚	39

(2) 頭部・顔面・頸部	39
(3) 胸部	39
(4) 腹部	39
(5) 鼠径部・会陰部	39
(6) 骨盤	40
(7) 四肢	40
(8) 手指、足趾、爪	40
5 緊急度・重症度の判断	40
(1) 緊急度と重症度	40
(2) 判断の基準	40
6 資器材による観察	40
(1) パルスオキシメータ	40
(2) カプノメータ	40
(3) 聴診器	40
(4) 血圧計	40
(5) 心電図モニターと心電図伝送	41
(6) 体温計	41
(7) 血糖測定器	41
7 救急救命士が行う処置	41
(1) 手手的気道確保	41
(2) エアウェイを用いた気道確保	41
(3) 手手的気道異物除去	41
(4) 器具による気道異物除去	41
(5) 口腔内の吸引	41
(6) 声門上気道デバイスを用いた気道確保	42
(7) 気管挿管	42
(8) ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	42
(9) 気管吸引	42
(10) 酸素投与	42
(11) 人工呼吸	42
(12) 胸骨圧迫	42
(13) 自動式心マッサージ器の使用	43
(14) 除細動	43
(15) 静脈路確保	43
(16) 心停止傷病者へのアドレナリン投与	43
(17) 輸液	43
(18) ブドウ糖の投与	43
(19) 自己注射用アドレナリン	43
(20) 体位管理	44
(21) 保温	44
(22) 止血	44
(23) 創傷処置	44
(24) 固定	44
(25) 産婦人科領域の処置	44
8 救急蘇生法	44
(1) 成人の救急蘇生法	44

(2) 小児の救急蘇生法	45
(3) 乳児の救急蘇生法	45
9 在宅療法継続中の傷病者の処置	45
(1) 在宅療法総論	45
(2) 救急隊が対応する在宅療法	45
10 傷病者搬送	45
(1) 搬送総論	45
(2) 搬送方法	45
(3) 救出方法	45
C 必要な医学知識	46
1 医薬品	46
(1) 薬物総論	46
(2) 薬物の有害作用	46
(3) 注意を要する常用薬	46
(4) 静脈内投与薬剤	46
(5) 救急救命処置に用いられる薬剤	46
(6) 薬物の保存と保守管理	46
2 検査	46
(1) 検査の目的と種類	46
(2) 緊急検査	46
3 放射線	47
(1) 放射線の概要	47
(2) 人体への影響と主な障害	47
II 救急症候・病態生理学	48
A 救急病態生理学	48
1 呼吸不全	48
(1) 総論	48
(2) 呼吸運動の障害	48
(3) 気道の障害	48
(4) 肺胞の障害	48
(5) 肺間質の障害	48
2 ショック	48
(1) 総論	48
(2) 循環血液量減少性ショック	48
(3) 心原性ショック	49
(4) 心外閉塞・拘束性ショック	49
(5) 血液分布異常性ショック	49
3 心不全	49
(1) 総論	49
(2) 病態生理	49
(3) 症候	49
(4) 種類	49

(5) 急性増悪	49
(6) 現場活動	49
4 重症脳障害	49
(1) 総論	49
(2) 発症機序	49
(3) 一次性脳病変	49
(4) 二次性脳病変	50
(5) 頭蓋内圧亢進	50
(6) 脳ヘルニア	50
(7) 特殊な意識障害	50
5 心肺停止	50
(1) 総論	50
(2) 原因と病態	50
(3) 心電図分類	50
(4) 心肺蘇生中の循環	50
(5) 心拍再開後の病態	50
B 救急症候学	51
1 意識障害	51
(1) 原因疾患	51
(2) 随伴症候	51
(3) 鑑別を要する病態	51
(4) 重症度・緊急度の判断	51
(5) 現場活動	51
2 頭痛	51
(1) 発症機序	51
(2) 分類	51
(3) 原因疾患	51
(4) 発症の状況	52
(5) 頭痛の性状	52
(6) 随伴症候	52
(7) 緊急度・重症度の判断	52
(8) 現場活動	52
3 痙攣	52
(1) 定義・概念	52
(2) 病態	52
(3) 種類	52
(4) 原因疾患	52
(5) 随伴症候	52
(6) 鑑別を要する病態	53
(7) 緊急度・重症度の判断	53
(8) 現場活動	53
4 運動麻痺	53
(1) 定義・概念	53
(2) 発症機序	53
(3) 分類	53
(4) 原因疾患	53

(5) 随伴症候	53
(6) 鑑別を要する病態	53
(7) 緊急度・重症度の判断	53
(8) 現場活動	53
5 めまい	53
(1) 定義・概念	53
(2) 発症機序	53
(3) 分類	53
(4) 原因疾患	53
(5) 随伴症候	54
(6) 緊急度・重症度の判断	54
(7) 現場活動	54
6 呼吸困難	54
(1) 定義・概念	54
(2) 分類	54
(3) 原因疾患	54
(4) 随伴症候	54
(5) 緊急度・重症度の判断	54
(6) 現場活動	54
7 咯血	54
(1) 定義	54
(2) 咯血による影響	55
(3) 原因疾患	55
(4) 鑑別を要する病態	55
(5) 緊急度・重症度の判断	55
(6) 現場活動	55
8 失神	55
(1) 定義・概念	55
(2) 原因疾患	55
(3) 鑑別を要する病態	55
(4) 緊急度・重症度の判断	55
(5) 現場活動	55
9 胸痛	55
(1) 発症機序	55
(2) 原因疾患	55
(3) 緊急度・重症度の判断	55
(4) 現場活動	56
10 動悸	56
(1) 定義・概念	56
(2) 原因疾患	56
(3) 随伴症候	56
(4) 緊急度・重症度の判断	56
(5) 現場活動	56
11 腹痛	56
(1) 発症機序	56

(2) 原因疾患	56
(3) 部位	56
(4) 既往歴	56
(5) 随伴症候	56
(6) 緊急度・重症度の判断	57
(7) 現場活動	57
12 吐血・下血	57
(1) 定義・概念	57
(2) 原因疾患	57
(3) 病態	57
(4) 鑑別を要する病態	57
(5) 緊急度・重症度の判断	57
(6) 現場活動	57
13 腰痛・背部痛	57
(1) 原因疾患	57
(2) 緊急度・重症度の判断	57
(3) 現場活動	57
14 体温上昇	57
(1) 定義・概念	57
(2) 発症機序	57
(3) 病態	57
(4) 発熱の分類	58
(5) 原因疾患	58
(6) 緊急度・重症度の判断	58
(7) 現場活動	58

Ⅲ 疾病救急医学 59

1 神経系疾患	59
(1) 総論	59
(2) 主な神経系疾患	59
(3) 脳血管障害	59
(4) 感染症	59
(5) てんかん	59
(6) 頭痛	59
(7) その他の神経系疾患	59
2 呼吸系疾患	59
(1) 総論	59
(2) 主な呼吸系疾患	59
(3) 上気道の疾患	59
(4) 下気道と肺胞の疾患	59
(5) 感染症	59
(6) 胸膜疾患	59
(7) その他の呼吸系疾患	59
3 循環系疾患	60
(1) 総論	60

(2) 主な循環系疾患	60	10 眼・耳・鼻の疾患	62
(3) 虚血性心疾患	60	(1) 総論	62
(4) 心不全	60	(2) 眼の疾患	62
(5) 心筋疾患	60	(3) 耳の疾患	62
(6) 心膜疾患	60	(4) 鼻の疾患	62
(7) 不整脈	60	11 感染症	63
(8) その他の心疾患	60	(1) 総論	63
(9) 血管疾患	60	(2) 結核・インフルエンザ	63
(10) 高血圧症	60	(3) 食中毒	63
4 消化系疾患	60	(4) 輸入感染症	63
(1) 総論	60	(5) 発疹性感染症	63
(2) 主な消化系疾患	60	(6) 性感染症	63
(3) 食道疾患	60	(7) その他の感染症	63
(4) 胃・十二指腸疾患	60	12 小児と救急疾患	63
(5) 腸疾患	60	(1) 総論	63
(6) 腹膜疾患	61	(2) 神経系疾患	63
(7) 肝臓・胆道・膵臓疾患	61	(3) 呼吸系疾患	63
5 泌尿・生殖系疾患	61	(4) 消化系疾患	63
(1) 総論	61	(5) 感染症	63
(2) 主な泌尿・生殖系疾患	61	(6) その他の疾患	63
(3) 腎臓の疾患	61	13 高齢者と救急疾患	63
(4) 尿路の疾患	61	(1) 総論	63
(5) 女性生殖器の疾患	61	(2) 高齢者に特有な疾患	63
(6) 男性生殖器の疾患	61	14 妊娠・分娩と救急疾患	64
6 内分泌・代謝・栄養系疾患	61	(1) 総論	64
(1) 総論	61	(2) 妊娠の異常	64
(2) 主な内分泌・代謝・栄養系疾患	61	(3) 分娩の異常	64
(3) 糖尿病と低血糖	61	15 精神障害	64
(4) その他の代謝疾患	61	(1) 総論	64
(5) 内分泌疾患	61	(2) 主な精神障害	64
(6) 栄養疾患	61	IV 外傷救急医学	65
7 血液・免疫系疾患	62	1 外傷総論	65
(1) 総論	62	(1) 外傷の定義と分類	65
(2) 主な血液・免疫系疾患	62	(2) 外傷の疫学	65
(3) 血液系疾患	62	(3) 受傷機転	65
(4) 免疫系疾患	62	2 外傷の病態生理	65
8 筋・骨格系疾患	62	(1) 侵襲への反応	65
(1) 総論	62	(2) 外傷に伴うショック	65
(2) 脊椎疾患	62	3 現場活動	65
(3) 関節疾患	62	(1) 現場活動の流れ	65
(4) 筋疾患	62	(2) 外傷現場活動	66
9 皮膚疾患	62		
(1) 総論	62		
(2) 皮膚軟部組織の感染症	62		
(3) アレルギー性疾患	62		
(4) その他の皮膚疾患	62		

4	頭部外傷	66
	(1) 特徴	66
	(2) 主な外傷	66
	(3) 観察と処置	66
5	顔面・頸部外傷	66
	(1) 特徴	66
	(2) 主な外傷	66
	(3) 観察と処置	67
6	脊椎・脊髄外傷	67
	(1) 特徴	67
	(2) 主な外傷	67
	(3) 観察と処置	67
7	胸部外傷	67
	(1) 特徴	67
	(2) 主な外傷	67
	(3) 観察と処置	68
8	腹部外傷	68
	(1) 特徴	68
	(2) 主な外傷	68
	(3) 観察と処置	68
9	骨盤外傷	68
	(1) 特徴	68
	(2) 主な外傷	68
	(3) 観察と処置	68
10	四肢外傷	69
	(1) 特徴	69
	(2) 主な外傷	69
	(3) 観察と処置	69
11	皮膚・軟部組織外傷	69
	(1) 定義と分類	69
	(2) 特殊な損傷	69
12	小児・高齢者・妊婦の外傷	69
	(1) 小児の外傷	69
	(2) 高齢者の外傷	69
	(3) 妊婦の外傷	69
13	熱傷	70
	(1) 定義と分類	70
	(2) 病態	70
	(3) 観察と処置	70
	(4) 電撃症	70
14	化学損傷	70
	(1) 定義と分類	70

(2) 観察と処置	70
-----------	----

15	縊頸・絞頸	70
----	-------	----

(1) 定義と分類	70
-----------	----

(2) 観察と処置	70
-----------	----

16	刺咬症	70
----	-----	----

(1) 特徴	70
--------	----

V 環境障害・急性中毒学 71

1	中毒総論	71
---	------	----

(1) 定義と分類	71
-----------	----

(2) 病態と生理	71
-----------	----

(3) 観察と処置	71
-----------	----

(4) 中毒情報	71
----------	----

2	中毒各論	71
---	------	----

(1) 急性エタノール中毒	71
---------------	----

(2) 医薬品中毒	71
-----------	----

(3) 乱用薬物	71
----------	----

(4) 農薬中毒	71
----------	----

(5) 工業用品中毒	71
------------	----

(6) ガス中毒	71
----------	----

(7) 自然毒中毒	72
-----------	----

(8) 家庭用品中毒	72
------------	----

3	異物	72
---	----	----

(1) 定義と分類	72
-----------	----

(2) 気道異物	72
----------	----

(3) 消化管異物	72
-----------	----

(4) 眼・耳・鼻の異物	72
--------------	----

(5) 泌尿器・生殖器の異物	72
----------------	----

4	溺水	72
---	----	----

(1) 定義と分類	72
-----------	----

(2) 病態生理	72
----------	----

(3) 観察と処置	72
-----------	----

5	熱中症	72
---	-----	----

(1) 定義と分類	72
-----------	----

(2) 病態生理	72
----------	----

(3) 観察と処置	73
-----------	----

6	偶発性低体温症	73
---	---------	----

(1) 定義と分類	73
-----------	----

(2) 病態生理	73
----------	----

(3) 観察と処置	73
-----------	----

7	放射線障害	73
---	-------	----

(1) 放射線への対応	73
-------------	----

(2) 観察と処置	73
8 その他の外因性疾患	73
(1) 高山病	73
(2) 減圧障害	73
(3) 酸素欠乏症	73
(4) 凍傷	73
(5) 紫外線による障害	73

救急救命士国家試験出題基準索引	74
-----------------------	----

【参 考】

・救急救命士国家試験のあり方等に関する 検討会報告書	90
-------------------------------------	----

救急救命士国家試験出題基準委員会委員

(平成27年度版作成委員)

◎鈴 川 正 之	自治医科大学救急医学教室教授
坂 本 哲 也	帝京大学医学部救急医学講座主任教授
横 田 順一朗	地方独立行政法人堺市立病院機構市立堺病院副院長
中 川 隆	愛知医科大学災害医療研究センター教授
安 田 康 晴	広島国際大学保健医療学部教授
窪 田 和 弘	救急振興財団救急救命東京研修所研修部参事
郡 山 一 明	救急振興財団救急救命九州研修所教授
瀧 野 昌 也	長野救命医療専門学校救急救命士科学科長
田 中 秀 治	国士舘大学大学院救急システム研究科教授
田 邊 晴 山	救急振興財団救急救命東京研修所教授
谷 川 攻 一	広島大学医学部救急医学教授
平 出 敦	近畿大学医学部救急医学教室教授
松 本 尚	日本医科大学救急医学教授※2回～3回
矢 島 務	東京消防庁救急部救急指導課長
横 田 裕 行	日本医科大学救急医学教授
横 山 正 巳	帝京大学医療技術学部教授
酒 井 智 彦	厚生労働省医政局地域医療計画課救急・周産期医療等対策室 病院前医療対策専門官
日野原 友佳子	総務省消防庁救急企画室救急専門官※1回～2回
寺 谷 俊 康	総務省消防庁救急企画室救急専門官※3回
◎印 委員長	

救急救命士国家試験出題基準委員会作業部会委員

(平成27年度版作成委員)

◎坂 本 哲 也	帝京大学医学部救急医学講座主任教授
定 光 大 海	国立病院機構大阪医療センター救命救急センター診療部長※2回～8回
中 川 隆	愛知医科大学災害医療研究センター教授
安 田 康 晴	広島国際大学保健医療学部教授
小 澤 和 弘	愛知医科大学災害医療研究センター助教※2回～8回
瀧 野 昌 也	長野救命医療専門学校救急救命士科学科長※2回～8回
田 中 秀 治	国士舘大学大学院救急システム研究科教授※2回～8回
田 邊 晴 山	救急振興財団救急救命東京研修所教授
千 葉 忠	埼玉県さいたま市消防局※2回～8回
徳 永 尊 彦	救急振興財団救急救命東京研修所教授※2回～8回
平 出 敦	近畿大学医学部救急医学教室教授※2回～8回
森 重 満 寿	大分県国東市消防本部※2回～8回
矢 島 務	東京消防庁救急部救急指導課長
横 山 正 巳	帝京大学医療技術学部教授※2回～8回
脇 澤 忍	岩手県二戸地区広域行政事務組合消防本部※2回～8回
酒 井 智 彦	厚生労働省医政局地域医療計画課救急・周産期医療等対策室 病院前医療対策専門官
日野原 友佳子	総務省消防庁救急企画室救急専門官※1回～2回
寺 谷 俊 康	総務省消防庁救急企画室救急専門官※3回～8回
◎印 作業部会長	

平成27年度版救急救命士国家試験 出題基準・ブループリントの趣旨

1 救急救命士国家試験出題基準とは

(1) 定義

救急救命士国家試験出題基準は、救急救命士国家試験の「適切な範囲」と「適切なレベル」とを項目によって整理したもので、救急救命士試験委員が出題に際して準拠する基準である。

(2) 基本的考え方

- ① 全体を通じて、救急救命士学校養成所等での学習成果を中心とした救急救命士就業前の到達度を確認することに主眼を置く。
- ② 「必修問題」では、救急救命士に必要な基本的医学知識及びその業務に直結する事項を主題として出題する。
- ③ 「一般問題」では、救急救命士に必要な医学知識及びその業務に関連する事項を主題として出題する。

(3) 教育との関係

救急救命士学校養成所等における救急救命士教育は、それぞれの自主性に基づいて実施されているが、救急救命士国家試験に合格すれば、救急救命士として登録されるのであるから、救急救命士の任務を果たすのに必要な内容は一連の救急救命士教育に含まれるべきものである。一方、試験委員が準拠する救急救命士国家試験出題基準は、救急救命士が救急現場に出場する際に少なくとも具有すべき基本的知識・技能を各項目に分類し、具体的に示したものである。これは、救急救命士学校養成所等における救急救命士教育の全てを網羅するものではなく、また、教育のあり方及び内容を拘束するものではないが、救急救命士の任務を果たすのに必要な事項を示すものである。

2 ブループリントとは

ブループリント（救急救命士国家試験設計表）は、救急救命士国家試験出題基準の各分野の出題割合を示したものである。これに基づき、病院前医療に対するニーズが拡大している近年の状況を踏まえ、社会的に要請の高い分野を含めた幅広い領域から出題するほか、頻度や緊急性の高い病態についても優先的に出題することになる。

救急救命士国家試験出題基準の利用法

はじめに

救急救命士国家試験は、救急救命士法第30条に基づき、「救急救命士として必要な知識及び技能について」行われ、同法第42条に基づく救急救命士法施行規則第10条により、試験科目が以下のように定められている。

1. 基礎医学（社会保障・社会福祉、患者搬送を含む。）
2. 臨床救急医学総論
3. 臨床救急医学各論（一）（臓器器官別臨床医学をいう。）
4. 臨床救急医学各論（二）（病態別臨床医学をいう。）
5. 臨床救急医学各論（三）（特殊病態別臨床医学をいう。）

第30条にいう「知識及び技能」とは、医師の指示の下に、救急救命処置を行うのに必要な基本的知識及び技能であると考えられる。その内容を具体的な項目によって示したのが、救急救命士国家試験出題基準である。救急救命士試験委員会は、救急救命士国家試験の妥当な内容、範囲及び適切なレベル等を確保するため、この基準に拠って出題する。

従って、救急救命士国家試験出題基準は救急救命士学校養成所等の教育で扱われている内容の全てを網羅するのではなく、また、これらの教育のあり方を拘束するものではない。

利用方法

救急救命士試験委員は以下の各項に従う。

なお、各項目は、救急救命士国家試験問題の出題範囲という観点から配列されているため、必ずしも学問的な分類体系と一致しない点があるほか、各項目間で内容が重複することがある。

- (1) 大項目は、中項目を束ねる見出しである。
- (2) 中項目には、救急救命士国家試験の出題の範囲となる事項名、症候名、病態名、疾病名、障害名、用語等を記載している。
- (3) 小項目には、中項目の内容のうち、出題にあたって重要と考えられる事項名、症候名、病態名、疾病名、障害名、用語等を出来る限り具体的に記載している。ただし、小項目によって出題範囲が限定されるものではない。
- (4) 備考には、小項目の同義語及び、その内容に関連したもので重要な事項や新規追加事項を記載しているが、前年度の救急救命士試験委員会で検討のうえ、追加・修正される。
- (5) 大・中・小項目の字句だけでは分りにくい場合があるため、その分野における出題の意図を、出題基準見出しの下に記載している。
- (6) 必修問題の「Ⅵ 疾病救急医学」の小項目及び備考に挙げられている疾患等については、その疾患等についての基本的事項及び主要症候と基本的対応能力を問う内容に限定した問題を出題する。
- (7) 小項目及び備考に挙げられている、標準プロトコル及び代表的プロトコル（口頭指導プロトコルを含む）については、国によって示された標準的な例を問うものとする。

救急救命士国家試験出題基準の利用法

出題基準見出し		国家試験科目
専門基礎分野	人体の構造と機能	基礎医学（社会保障・社会福祉、患者搬送を含む。）
	疾患の成り立ちと回復の過程	
	健康と社会保障	
専門分野	救急医学概論 （病院前医療概論） （救急救命処置概論） （必要な医学知識）	臨床救急医学総論
	救急症候・病態生理学 （救急病態生理学） （救急症候学）	臨床救急医学各論（一） （臓器器官別臨床医学をいう。）
	疾病救急医学	臨床救急医学各論（二） （病態別臨床医学をいう。）
	外傷救急医学	臨床救急医学各論（三） （特殊病態別臨床医学をいう。）
	環境障害・急性中毒学	

（注）主たる対応関係について表したものであり、出題基準を限定するものではない。

ブループリント（救急救命士国家試験設計表）

〔出題割合は概数なので、必ずしも100％にならない場合もある〕

【専門基礎分野】

I	人体の構造と機能	約 6%
II	疾患の成り立ちと回復の過程	約 3%
III	健康と社会保障	約 3%

【専門分野】

I	救急医学概論	約28%
---	--------	------

A	病院前医療概論	約 7%
B	救急救命処置概論	約19%
C	必要な医学知識	約 2%

II	救急症候・病態生理学	約23%
----	------------	------

A	救急病態生理学	約 9%
B	救急症候学	約15%

III	疾病救急医学	約19%
-----	--------	------

IV	外傷救急医学	約14%
----	--------	------

V	環境障害・急性中毒学	約 5%
---	------------	------

必修

I 人体の構造と機能

大項目	中項目	小項目	備考
1 体表からみる 人体の構造	(1) 身体各部の構造と名称	A. 解剖学的指標 B. 身体各部の名称 C. 体腔内臓器の位置関係	頭蓋腔、胸腔、腹腔、骨盤腔
	(2) 身体各部の役割	A. 頭部・顔面・頸部 B. 胸部 C. 腹部 D. 骨盤・四肢	
2 人体の構成と 生命の維持	(1) 人体の作りと役割	A. 細胞 B. 組織 C. 臓器	ATP、好気性代謝、嫌気性代謝、ブドウ糖
	(2) 体液の作りと役割	A. 体液の組成 B. 細胞外液 C. 細胞内液 D. 電解質	
	(3) 生命の維持	A. 代謝の概念 B. エネルギー産生	
3 呼吸・循環・ 神経系の構造 と機能	(1) 呼吸系	A. 気道 B. 呼吸筋 C. 肺 D. 酸素の取り込み	上気道、下気道、末梢気道 横隔膜 肺胞 心室、心房、刺激伝導系、冠動脈 動脈、静脈 大脳、脳幹、脊髄、小脳 交感神経、副交感神経
	(2) 循環系	A. 体循環と肺循環 B. 心臓 C. 脈管	
	(3) 神経系	A. 中枢神経系 B. 自律神経系	

Ⅱ 疾患の成り立ちと回復の過程

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
1 疾患	(1) 原因 (2) 発症と経過	A. 内因と外因 A. 急性、亜急性と慢性 B. 進行と増悪	
2 感染	(1) 感染経路	A. 飛沫感染 B. 空気感染 C. 接触感染	
3 死	(1) 死の概念 (2) 死体現象	A. 心臓死 A. 早期死体現象 B. 晩期死体現象	心臓死の三徴候

Ⅲ 健康と社会保障

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
1 保健医療制度の仕組みと現状	(1) 医療を取り巻く環境 (2) 医療提供体制 (3) 精神保健福祉	A. 人口構造の変化 B. 疾病構造の変化 A. 保健医療従事者 B. 医療機関 C. 医療計画 A. 入院形態	少子化、高齢化 死因、平均寿命、健康寿命 病院、診療所 5 疾病・6 事業及び在宅医療、医療圏 措置入院、医療保護入院、緊急措置入院、応急入院
2 社会保障と社会福祉を支える仕組み	(1) 社会保障・社会福祉の制度	A. 医療保険制度 B. 介護保険制度 C. 高齢者福祉	要介護認定、サービスの種類

IV 救急医学概論

A 病院前医療概論			
大項目	中項目	小項目	備考
1 生命倫理と医の倫理	(1) 生命倫理の原則と医の倫理の沿革 (2) 患者の権利	A. 生命倫理に関する原則 A. インフォームドコンセント B. QOL <生活の質> C. リビングウィル	自律の尊重、善行の原則、無危害の原則、公正・正義の原則 アドバンス・ケア・プランニング(ACP)、生前意思表示、DNAR
2 救急医療体制	(1) 病院前医療 (2) 救急医療機関	A. 救急搬送システム B. 救急救命士の役割 C. ドクターヘリ D. ドクターカー A. 救急告示医療機関 B. 初期救急医療機関 C. 二次救急医療機関 D. 三次救急医療機関	救急統計、搬送手段、救急・救助の現況 在宅当番医、休日・夜間急患センター 病院群輪番制、共同利用型病院 救命救急センター、高度救命救急センター
3 救命の連鎖と市民教育	(1) 救命の連鎖 (2) 市民による一次救命処置(BLS) (3) 市民教育	A. 救命の連鎖の意義 A. 一次救命処置の手法 B. 一次救命処置の手順 A. その他の応急手当	乳児、小児、成人 アルゴリズム 予防、異物除去、止血、PAD
4 メディカルコントロール体制	(1) 概念 (2) メディカルコントロール業務	A. メディカルコントロールの役割 B. 具体的指示と包括的指示 A. プロトコル策定 B. 指示、指導・助言 C. 事後検証 D. 教育	医療と消防の連携、コア業務 診療の補助、プロトコル オフラインメディカルコントロール オンラインメディカルコントロール
5 救急救命士に関連する法令	(1) 救急救命士法 (2) 医師法 (3) 消防法	A. 法の制定と目的 B. 救急救命士の業務 C. 救急救命処置の定義 D. 特定行為 E. 義務 A. 医師法の概要 A. 消防法と救急業務 B. 搬送・受入れの実施基準	業務を行う場所 診療の補助、救急救命処置の範囲、救急救命処置の変遷 医師の具体的指示 守秘義務、救急救命処置録 医業の独占 救急隊員、救急自動車、応急処置

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
6 消防機関における救急活動の流れ	(1) 119 番受信と口頭指導	A. 119 番受信と出動指令 B. 口頭指導	通信指令員の役割、PA 連携、医師要請
	(2) 現場到着までの活動	A. 出動	出動経路の確認、資器材準備
	(3) 現場活動	A. 状況評価 B. 傷病者観察 C. 緊急度・重症度の判断 D. 救急救命処置の実施	安全確認と二次災害の防止、感染防止対策、傷病者数の把握、受傷機転・発症状況の把握、応援要請 初期評価、全身観察 緊急度・重症度分類
	(4) 医療機関の選定と搬送	A. 医療機関の選定 B. 搬送 C. 医師への引き継ぎ	車内活動、継続観察
	(5) 通信体制	A. 現場活動と通信	応援要請、指示要請、助言要請、現場報告、病院連絡
	(6) 救急活動の記録	A. 救急活動記録票 B. 救急救命処置録 C. 事後検証票 D. ウツタイン様式	救急・救助の現況 救急蘇生統計
	(7) 他の関係機関との連携	A. 医療機関 B. 警察 C. 福祉事務所 D. 保健所	
7 安全管理と事故対応	(1) リスクマネジメント	A. ヒューマンエラー B. インシデントとアクシデント C. ハインリッヒの法則	ヒヤリハット
	(2) 傷病者への事故	A. 転倒・転落 B. チューブ・カテテル類の事故 C. 誤嚥 D. 感染	
	(3) 救急救命士等への事故	A. 活動中の事故予防 B. 暴言・暴力への対応	
	(4) 医療事故と医療過誤	A. 医療事故 B. 医療過誤	
	(5) 救急活動における事故の報告と対応	A. 事故の報告 B. 事故の検証	
8 感染対策	(1) 感染予防策と感染防御	A. 標準予防策（スタンダードプリコーション） B. 空気感染予防策 C. 飛沫感染予防策	結核、麻疹、水痘

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
9 災害医療体制	(2) 洗浄と消毒 (3) 感染事故と事故後の対応	D. 接触感染予防策 E. 救急活動での感染防御	多剤耐性菌 手指衛生、感染防止器具、体液、咳、感染性廃棄物
		A. 滅菌、消毒、洗浄 A. 感染事故と対策 B. 感染事故後の対応	針刺し事故、結核、疥癬、感染症法、 新型インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症 報告、検査、治療、結核、HCV、 HBV、HIV
	(1) 多数傷病者対応	A. CSCATTT	
	(2) トリアージ	A. 一次トリアージ B. 二次トリアージ	START 法 PAT 法
	(3) 大規模災害	A. 災害拠点病院 B. DMAT <災害派遣医療チーム>	

B 救急救命処置概論			
大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
1 観察の基本	(1) 観察の目的と意義 (2) バイタルサイン (3) 観察の方法	A. 傷病者観察の目的と意義 A. 呼吸 B. 脈拍 C. 血圧 D. 体温 E. 意識 A. 問診 B. 視診 C. 聴診 D. 触診 E. 打診	呼吸数 頻脈、徐脈 血圧を規定する因子 体温測定部位 意識レベル (JCS、GCS) 主訴、現病歴、既往歴、服用薬、アレルギー 呼吸音、心音、腸雑音 動揺、圧痛、皮下気腫、嚙音、浮腫
2 現場活動の基本	(1) 状況評価 (2) 初期評価 (3) 全身観察と重点観察 (4) 判断と処置 (5) 緊急度・重症度の判断と医療機関の選定 (6) 搬送と車内活動	A. 感染防御 B. 携行資器材の確認 C. 安全確認と二次災害の防止 D. 受傷機転・発症状況の確認 E. 傷病者数の確認 A. 呼吸 B. 脈拍 C. 血圧 D. 意識 A. 全身観察 B. 重点観察 A. 判断 B. 処置 A. 緊急度・重症度の判断 B. 医療機関の選定 A. 搬送 B. 継続観察 C. 詳細観察	
3 全身状態の観察	(1) 外見の観察 (2) 気道に関する観察 (3) 呼吸に関する観察	A. 体位 B. 四肢の変形 C. 顔貌、顔色、表情 D. 皮膚 E. 失禁 F. 嘔吐 G. 冷汗 H. 外出血 A. 気道開通と閉塞 A. 呼吸の有無	色調、乾燥、湿潤、熱感 陥没呼吸、シーソー呼吸、気道狭窄音 死戦期呼吸

大項目	中項目	小項目	備考
4 局所の観察	(4) 循環に関する観察 (5) 神経に関する観察	B. 呼吸の性状	呼吸パターン、呼吸補助筋、腹式呼吸、呼気延長 触知部位 緊張、調律 左右差
		A. 脈拍の有無 B. 脈拍の性状と様式 C. 血圧 A. JCS B. GCS C. 運動機能 D. 知覚	除脳肢位、除皮質肢位 バレー徴候、ドロップングテスト、バビンスキー反射、徒手筋力テスト 半側空間無視
	(1) 皮膚	A. 色調と温度、乾燥 B. 発汗	チアノーゼ、黄疸、蒼白、紅潮、冷感、熱感 冷汗
	(2) 頭部・顔面・頸部	A. 顔面の左右差 B. 瞳孔 C. 眼位 D. 眼球・眼瞼結膜 E. 外頸静脈怒張 F. 気管偏位 G. 皮下気腫 H. 髄液漏	瞳孔不同、散瞳、縮瞳、対光反射 共同偏視 黄染、蒼白、点状出血
	(3) 胸部	A. 胸郭運動 B. 呼吸音	握雪感 ダブルリングサイン シーソー呼吸、奇異呼吸、陥没呼吸 連続性ラ音、断続性ラ音、喘鳴、左右差
	(4) 腹部	C. 皮下気腫 A. 腹壁 B. 腹膜刺激症候 C. 腸雑音	握雪感 腹部膨満、腹壁静脈怒張 筋性防御、反跳痛
	(5) 骨盤	A. 骨盤骨折	骨盤動揺
	(6) 四肢	A. 運動障害 B. 腫脹 C. 変形 D. 動脈拍動 E. 下肢長差	単麻痺、対麻痺、片麻痺、四肢麻痺、交叉性片麻痺
5 緊急度・重症度の判断	(1) 緊急度と重症度	A. 緊急度と重症度の概念 B. 判断の目的	
	(2) 判断の基準	A. 緊急度と重症度の分類 B. 生理学的評価 C. アンダートリアージとオーバートリアージ	軽症、中等症、重症、重篤、死亡 意識レベル、呼吸、脈拍、血圧、皮膚所見

大項目	中項目	小項目	備考
6 資器材による観察	(1) パルスオキシメータ	A. 目的 B. 適応 C. 構造と原理 D. 方法 E. 評価 F. 注意点	一酸化炭素中毒、末梢循環不全
	(2) カプノメータ	A. 目的 B. 適応 C. 構造と原理 D. 方法 E. 評価 F. 注意点	
	(3) 聴診器	A. 目的 B. 適応 C. 構造 D. 方法 E. 評価 F. 注意点	食道挿管、チューブ閉塞
	(4) 血圧計	A. 目的 B. 適応 C. 種類と原理 D. 方法 E. 評価 F. 注意点	アネロイド血圧計、自動血圧計 触診法、聴診法
	(5) 心電図モニターと心電図伝送	A. 目的 B. 適応 C. 種類と原理 D. 心電図の基礎 E. 方法 F. 評価 G. 注意点 H. 心電図伝送	
	(6) 血糖測定器	A. 目的 B. 適応 C. 構造と原理 D. 資器材の準備 E. 方法 F. 評価 G. 注意点	採血用穿刺器具 感染防止
7 救急救命士が行う処置	(1) 手動的気道確保	A. 目的 B. 適応 C. 方法と手順 D. 評価 E. 注意点	頭部後屈あご先挙上法、下顎挙上法、修正下顎挙上法、下顎引上げ法、トリプルエアウェイマニューバ

大項目	中項目	小項目	備考
	(2) エアウェイを用いた気道確保	A. 目的 B. 適応 C. 方法と手順 D. 評価 E. 注意点	経口（口咽頭）エアウェイ、経鼻（鼻咽頭）エアウェイ
	(3) 手動的気道異物除去	A. 目的 B. 適応 C. 方法と手順 D. 評価 E. 注意点	背部叩打法、腹部突き上げ法
	(4) 器具による気道異物除去	A. 目的 B. 適応 C. 方法と手順 D. 評価 E. 注意点	喉頭鏡、マギール鉗子
	(5) 口腔内の吸引	A. 目的 B. 方法と手順 C. 適応 D. 評価 E. 注意点	
	(6) 声門上気道デバイスを用いた気道確保	A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順 E. 注意点	ラリngeアルマスク、食道閉鎖式エアウェイ 標準プロトコール
	(7) 気管挿管	A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順 E. 評価 F. 合併症 G. 注意点 H. 気管挿管困難症への対応	喉頭鏡、ビデオ硬性挿管用喉頭鏡、気管内チューブ 標準プロトコール 事前評価、コーマック分類、実施困難例
	(8) 酸素投与	A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順	酸素ボンベ、減圧装置 鼻カニューレ、フェイスマスク、リザーバ付きフェイスマスク、ベンチュリーマスク、デマンドバルブ
	(9) 人工呼吸	E. 評価 F. 注意点 A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備	バッグ・バルブ・マスク

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
		D. 方法と手順	バッグ・バルブ・マスク人工呼吸 (EC 法、母指球法)
	(10) 胸骨圧迫	E. 評価 F. 注意点 A. 目的 B. 適応 C. 方法と手順 D. 評価 E. 合併症 F. 注意点	成人、小児、乳児
	(11) 除細動	A. 除細動器の分類 B. 目的 C. 適応 D. 方法と手順 E. 評価 F. 注意点	
	(12) 静脈路確保	A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順 E. 評価 F. 合併症 G. 注意点	標準プロトコール
	(13) 心停止傷病者 へのアドレナ リン投与	A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順 E. 評価 F. 合併症 G. 注意点	標準プロトコール
	(14) 輸液	A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順 E. 評価 F. 合併症 G. 注意点	標準プロトコール
	(15) ブドウ糖の投 与	A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順 E. 評価 F. 合併症 G. 注意点	標準プロトコール
	(16) 自己注射用ア ドレナリン	A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順 E. 評価 F. 合併症 G. 注意点	標準プロトコール

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
8 救急蘇生法	(17)体位管理	A. 目的 B. 適応	仰臥位、起坐位、半坐位（ファウラー位）、膝屈曲位、足側高位（ショック体位）、頭部高位（セミファウラー位）、側臥位（左側臥位、回復体位）、腹臥位
	(18)保温	C. 方法と手順 D. 評価 E. 注意点	
		A. 目的 B. 適応	
		C. 方法と手順 D. 評価 E. 注意点	
	(19)止血	A. 目的 B. 止血法の種類	直接圧迫止血法、止血点止血法、止血帯
	(20)創傷処置	C. 適応 D. 方法と手順 E. 評価 F. 注意点	
		A. 目的 B. 適応	開放性気胸、腸管脱出、切断指趾、熱傷
		C. 資器材の準備 D. 方法と手順 E. 評価 F. 注意点	被覆
	(21)固定	A. 目的 B. 種類と適応	四肢骨折・脱臼、脊椎運動制限（SMR）、頸椎固定、全身固定、穿通性異物、フレイルチェスト
		C. 使用する資器材	副子、バックボード、頸椎カラー、スクープストレッチャー、ヘッドイモビライザー
		D. 方法と手順 E. 評価 F. 注意点	
	(22)産婦人科領域の処置	A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順	分娩介助、臍帯処置（臍帯結紮・切断）、胎盤処理、子宮輪状マッサージ、新生児への対応
		E. 評価 F. 注意点	
		(1) 成人の救急蘇生法	A. ガイドライン B. 入電時の対応 C. 救急隊員による一次救命処置（BLS）

大項目	中項目	小項目	備考
9 在宅療法継続中の傷病者の処置	(2) 小児の救急蘇生法	D. 代表的プロトコール	心肺機能停止対応業務プロトコール、包括的指示下除細動プロトコール、器具を用いた気道確保プロトコール、薬剤投与プロトコール
		E. 医療機関での治療 A. 小児の特異性 B. ガイドライン C. 入電時の対応 D. 救急隊員による一次救命処置 (BLS) E. 代表的プロトコール	
	(3) 乳児の救急蘇生法	F. 医療機関での治療 A. 乳児の特異性 B. ガイドライン C. 入電時の対応 D. 救急隊員による一次救命処置 (BLS) E. 代表的プロトコール	
		F. 医療機関での治療	
10 傷病者搬送	(1) 在宅療法総論	A. 意義と目的 B. 対応 C. 医療機関との連携	非侵襲的陽圧換気装置 気管カニューレ、永久気管瘻 植込み型除細動器
	(2) 救急隊が対応する在宅療法	A. 在宅酸素療法 B. 在宅人工呼吸 C. 気管切開 D. 植込み型ペースメーカー	
	(1) 搬送総論	A. 搬送の目的と意義 B. ボディメカニクス	
	(2) 搬送方法	A. 徒手搬送 B. 器具を用いた搬送	

C 必要な医学知識			
大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
1 医薬品	(1) 薬物総論 (2) 薬物の有害作用 (3) 救急救命処置に用いられる薬剤	A. 薬物の代謝 B. 投与経路とその特徴 A. アナフィラキシー反応 B. 薬物過量と薬物中毒 A. 乳酸リンゲル液 B. アドレナリン C. ブドウ糖	

V 救急症候・病態生理学

A 救急病態生理学			
大項目	中項目	小項目	備考
1 呼吸不全	(1) 原因と病態生理	A. 定義・概念 B. 主な病態	肺胞障害、気道障害、呼吸運動障害
	(2) 症候と観察	A. 低酸素血症 B. 高二酸化炭素血症 C. 上気道閉塞	
	(3) 現場活動	A. 緊急度・重症度の判断 B. 処置	
2 ショック	(1) 病態生理 (2) 分類	A. 定義・概念 A. 循環血液量減少性ショック B. 心原性ショック C. 心外閉塞・拘束性ショック D. 血液分布異常性ショック	出血量とバイタルサインの関係、輸液の影響、出血後の体液変動
	(3) 現場活動	A. 緊急度・重症度の判断 B. 処置	
3 心不全	(1) 病態生理	A. 定義・概念 B. 主な病態と症候	心拍出量、うっ血
	(2) 原因	A. 主な原因疾患	
	(3) 現場活動	A. 緊急度・重症度の判断 B. 処置	
4 重症脳障害	(1) 原因と病態	A. 一次性脳病変 B. 二次性脳病変	頭蓋内圧亢進
	(2) 発生機序	A. 脳血流の障害 B. 脳代謝の障害 C. 脳幹の障害	
	(3) 脳ヘルニア	A. 症候	
5 心肺停止	(1) 原因と病態	A. 定義・概念 B. 不整脈による心肺停止 C. 低心拍出量による心肺停止 D. 呼吸不全による心肺停止	深さ、テンポ、リコイル、中断
	(2) 心電図分類	A. 心室細動 / 無脈性心室頻拍 B. 無脈性電気活動 C. 心静止	
	(3) 心肺蘇生中の循環	A. 循環発生の機序 B. 胸骨圧迫の質	

B 救急症候学			
大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
1 救急症候	(1) 意識障害	A. 原因疾患 B. 緊急度・重症度の判断 C. 現場活動	
	(2) 頭痛	A. 原因疾患 B. 緊急度・重症度の判断 C. 現場活動	
	(3) 痙攣	A. 原因疾患 B. 緊急度・重症度の判断 C. 現場活動	
	(4) 運動麻痺	A. 原因疾患 B. 緊急度・重症度の判断 C. 現場活動	
	(5) めまい	A. 原因疾患 B. 緊急度・重症度の判断 C. 現場活動	
	(6) 呼吸困難	A. 原因疾患 B. 緊急度・重症度の判断 C. 現場活動	
	(7) 失神	A. 原因疾患 B. 緊急度・重症度の判断 C. 現場活動	
	(8) 胸痛	A. 原因疾患 B. 緊急度・重症度の判断 C. 現場活動	
	(9) 腹痛	A. 原因疾患 B. 緊急度・重症度の判断 C. 現場活動	
	(10) 腰痛・背部痛	A. 原因疾患 B. 緊急度・重症度の判断 C. 現場活動	

Ⅵ 疾病救急医学

大項目	中項目	小項目	備考
1 神経系疾患	(1) 脳血管障害	A. 脳梗塞 B. くも膜下出血 C. 脳出血 D. 一過性脳虚血発作	
	(2) 感染症	A. 髄膜炎	
	(3) てんかん	A. てんかん	症候性てんかん、てんかん大発作
2 呼吸系疾患	(1) 上気道の疾患	A. 急性喉頭蓋炎	
	(2) 下気道と肺胞の疾患	A. 気管支喘息 B. COPD <慢性閉塞性肺疾患>	肺気腫、慢性気管支炎
	(3) 感染症	A. 肺炎 B. 肺結核	
	(4) 胸膜疾患	A. 気胸	自然気胸
	(5) その他の呼吸系疾患	A. 肺血栓塞栓症 B. 過換気症候群	
3 循環系疾患	(1) 虚血性心疾患	A. 心筋梗塞 B. 不安定狭心症 C. 安定狭心症	非典型的症状、急性冠症候群
	(2) 心不全	A. うっ血性心不全	心筋症
	(3) 心膜疾患	A. 心タンポナーデ	心破裂
	(4) 血管疾患	A. 急性大動脈解離 B. 大動脈瘤	
4 消化系疾患	(1) 食道疾患	A. 食道静脈瘤 B. マロリー・ワイス症候群	肝硬変
	(2) 胃・十二指腸疾患	A. 胃・十二指腸潰瘍	穿孔、出血
	(3) 腸疾患	A. イレウス	腸閉塞
	(4) 腹膜疾患	A. 急性腹膜炎	
	(5) 肝臓・胆道・膵臓疾患	A. 急性胆嚢炎・急性胆管炎 B. 急性膵炎	
5 泌尿・生殖系疾患	(1) 腎臓の疾患	A. 急性腎不全 B. 慢性腎不全	
	(2) 尿路の疾患	A. 尿管結石 B. 急性腎盂腎炎	血液透析
6 内分泌・代謝・栄養系疾患	(1) 糖尿病と低血糖	A. 糖尿病 B. 低血糖 C. 糖尿病ケトアシドーシス D. 高浸透圧高血糖症候群	病態、非薬物治療、薬物治療（経口血糖降下薬、インスリン）、慢性合併症、急性代謝失調、感染症
	(2) その他の代謝疾患	A. 脱水 B. 電解質異常	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
7 血液・免疫系疾患	(1) 血液系疾患 (2) 免疫系疾患	A. 貧血 A. アナフィラキシー B. アレルギー	食物アレルギー、薬剤アレルギー
8 小児と救急疾患	(1) 総論 (2) 神経系疾患 (3) 呼吸系疾患 (4) 消化系疾患 (5) その他の疾患	A. 小児の特徴 B. 基本的対応 A. 痙攣 B. 髄膜炎 C. 脳炎、脳症 A. 気管支喘息 B. 急性喉頭蓋炎 A. 腸重積 A. 乳児突然死症候群 B. 被虐待児症候群	心拍数、呼吸数、年齢別正常値 熱性痙攣、痙攣重積 クループ
9 高齢者と救急疾患	(1) 総論 (2) 高齢者に特有な疾患	A. 高齢者の特徴 B. 基本的対応 A. 認知症 B. 肺気腫 C. 脱水 D. 骨粗鬆症 E. 高齢者虐待	非典型的症状
10 妊娠・分娩と救急疾患	(1) 妊娠の異常 (2) 分娩の異常	A. 異所性妊娠 B. 子癇 C. 流産・早産 D. 常位胎盤早期剝離 A. 弛緩出血	妊娠高血圧症候群 切迫流産、切迫早産

VII 外傷救急医学

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
1 外傷総論	(1) 外傷の定義と分類 (2) 受傷機転 (3) 外傷に伴うショック	A. 単独外傷 B. 多発外傷 A. 高エネルギー外傷 A. 定義・概念 B. 循環血液量減少性ショック C. 心外閉塞・拘束性ショック D. 血液分布異常性ショック	高リスク受傷機転 出血性ショック、出血量と生体反応 心タンポナーデ、緊張性気胸 神経原性ショック
2 現場活動	(1) 現場活動の流れ (2) 外傷現場活動	A. 活動の手順 B. ロードアンドゴー A. 状況評価 B. 初期評価 C. 全身観察 D. 重点観察 E. 緊急度・重症度の判断 F. 医療機関と搬送手段の選択 G. 詳細観察 H. 継続観察	ゴールデンアワー トラウマバイパス
3 代表的な外傷の病態と症候	(1) 頭部・顔面外傷 (2) 脊椎・脊髄外傷 (3) 胸部外傷 (4) 腹部外傷 (5) 骨盤・四肢外傷	A. 脳ヘルニア B. 頭蓋内血腫 C. 脳挫傷 D. びまん性脳損傷 E. 頭蓋底骨折 F. 顔面骨骨折 A. 脊椎損傷 B. 脊髄損傷 A. 心タンポナーデ B. 緊張性気胸 C. 開放性気胸 D. 血胸 E. フレイルチェスト F. 外傷性窒息 A. 腹腔内出血 B. 腹膜炎 C. 腸管脱出 A. 骨盤骨折 B. 大腿骨骨折 C. 四肢切断 D. クラッシュ症候群	急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫 びまん性軸索損傷 肝損傷、脾損傷、腸間膜損傷 腸管損傷 不安定型骨盤骨折 指趾切断 圧挫症候群（同義語）
4 熱傷	(1) 病態 (2) 観察と処置	A. 気道熱傷 A. 熱傷面積の測定 B. 熱傷深度の判定 C. 緊急度・重症度の判断 D. 処置	9 の法則、5 の法則、手掌法 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ度 熱傷指数、熱傷予後指数、アルツの基準

VIII 環境障害・急性中毒学

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
1 急性中毒	(1) 中毒総論	A. 安全確保 B. 中毒物質の推定 C. 緊急度・重症度の判断	トキシドローム
	(2) 代表的な中毒	A. 急性エタノール中毒 B. 医薬品中毒 C. 乱用薬物 D. 農薬中毒 E. 工業用品中毒 F. ガス中毒 G. 自然毒中毒 H. 家庭用品中毒	
2 代表的な環境障害	(1) 溺水	A. 病態生理 B. 観察と処置	
	(2) 熱中症	A. 病態生理 B. 観察と処置 C. 重症度分類	
	(3) 偶発性低体温症	A. 病態生理 B. 観察と処置 C. 緊急度・重症度の判断	

專門基礎分野

I 人体の構造と機能

救急救命士として理解しておくべき、人体の構造、構成、生命維持に関わる基礎知識について問う。

大項目	中項目	小項目	備考
1 体表からみる人体の構造	(1) 身体各部の構造と名称	A. 人体の位置・方向・運動 B. 解剖学的指標 C. 身体各部の名称 D. 体腔内臓器の位置関係	軸、面、帯、線、点、関節運動方向 頭蓋腔、胸腔、腹腔、骨盤腔、後腹膜
	(2) 身体各部の役割	A. 頭部・顔面・頸部 B. 胸部 C. 腹部 D. 骨盤・四肢	
2 人体の構成	(1) 人体の作りと役割	A. 細胞 B. 組織 C. 臓器	
	(2) 体液の作りと役割	A. 体液の組成 B. 細胞外液 C. 細胞内液 D. 電解質 E. 酸塩基平衡 F. 浸透圧 G. 体液の調整	
3 生命の維持	(1) 栄養と代謝	A. 代謝の概念 B. 栄養素 C. エネルギー産生	ATP、好気性代謝、嫌気性代謝、ブドウ糖
	(2) 呼吸と循環	A. 気道と換気 B. ガス交換 C. 酸素運搬	酸素解離曲線、酸素カスケード、二酸化炭素の運搬
	(3) 内部環境の維持	A. ホメオスターシス B. 体温調節	
4 神経系	(1) 神経系の成り立ち	A. 神経系の構造 B. 伝導と伝達	構成、細胞（神経細胞、神経膠細胞）、灰白質、白質 興奮の伝導、シナプス、神経伝達物質
	(2) 中枢神経系	A. 大脳 B. 間脳 C. 小脳 D. 脳幹 E. 脊髄 F. 脳脊髄液 G. 髄膜 H. 脳血管	大脳各部の機能 脳室 硬膜、くも膜、軟膜 内頸動脈系、椎骨脳底動脈系、ウィリス動脈輪
	(3) 末梢神経系	A. 脳神経 B. 脊髄神経	
	(4) 自律神経系	A. 交感神経 B. 副交感神経	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
5 感覚系	(5) 脳血流と代謝	A. 血流の調整 B. 酸素代謝	脳幹網様体 錐体路
	(6) 意識	A. 意識の概念 B. 意識の中枢	
	(7) 伝導路	A. 運動の伝導路 B. 知覚の伝導路	
	(8) 反射	A. 反射のしくみ B. 脳幹反射 C. 脊髄反射	
	(1) 感覚系の役割	A. 感覚器の種類と役割	嗅覚器、味覚器
	(2) 視覚器	A. 視覚器 B. 視覚路	
	(3) 平衡感覚・聴覚器	A. 聴覚器 B. 平衡感覚器	
	(4) 皮膚感覚器	A. 皮膚感覚器	
6 呼吸系	(1) 呼吸系の役割	A. 内呼吸と外呼吸	上気道、下気道、末梢気道
	(2) 気道	A. 気道の分類 B. 口腔・鼻腔 C. 咽頭 D. 喉頭 E. 気管・気管支	
	(3) 胸郭と呼吸筋	A. 胸郭 B. 胸膜 C. 胸腔 D. 呼吸筋	
	(4) 肺	A. 肺胞 B. 肺毛細血管 C. 肺循環 D. 酸素の取り込み E. 二酸化炭素の排出	
	(5) 呼吸の調節	A. 呼吸中枢 B. 化学受容体	横隔膜、肋間筋、呼吸補助筋、横隔神経
			肺内シャント、肺胞死腔
7 循環系	(1) 循環系の役割	A. 体循環と肺循環	リンパ系
	(2) 心臓	A. 心筋 B. 心室 C. 心房 D. 弁 E. 刺激伝導系 F. 冠動脈 G. 心嚢 H. 心周期 I. 心機能	
			心内膜
			心外膜
	(3) 脈管	A. 動脈 B. 静脈 C. 毛細血管 D. リンパ管	前負荷、後負荷、心拍出量

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
8 消化系	(4) 循環の制御	A. 自律神経系による制御 B. 内分泌系による制御	
	(1) 消化系の役割	A. 消化 B. 吸収 C. 排泄	
	(2) 口腔・咽頭	A. 口腔 B. 咽頭 C. 咀嚼 D. 嚥下	歯牙
	(3) 消化管	A. 食道 B. 胃 C. 十二指腸 D. 空腸、回腸 E. 結腸 F. 直腸、肛門	小腸 盲腸、虫垂、大腸
	(4) 肝臓・胆道系	A. 肝臓 B. 胆嚢、胆道	門脈
	(5) 膵臓 (6) 腹膜	A. 膵臓 A. 腹膜 B. 腸間膜	外分泌機能、内分泌機能
9 泌尿系	(1) 泌尿系の役割	A. 排泄と体液バランス	
	(2) 腎臓	A. 糸球体 B. 尿細管	
	(3) 尿路	A. 尿管 B. 膀胱 C. 尿道	
10 生殖系	(1) 男性生殖器	A. 陰茎 B. 精巣 C. 前立腺 D. 精液	精巣上体、陰嚢
	(2) 女性生殖器	A. 外性器 B. 膣 C. 子宮 D. 卵管 E. 卵巣 F. 性周期	卵巣・子宮内膜の変化、性周期とホルモン
11 内分泌系	(1) 内分泌系の役割	A. 内分泌の概念 B. 血糖の調節	外分泌 インスリン、グルカゴン
	(2) 内分泌器官	A. 下垂体 B. 甲状腺 C. 副甲状腺 D. 膵臓 E. 副腎	下垂体前葉、下垂体後葉 ランゲルハンス島 副腎皮質、副腎髄質

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
12 血液・免疫系	(1) 血液の役割 (2) 血球 (3) 造血 (4) 血漿の役割 (5) 止血のしくみ (6) 免疫系の役割	F. 精巣と卵巣 A. 血液の役割 A. 赤血球 B. 白血球 C. 血小板 A. 血球の産生と分化 B. 骨髄 C. 脾臓 D. 胸腺 A. 血漿の成分と機能 A. 一次止血 B. 二次止血 C. 凝固 D. 線溶 A. 免疫の役割 B. 免疫の種類 C. 液性免疫 D. 細胞性免疫	リンパ球 幹細胞 アルブミン フィブリノゲン プラスミノゲン ワクチン 自然免疫、獲得免疫、能動免疫、 受動免疫 免疫グロブリン
13 筋・骨格系	(1) 分類 (2) 骨 (3) 関節 (4) 靱帯と腱	A. 種類 B. 筋収縮 C. 主な骨格筋 A. 骨と骨髄 B. 主要な骨 A. 関節のしくみ B. 主要な関節 A. 靱帯 B. 腱	横紋筋、平滑筋、心筋 筋線維、アクトミオシン
14 皮膚系	(1) 皮膚系	A. 皮膚の役割 B. 皮膚の構造 C. 皮膚付属器の構造	知覚、防御機能、体温調節機能 表皮、真皮、皮下組織 毛髪、爪、汗腺、脂腺、立毛筋

Ⅱ 疾患の成り立ちと回復の過程

救急救命士として理解しておくべき、疾患の成り立ちと回復の過程及び死の概念と死体現象に関わる基礎知識について問う。

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
1 疾患	(1) 原因	A. 主因と誘因 B. 内因と外因 C. 遺伝性と孤発性 D. 先天性と後天性 E. 心とからだの関連	リハビリテーション、看護、栄養管理 一次予防、二次予防、三次予防 危険因子
	(2) 発症と経過	A. 急性、亜急性と慢性 B. 進行と増悪 C. 続発症と合併症	
	(3) 回復	A. 原因治療 B. 対症療法 C. 回復への支援	
	(4) 予防	A. 予防医学 B. 生活習慣病	
2 臓器と組織の変化	(1) 炎症	A. 定義 B. 原因 C. 局所の変化 D. 全身への影響	生物学的因子、物理学的因子、化学的因子
	(2) 循環障害	A. 虚血 B. うっ血 C. 出血 D. 血栓 E. 塞栓 F. 梗塞 G. 浮腫	
	(3) 代謝障害	A. 酸塩基平衡障害 B. その他の代謝障害	アシドーシス、アルカローシス
	(4) 退行性病変	A. 壊死 B. その他の退行性病変	アポトーシス、変性、萎縮
	(5) 腫瘍	A. 定義と分類 B. 性質 C. 発癌 D. 癌による末期状態	良性と悪性、進展と増殖、再発と転移 発癌のしくみ、発癌性物質
	(6) 先天異常	A. 遺伝的要因と環境的要因 B. 主な疾患	ダウン症候群、ターナー症候群、フェニルケトン尿症、マルファン症候群、先天性風疹症候群
	(7) 損傷	A. 損傷の原因 B. 創傷の治癒 C. 骨折の治癒	異常温度、化学物質、電気、放射線 一次治癒、二次治癒、瘢痕、ケロイド

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
3 感染	(1) 微生物	A. ウイルス B. 細菌 C. 真菌 D. 寄生虫 E. その他	プリオン
	(2) 感染の成り立ち	A. 感染と感染症 B. 毒素	顕性感染、不顕性感染 外毒素、内毒素
	(3) 感染経路	A. 飛沫感染 B. 空気感染 C. 接触感染 D. 経口感染 E. 垂直感染と水平感染	
	(4) 特別な感染	A. 日和見感染	特徴と代表的疾患
4 死	(1) 死の概念	A. 心臓死 B. 脳死	心臓死の三徴候、不搬送 法的脳死判定
	(2) 死体現象	A. 早期死体現象 B. 晚期死体現象	
	(3) 死因の推定	A. 検視と検案 B. 死因の種類 C. 死亡診断書	異状死体 死体検案書

Ⅲ 健康と社会保障

救急救命士として理解しておくべき、保健医療制度、社会保障制度、社会福祉制度に関わる基礎知識について問う。

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
1 保健医療制度の仕組みと現状	(1) 医療を取り巻く環境	A. 人口構造の変化 B. 疾病構造の変化	少子化、高齢化、地域包括ケアシステム 死因、平均寿命、健康寿命
	(2) 医療提供体制	A. 保健医療従事者 B. 医療機関 C. 医療計画	病院、診療所、病床 5 疾病・6 事業及び在宅医療、医療圏
	(3) 公衆衛生の仕組み	A. 公衆衛生の定義 B. 保健指標 C. 公衆衛生の関係行政	保健所（市町村保健センター）、国際保健 食中毒 環境基準
	(4) 環境保健の仕組み	A. 食品衛生 B. 公害と環境	
	(5) 労働衛生の仕組み	A. 労働災害 B. 労働災害事故と関連疾患	
	(6) 学校保健の仕組み	A. 学校保健管理 B. 学童の事故と疾病	
	(7) 母子保健の仕組み	A. 母子保健指標 B. 母子保健指導 C. 周産期医療体制	出生、妊産婦死亡、新生児死亡、乳児死亡 母子健康手帳
	(8) 高齢者を支える仕組み	A. 高齢者保健事業	
	(9) 地域保健の仕組み	A. 健康増進	生活習慣病
	(10) 精神保健福祉の仕組み	A. 入院形態 B. 人権擁護 C. 関連施設	措置入院、医療保護入院、緊急措置入院、応急入院 精神保健指定医
2 社会保障・社会福祉を支える仕組み	(1) 社会保障・社会福祉の仕組み	A. 社会保障、社会福祉の理念 B. 関係行政組織 C. 関連施設 D. 社会保障の費用	国家扶助 福祉事務所 社会福祉施設 国民医療費、社会保障給付費と国民負担率
	(2) 社会保障と制度	A. 社会保険制度の理念 B. 医療保険制度 C. 介護保険制度 D. 年金制度	要介護認定、サービスの種類・施設、介護支援専門員（ケアマネジャー）
	(3) 社会福祉と制度	A. 生活保護 B. 児童福祉 C. 知的・身体障害者福祉 D. 高齢者福祉 E. 虐待防止	医療扶助 障害者手帳 児童虐待、高齢者虐待、配偶者からの暴力（DV）

專 門 分 野

I 救急医学概論

救急救命士として理解しておくべき、病院前医療、救急救命処置等に関わる基本的な医学知識について問う。

A 病院前医療概論

医療従事者に必要な生命倫理と医の倫理、救急医療体制やメディカルコントロール体制及び災害医療体制についての基本的な知識について問う。また、救急活動の流れ、救急活動に必要な法令、コミュニケーション、安全管理と事故対応、感染対策、ストレス対策等についての基本的な知識について問う。

大項目	中項目	小項目	備考
1 生命倫理と医の倫理	(1) 生命倫理の原則と医の倫理の沿革	A. 生命倫理に関する原則 B. ヒポクラテスの誓い C. ジュネーブ宣言 D. ヘルシンキ宣言 E. リスボン宣言	自律の尊重、善行の原則、無危害の原則、公正・正義の原則
	(2) 患者の権利	A. インフォームドコンセント B. 意識のない患者の権利 C. 法的に無能力な患者の権利 D. 患者の意思に反する処置 E. QOL＜生活の質＞ F. リビングウィル G. 臓器提供	アドバンス・ケア・プランニング(ACP)、生前意思表示、DNAR 臓器移植、脳死
2 救急医療体制	(1) 病院前医療	A. 救急搬送システム B. 救急救命士の役割 C. ドクターヘリ D. ドクターカー	救急統計、搬送手段、救急・救助の現況
	(2) 医療計画と救急医療体制	A. 医療計画上の救急医療体制の位置付け B. 周産期医療体制 C. 精神科救急医療体制 D. 小児救急医療体制 E. 地域包括ケア	救急医療体制の沿革 周産期母子医療センター、周産期医療情報センター 精神科救急情報センター 小児救急電話相談
	(3) 救急医療機関	A. 救急告示医療機関 B. 初期救急医療機関 C. 二次救急医療機関 D. 三次救急医療機関	在宅当番医、休日・夜間急患センター 病院群輪番制、共同利用型病院 救命救急センター、高度救命救急センター
	(4) 救急医療情報	A. 救急医療情報センター	情報端末を用いた救急搬送システム
3 救命の連鎖と市民教育	(1) 救命の連鎖	A. 救命の連鎖の意義 B. 各要素の意味	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
4 メディカルコントロール体制	(2) 市民による一次救命処置 (BLS)	A. 一次救命処置の手法 B. 一次救命処置の手順	乳児、小児、成人 アルゴリズム
	(3) 市民教育	A. その他の応急手当 B. 応急手当講習	予防、異物除去、止血、PAD
	(1) 概念	A. メディカルコントロールの役割 B. 具体的指示と包括的指示 C. PDCA サイクル	医療と消防の連携、コア業務 診療の補助
	(2) メディカルコントロール協議会	A. メディカルコントロール協議会の役割 B. メディカルコントロール協議会の種類	救急医療体制 全国メディカルコントロール協議会連絡会、都道府県メディカルコントロール協議会、地域メディカルコントロール協議会、構成員
5 救急救命士に関連する法令	(3) メディカルコントロール業務	A. プロトコール策定 B. 指示、指導・助言 C. 事後検証 D. 教育	オフラインメディカルコントロール オンラインメディカルコントロール
	(1) 法令の基本	A. 倫理と法律	法律、政令、省令、告示、通知
	(2) 救急救命士法	A. 法の制定と目的 B. 国家資格としての救急救命士 C. 救急救命士の業務 D. 救急救命処置の定義 E. 特定行為 F. 義務 G. 罰則	名称の独占、業務の独占 業務を行う場所 診療の補助、救急救命処置の範囲、救急救命処置の変遷 医師の具体的指示 守秘義務、救急救命処置録
	(3) 医師法	A. 医師法の概要	医業の独占
	(4) 保健師助産師看護師法	A. 保健師助産師看護師法の概要	診療の補助
	(5) 消防法	A. 救急業務の沿革 B. 消防法と救急業務 C. 搬送・受入れの実施基準	消防法による法制化 救急隊員、救急自動車、応急処置
	(6) 医療法	A. 医療法の概要	
	(7) その他の法令	A. 死亡者に関する法令 B. 精神障害者に関する法令 C. 酩酊者に関する法令	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
6 救急救命士の養成と生涯教育	(1) 救急救命士の養成 (2) 救急救命士の生涯教育 (3) 病院実習	D. 行旅病人、生活保護適用患者に関する法令 E. 麻薬中毒者等に関する法令 A. 救急救命士の養成課程 A. 職場での自己研鑽 B. 職場以外での生涯教育 C. 科学的思考の醸成 A. 病院実習の目的 B. 病院実習が行われる場所 C. 救急ワークステーション D. 病院実習の記録	受験資格 病院実習、事後検証会、追加講習 EBM の意味、統計の意義、学会発表 病院実習ガイドライン、インフォームドコンセントの理解 救急外来、病棟、手術室、カンファランス
7 消防機関における救急活動の流れ	(1) 119 番受信と口頭指導 (2) 現場到着までの活動 (3) 現場活動 (4) 医療機関の選定と搬送 (5) 通信体制 (6) 救急活動の記録 (7) 他の関係機関との連携	A. 119 番受信と出動指令 B. 口頭指導 A. 出動 A. 状況評価 B. 傷病者観察 C. 緊急度・重症度の判断 D. 救急救命処置の実施 A. 医療機関の選定 B. 搬送 C. 医師への引き継ぎ A. 現場活動と通信 A. 救急活動記録票 B. 救急救命処置録 C. 事後検証票 D. ウツタイン様式 A. 医療機関 B. 警察 C. 福祉事務所 D. 保健所	通信指令員の役割、PA 連携、医師要請、緊急度判定 出動経路の確認、資器材準備 安全確認と二次災害の防止、感染防止対策、傷病者数の把握、受傷機転・発症状況の把握、応援要請 初期評価、全身観察 緊急度・重症度分類 搬送・受入れの実施基準 車内活動、継続観察 応援要請、指示要請、助言要請、現場報告、病院連絡 救急・救助の現況 救急蘇生統計
8 コミュニケーションと問診	(1) 接遇とコミュニケーションの種類	A. 接遇 B. 言語コミュニケーション	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
9 安全管理と事故対応	(2) 対象に応じたコミュニケーション	C. 非言語コミュニケーション	指示助言要請、搬送先医療機関
		A. 高齢者 B. 小児 C. 家族、関係者 D. 医師 E. 救急隊員や消防隊員	
	(3) 問診	A. 問診の意義 B. 主訴 C. 現病歴 D. 既往歴 E. 服用薬 F. アレルギー G. 家族歴・社会歴	医療機関におけるインフォームド コンセントとの違い 心停止前の重度傷病者に対する特 定行為のインフォームドコンセ ント 心停止傷病者の処置の説明、イン フォームドコンセントが成立しな い場合の対応
		A. 救急活動での説明 と同意 B. 意識のある傷病者 への対応 C. 意識のない傷病者 への対応 D. 生前意思表示への 対応	
	(4) 救急活動での インフォーム ドコンセント	A. 救急活動での説明 と同意 B. 意識のある傷病者 への対応 C. 意識のない傷病者 への対応 D. 生前意思表示への 対応	
		A. 救急活動での説明 と同意 B. 意識のある傷病者 への対応 C. 意識のない傷病者 への対応 D. 生前意思表示への 対応	
	(1) リスクマネー ジメント	A. ヒューマンエラー B. インシデントとア クシデント C. ハインリッヒの法 則	ヒヤリハット
		A. ヒューマンエラー B. インシデントとア クシデント C. ハインリッヒの法 則	
	(2) 傷病者への事 故	A. 転倒・転落 B. チューブ・カテー テル類の事故 C. 誤嚥 D. 感染	
		A. 転倒・転落 B. チューブ・カテー テル類の事故 C. 誤嚥 D. 感染	
	(3) 救急救命士等 への事故	A. 活動中の事故予防 B. 暴言・暴力への対 応	
		A. 活動中の事故予防 B. 暴言・暴力への対 応	
	(4) 医療事故と医 療過誤	A. 医療事故 B. 医療過誤	
		A. 医療事故 B. 医療過誤	
10 感染対策	(5) 救急活動にお ける事故の報 告と対応	A. 事故の報告 B. 事故の検証	感染経路別予防策 結核、麻疹、水痘
		A. 事故の報告 B. 事故の検証	
10 感染対策	(1) 感染予防策と 感染防御	A. 感染予防策の意義 B. 標準予防策（スタ ンダードプリコー ション） C. 空気感染予防策 D. 飛沫感染予防策	感染経路別予防策 結核、麻疹、水痘
		A. 感染予防策の意義 B. 標準予防策（スタ ンダードプリコー ション） C. 空気感染予防策 D. 飛沫感染予防策	
		A. 感染予防策の意義 B. 標準予防策（スタ ンダードプリコー ション） C. 空気感染予防策 D. 飛沫感染予防策	
		A. 感染予防策の意義 B. 標準予防策（スタ ンダードプリコー ション） C. 空気感染予防策 D. 飛沫感染予防策	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
11 ストレス対策	(2) 洗浄と消毒	E. 接触感染予防策 F. 救急活動での感染防御	多剤耐性菌 手指衛生、感染防止器具、体液、咳、感染性廃棄物
		A. 滅菌、消毒、洗浄 B. 資器材 C. 救急車内	清潔と不潔 洗浄方法、消毒薬と消毒方法 清拭方法、消毒薬と消毒方法
	(3) 感染事故と事故後の対応	A. 感染事故と対策 B. 感染事故後の対応	針刺し事故、新型インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、結核、疥癬、感染症法 報告、検査、治療、結核、HCV、HBV、HIV
	(1) 救急活動でのストレス	A. ストレスの概念 B. ストレス反応 C. ストレス障害	惨事ストレス 急性ストレス障害、PTSD <心的外傷後ストレス障害>
12 災害医療体制	(2) 救急活動でのストレスへの対応	A. ストレス耐性 B. 環境整備と相談窓口 C. ストレス対応	デフュージング、デブリーフィング
	(1) 災害の概念	A. 災害の定義 B. 災害の分類 C. 主な災害事例	
	(2) 多数傷病者対応	A. CSCATTT B. 先着隊の活動 C. 指揮命令と連絡調整 D. 安全管理 E. 情報伝達 F. 評価 G. 現場救護所と救護活動 H. 搬送 I. マスギャザリングへの対応	3S、ゾーニング、PPE <個人防護具>
	(3) トリアージ	A. トリアージの概念 B. 一次トリアージ C. 二次トリアージ	トリアージタグ START 法 PAT 法
	(4) 大規模災害	A. 災害医療対策の法的骨格 B. 災害拠点病院 C. DMAT<災害派遣医療チーム> D. 緊急消防援助隊 E. 広域医療搬送 F. 発災後の経時的医療ニーズの推移 G. 要配慮者への対応	災害救助法、災害対策基本法、防災基本計画 JMAT SCU

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	(5) 特殊災害	H. 他機関との連携 I. 情報通信対策 A. CBRNE 災害	医療機関、警察、自衛隊、海上保安庁、医師会、保健所、地方自治体 EMIS <広域災害救急医療情報システム> ゾーニング、スクリーニング

B 救急救命処置概論

救急救命士が現場で行う観察及び処置、資器材の目的、適応や使用法等、救急蘇生法、緊急度・重症度判断に関わる基本的な知識について問う。

大項目	中項目	小項目	備考
1 観察の基本	(1) 観察の目的と意義 (2) バイタルサイン (3) 観察の方法	A. 傷病者観察の目的と意義 A. 呼吸 B. 脈拍 C. 血圧 D. 体温 E. 意識 A. 問診 B. 視診 C. 聴診 D. 触診 E. 打診	呼吸数 頻脈、徐脈 血圧を規定する因子 体温測定部位 意識レベル (JCS、GCS) 主訴、現病歴、既往歴、服用薬、アレルギー 呼吸音、心音、腸雑音 動揺、圧痛、皮下気腫、嚙音、浮腫 鼓音、濁音
2 現場活動の基本	(1) 状況評価 (2) 初期評価 (3) 全身観察と重点観察 (4) 判断と処置 (5) 緊急度・重症度の判断と医療機関の選定 (6) 搬送と車内活動	A. 感染防御 B. 携行資器材の確認 C. 安全確認と二次災害防止 D. 受傷機転・発症状況の確認 E. 傷病者数の確認 A. 呼吸 B. 脈拍 C. 血圧 D. 意識 A. 全身観察 B. 重点観察 A. 判断 B. 処置 A. 緊急度・重症度の判断 B. 医療機関の選定 A. 搬送 B. 継続観察 C. 詳細観察	
3 全身状態の観察	(1) 外見の観察 (2) 気道に関する観察	A. 体位 B. 四肢の変形 C. 顔貌、顔色、表情 D. 皮膚 E. 失禁 F. 嘔吐 G. 冷汗 H. 外出血 A. 気道開通と閉塞	色調、乾燥、湿潤、熱感 陥没呼吸、シーソー呼吸、気道狭窄音

大項目	中項目	小項目	備考
4 局所の観察	(3) 呼吸に関する観察	A. 呼吸の有無 B. 呼吸の性状	死戦期呼吸 呼吸パターン、呼吸補助筋、腹式呼吸、呼気延長
	(4) 循環に関する観察	A. 脈拍の有無 B. 脈拍の性状と様式 C. 血圧	触知部位 緊張、調律 左右差
	(5) 神経に関する観察	A. JCS B. GCS C. 運動機能	除脳肢位、除皮質肢位 バレー徴候、ドロッピングテスト、バビンスキー反射、徒手筋力テスト
		D. 知覚	半側空間無視
	(1) 皮膚	A. 色調と温度、乾燥 B. 発汗 C. 出血斑 D. 発疹 E. 浮腫	チアノーゼ、黄疸、蒼白、紅潮、冷感、熱感 冷汗
	(2) 頭部・顔面・頸部	A. 顔面の左右差 B. 瞳孔 C. 眼位 D. 眼球・眼瞼結膜 E. 出血斑 F. 呼気臭 G. 項部硬直 H. 外頸静脈怒張 I. 気管偏位 J. 皮下気腫 K. 呼吸補助筋 L. 腫脹 M. 変形 N. 髄液漏 O. 視覚 P. 聴覚	瞳孔不同、散瞳、縮瞳、対光反射 共同偏視 黄染、蒼白、点状出血 パンダの眼徴候、バトル徴候 アセトン臭、肝性口臭、アルコール臭
	(3) 胸部	A. 外見 B. 胸郭運動 C. 呼吸音 D. 心音 E. 皮下気腫	握雪感 努力呼吸 ダブルリングサイン 複視、視野異常、半盲 難聴 鳩胸、漏斗胸、ビール樽状胸郭、亀背 シーソー呼吸、奇異呼吸、陥没呼吸
	(4) 腹部	A. 腹壁 B. 腹膜刺激症候 C. 腸雑音 D. 拍動性腫瘤	連続性ラ音、断続性ラ音、喘鳴、左右差 握雪感 腹部膨満、腹壁静脈怒張 筋性防御、反跳痛
	(5) 鼠径部・会陰部	A. ヘルニア B. 性器出血 C. 陰茎持続勃起	

大項目	中項目	小項目	備考
5 緊急度・重症度の判断	(6) 骨盤 (7) 四肢	D. 尿色調異常 A. 骨盤骨折 A. 運動障害	血尿、ミオグロビン尿、膿尿 骨盤動揺 単麻痺、対麻痺、片麻痺、四肢麻痺、 交叉性片麻痺 神経の支配領域 指圧痕
		B. 感覚障害 C. 浮腫 D. 腫脹 E. 変形 F. 動脈拍動 G. 下肢長差 H. 関節可動域制限	
	(8) 手指、足趾、爪	A. 変形、腫脹、色調、潰瘍 B. 爪床圧迫テスト	拘縮 ばち指 毛細血管再充満時間
	(1) 緊急度と重症度	A. 緊急度と重症度の概念 B. 判断の目的	
	(2) 判断の基準	A. 緊急度と重症度の分類 B. 生理学的評価 C. アンダートリージとオーバートリージ	緊急、準緊急、低緊急、非緊急 (総務省消防庁緊急度判定プロトコル) 軽症、中等症、重症、重篤、死亡 意識レベル、呼吸、脈拍、血圧、 皮膚所見
6 資器材による観察	(1) パルスオキシメータ	A. 目的 B. 適応 C. 構造と原理 D. 方法 E. 評価 F. 注意点	
	(2) カプノメータ	A. 目的 B. 適応 C. 構造と原理 D. 方法 E. 評価 F. 注意点	一酸化炭素中毒、末梢循環不全 PETCO ₂ <呼気終末二酸化炭素分圧>
	(3) 聴診器	A. 目的 B. 適応 C. 構造 D. 方法 E. 評価 F. 注意点	食道挿管、チューブ閉塞
	(4) 血圧計	A. 目的 B. 適応 C. 種類と原理 D. 方法 E. 評価	アネロイド血圧計、自動血圧計、 コロトコフ音、オシロメトリック法 触診法、聴診法

大項目	中項目	小項目	備考
7 救急救命士が行う処置	(5) 心電図モニターと心電図伝送	F. 注意点 A. 目的 B. 適応 C. 種類と原理 D. 心電図の基礎	12 誘導心電図 P波、QRS波、PQ間隔、T波、ST、QT間隔、基線、心拍数
		E. 方法 F. 評価 G. 注意点 H. 心電図伝送	
	(6) 体温計	A. 目的 B. 適応 C. 種類と原理 D. 方法 E. 評価 F. 注意点	腋窩温、鼓膜温
	(7) 血糖測定器	A. 目的 B. 適応 C. 構造と原理 D. 資器材の準備 E. 方法 F. 評価 G. 注意点	採血用穿刺器具
			感染防止
	(1) 用手的気道確保	A. 目的 B. 適応 C. 方法と手順 D. 評価 E. 注意点	頭部後屈あご先挙上法、下顎挙上法、修正下顎挙上法、下顎引上げ法、トリプルエアウエイマニユーバ
	(2) エアウエイを用いた気道確保	A. 目的 B. 適応 C. 方法と手順 D. 評価 E. 注意点	経口（口咽頭）エアウエイ、経鼻（鼻咽頭）エアウエイ
	(3) 用手的気道異物除去	A. 目的 B. 適応 C. 方法と手順 D. 評価 E. 注意点	背部叩打法、腹部突き上げ法、フィンガースweep
	(4) 器具による気道異物除去	A. 目的 B. 適応 C. 方法と手順 D. 評価 E. 注意点	喉頭鏡、マギール鉗子
	(5) 口腔内の吸引	A. 目的 B. 方法と手順 C. 適応	手動吸引器、電動吸引器

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	(6) 声門上気道デバイスを用いた気道確保	D. 評価 E. 注意点 A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備	ラリngeアルマスク、食道閉鎖式エアウェイ 標準プロトコール
	(7) 気管挿管	D. 方法と手順 E. 注意点 A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順 E. 評価 F. 合併症 G. 注意点 H. 気管挿管困難症への対応	喉頭鏡、気管内チューブ 標準プロトコール
	(8) ビデオ硬性挿管用喉頭鏡	A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順 E. 評価 F. 合併症 G. 注意点	事前評価、コーマック分類、実施困難例
	(9) 気管吸引	A. 目的 B. 方法と手順 C. 適応 D. 評価 E. 注意点	
	(10)酸素投与	A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順	酸素ボンベ、減圧装置 鼻カニューレ、フェイスマスク、リザーバ付きフェイスマスク、ベンチュリーマスク、デマンドバルブ
	(11)人工呼吸	E. 評価 F. 注意点 A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順	バッグ・バルブ・マスク、自動式人工呼吸器、手動トリガー式人工呼吸器 呼気吹き込み人工呼吸、バッグ・バルブ・マスク人工呼吸（EC法、母指球法）、自動式人工呼吸器、手動トリガー式人工呼吸器
	(12)胸骨圧迫	E. 評価 F. 注意点 A. 目的 B. 適応	

大項目	中項目	小項目	備考
		C. 方法と手順 D. 評価 E. 合併症 F. 注意点	成人、小児、乳児
	(13) 自動式心マッサージ器の使用	A. 種類と構造 B. 目的 C. 適応 D. 方法と手順 E. 評価 F. 合併症 G. 注意点	
	(14) 除細動	A. 除細動器の分類 B. 目的 C. 適応 D. 方法と手順 E. 評価 F. 注意点	
	(15) 静脈路確保	A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順 E. 評価 F. 合併症 G. 注意点	標準プロトコール
	(16) 心停止傷病者へのアドレナリン投与	A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順 E. 評価 F. 合併症 G. 注意点	標準プロトコール
	(17) 輸液	A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順 E. 評価 F. 合併症 G. 注意点	標準プロトコール
	(18) ブドウ糖の投与	A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順 E. 評価 F. 合併症 G. 注意点	標準プロトコール
	(19) 自己注射用アドレナリン	A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順 E. 評価 F. 合併症	標準プロトコール

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
8 救急蘇生法	(20)体位管理	G. 注意点 A. 目的 B. 適応	仰臥位、起坐位、半坐位（ファウラー位）、膝屈曲位、足側高位（ショック体位）、頭部高位（セミファウラー位）、側臥位（左側臥位、回復体位）、腹臥位
	(21)保温	C. 方法と手順 D. 評価 E. 注意点 A. 目的 B. 適応 C. 方法と手順 D. 評価 E. 注意点	
	(22)止血	A. 目的 B. 止血法の種類	直接圧迫止血法、止血点止血法、止血帯
	(23)創傷処置	C. 適応 D. 方法と手順 E. 評価 F. 注意点 A. 目的 B. 適応	開放性気胸、腸管脱出、切断指趾、熱傷
		C. 資器材の準備 D. 方法と手順 E. 評価 F. 注意点	被覆
	(24)固定	A. 目的 B. 種類と適応 C. 使用する資器材 D. 方法と手順 E. 評価 F. 注意点	四肢骨折・脱臼、脊椎運動制限（SMR）、頸椎固定、全身固定、穿通性異物、フレイルチェスト、股関節脱臼 副子、バックボード、頸椎カラー、スクープストレッチャー、ヘッドイモビライザー、ショックパンツ
	(25)産婦人科領域の処置	A. 目的 B. 適応 C. 資器材の準備 D. 方法と手順 E. 評価 F. 注意点	分娩介助、臍帯処置（臍帯結紮・切断）、胎盤処理、子宮輪状マッサージ、新生児への対応
	(1) 成人の救急蘇生法	A. ガイドライン B. 入電時の対応	口頭指導プロトコール

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
9 在宅療法継続中の傷病者の処置	(2) 小児の救急蘇生法	C. 救急隊員による一次救命処置 (BLS) D. 代表的プロトコール	心肺機能停止対応業務プロトコール、包括的指示下除細動プロトコール、器具を用いた気道確保プロトコール、薬剤投与プロトコール
		E. 医療機関での治療 A. 小児の特異性 B. ガイドライン C. 入電時の対応 D. 救急隊員による一次救命処置 (BLS) E. 代表的プロトコール	
	(3) 乳児の救急蘇生法	F. 医療機関での治療 A. 乳児の特異性 B. ガイドライン C. 入電時の対応 D. 救急隊員による一次救命処置 (BLS) E. 代表的プロトコール F. 医療機関での治療	
		A. 意義と目的 B. 対応 C. 医療機関との連携	
10 傷病者搬送	(2) 救急隊が対応する在宅療法	A. 在宅酸素療法 B. 在宅人工呼吸 C. 気管切開 D. 植込み型ペースメーカー E. 経管栄養 F. 中心静脈栄養 G. 血液透析 H. 腹膜透析 I. 導尿 J. 人工肛門	非侵襲的陽圧換気装置 気管カニューレ、永久気管瘻 植込み型除細動器
	(2) 搬送方法	A. 搬送の目的と意義 B. ボディメカニクス A. 徒手搬送 B. 器具を用いた搬送	
		C. 救急自動車への搬入と搬出 D. ヘリコプターへの搬入と搬出	
	(3) 救出方法	A. 事故車両からの救出	支持搬送、抱き上げ搬送、組手搬送、背負い搬送、緊急搬送 布担架（ターポリン担架）、バックボード、スクープストレッチャー、メインストレッチャー

C 必要な医学知識

救急救命士として理解しておくべき、医薬品の効果や副作用、放射線及び検査に関わる基本的な知識について問う。

大項目	中項目	小項目	備考
1 医薬品	(1) 薬物総論	A. 薬物の定義	特異的体質
		B. 薬物の分類	
		C. 医薬品の種類	
		D. 薬物の代謝	
		E. 投与経路とその特徴	
	(2) 薬物の有害作用	A. 有害反応の種類	アスピリン、ワルファリン
		B. 薬物アレルギー	
		C. アナフィラキシー反応	
		D. 薬物過量と薬物中毒	
	(3) 注意を要する常用薬	A. 経口血糖降下薬	ニトログリセリン
		B. インスリン	
		C. 抗血小板薬・抗凝固薬	
		D. 抗不整脈薬	
		E. 亜硝酸薬	
		F. 気管支拡張薬	
		G. 抗てんかん薬	
		H. 降圧薬	
		I. 副腎皮質ステロイド	
		J. 解熱鎮痛薬	
		K. 勃起不全治療薬	
	(4) 静脈内投与薬剤	A. 輸液製剤	血液型
		B. 血液製剤	
		C. 昇圧薬	
	(5) 救急救命処置に用いられる薬剤	A. 乳酸リンゲル液	
		B. アドレナリン	
		C. ブドウ糖	
	(6) 薬物の保存と保守管理	A. 法による規制	
		B. 品質確保のための保管	
2 検査	(1) 検査の目的と種類	A. 目的	検体検査、生理学的検査、画像検査
		B. 種類	
	(2) 緊急検査	A. 末梢血液検査	PaO ₂ <動脈血酸素分圧> PaCO ₂ <動脈血二酸化炭素分圧>
		B. 動脈血液ガス検査	
		C. 尿検査	
		D. 心電図検査	
		E. 単純X線検査	
		F. CT検査	
		G. 超音波検査	
		H. MRI <磁気共鳴画像>検査	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
3 放射線	(1) 放射線の概要	I. 血管撮影検査 J. 内視鏡検査	PCI＜経皮的冠インターベンション＞、TAE＜経皮的動脈塞栓術＞ 内視鏡的止血術
		A. 放射線と放射能 B. 種類と透過力	アルファ（ α ）線、ベータ（ β ）線、ガンマ（ γ ）線、エックス（X）線、中性子線
		C. 単位と線量	ベクレル（Bq）、シーベルト（Sv）、グレイ（Gy）
		D. 被ばくの種類	内部被ばく、外部被ばく
	(2) 人体への影響と主な障害	E. 汚染の種類	体表面汚染、創傷汚染、内部汚染
		A. 身体的影響	急性障害、晩発障害
		B. 遺伝的影響	遺伝障害
		C. 確定的影響	急性放射線症候群、白内障、皮膚障害、不妊
		D. 確率的影響	発癌、遺伝的影響

Ⅱ 救急症候・病態生理学

救急救命士として理解しておくべき、救急病態生理学と救急症候学に関わる基本的な知識について問う。

A 救急病態生理学

生命の危機にある重度傷病者の病態生理に関わる基本的な知識と、その適切な観察、判断、処置、搬送を行うために必要な知識について問う。

大項目	中項目	小項目	備考
1 呼吸不全	(1) 総論	A. 定義・概念 B. 基本的病態	急性、慢性、急性増悪 上気道閉塞、肺内シャント、死腔換気、換気血流比不均等、閉塞性換気障害、拘束性換気障害、混合性換気障害
		C. 呼吸仕事量 D. 生体への影響 E. 症候 F. 緊急度・重症度の判断	低酸素血症、高二酸化炭素血症
	(2) 呼吸運動の障害	A. 主な原因疾患	中毒、中枢性換気障害、頸髄損傷、ギラン・バレー症候群、神経筋疾患、胸壁の外傷、体幹全周性の熱傷
		B. 発症機序 C. 病態 D. 現場活動	
	(3) 気道の障害	A. 主な原因疾患	扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋炎、喉頭浮腫、気管支喘息、COPD＜慢性閉塞性肺疾患＞、気管支拡張症、気道異物
		B. 発症機序 C. 病態 D. 現場活動	
	(4) 肺胞の障害	A. 主な原因疾患	肺炎、気胸、肺水腫、無気肺、COPD＜慢性閉塞性肺疾患＞、ARDS＜急性呼吸促迫症候群＞
		B. 発症機序 C. 病態 D. 現場活動	
	(5) 肺間質の障害	A. 主な原因疾患 B. 発症機序 C. 病態 D. 現場活動	間質性肺炎、肺線維症
2 ショック	(1) 総論	A. 定義・概念 B. 分類 C. 病態 D. 観察 E. 鑑別 F. 緊急度・重症度の判断 G. 輸液	発症機序 代謝性アシドーシス、乳酸値上昇
			製剤の種類、投与手段、投与の速度と量の目安、効果の判定、合併症
	(2) 循環血液量減少性ショック	A. 発症機序 B. 循環動態の変化	出血量とバイタルサインの関係

大項目	中項目	小項目	備考
3 心不全	(3) 心原性ショック	C. 出血に対する生体の反応	自律神経、内分泌、代謝、血液凝固
		D. 出血後の体液変動	体液の移動、輸液の影響
		E. 原因疾患	出血、脱水
	(4) 心外閉塞・拘束性ショック	F. 症候	
		G. 現場活動	
		A. 発症機序	
	(5) 血液分布異常性ショック	B. 循環動態	
		C. 原因疾患	緊張性気胸、心タンポナーデ、肺血栓塞栓症
		D. 症候	
		E. 現場活動	
3 心不全	(1) 総論	A. 発症機序	アナフィラキシー、敗血症、脊髄損傷、血管迷走神経反射
		B. 循環動態	
		C. 原因疾患	
	(2) 病態生理	D. 症候	
		E. 現場活動	
		A. 定義・概念	虚血性心疾患、高血圧、弁疾患、心筋症
	(3) 症候	B. 原因	
		A. 心機能曲線	
		B. 神経・内分泌系の反応	
3 心不全	(4) 種類	C. 循環動態の変化	前負荷、後負荷、心収縮力、心拍数、心拍出量
		A. 組織低灌流による症候	
		B. うっ血による症候	泡沫状血痰
	(5) 急性増悪	A. 急性心不全	
		B. 慢性心不全	
		C. 左心不全	
	(6) 現場活動	D. 右心不全	
		E. うっ血性心不全	
		F. 高拍出性心不全	
4 重症脳障害	(1) 総論	A. 増悪因子	
		B. 経過と予後	
		A. 緊急度・重症度の判断	体位、酸素投与、モニタリング
	(2) 発症機序	B. 処置、搬送の要点	
		C. 医療機関選定	
		A. 定義・概念	
	(3) 症候	A. 脳血流の障害	
		B. 脳代謝の障害	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
5 心肺停止	(3) 一次性脳病変	C. 脳幹の障害 A. 概念 B. 発症機序	
	(4) 二次性脳病変	A. 概念 B. 発症機序	
	(5) 頭蓋内圧亢進	A. 頭蓋内圧に係わる因子 B. 頭蓋内の容積と圧の関係 C. 意識障害の発症機序 D. 症候 E. 現場活動	クッシング徴候
	(6) 脳ヘルニア	A. 種類 B. 症候 C. 経過と予後	発症機序 鉤回ヘルニア、中心性ヘルニア、大孔ヘルニア
	(7) 特殊な意識障害	A. 遷延性意識障害	
	(1) 総論	A. 定義・概念 B. 疫学 C. ウツタイン様式	心原性、CPC、OPC
	(2) 原因と病態	A. 不整脈による心肺停止 B. 低心拍出量による心肺停止 C. 呼吸不全による心肺停止 D. 生体酸素状況 E. 原因疾患	5H5T
	(3) 心電図分類	A. 心室細動 / 無脈性心室頻拍 B. 無脈性電気活動 C. 心静止	
	(4) 心肺蘇生中の循環	A. 循環発生の機序 B. 冠循環 C. 脳循環 D. 血管収縮薬の効果 E. 陽圧換気の影響 F. 胸骨圧迫の質	心臓ポンプ説、胸郭ポンプ説 過換気 深さ、テンポ、リコイル、中断
	(5) 心拍再開後の病態	A. 虚血 B. 再灌流障害 C. 障害臓器	脳、心臓、心停止後症候群

B 救急症候学

救急傷病者で重要疾患を鑑別するための症候に関わる基本的な知識と、その適切な観察、判断、処置、搬送を行うために必要な知識について問う。

大項目	中項目	小項目	備考
1 意識障害	(1) 原因疾患	A. 一次性脳病変	脳出血、脳梗塞、くも膜下出血、髄膜炎、脳炎、脳症、てんかん発作後、頭部外傷
		B. 二次性脳病変	低酸素血症、高二酸化炭素血症、ショック、高血糖、低血糖、肝不全、腎不全、電解質異常、甲状腺機能低下症、甲状腺クリーゼ、副腎発症（クリーゼ）、敗血症、悪性症候群、中毒、熱中症、低体温
	(2) 随伴症候	C. 一次性脳病変と二次性脳病変の鑑別	
		A. 頭痛	眼位、眼振、眼球彷徨、縮瞳、散瞳、瞳孔不同
		B. めまい	片麻痺、交叉性片麻痺、四肢麻痺
		C. 痙攣	除脳肢位、除皮質肢位
		D. 眼と瞳孔の異常	構音障害、運動失調、バビンスキー反射
		E. 運動麻痺	
		F. 異常肢位	
		G. その他の神経学的異常	
		H. 頭蓋内圧亢進症候	
		I. 脳ヘルニア徴候	
		J. 髄膜刺激症候	
		K. バイタルサインの異常	
	(3) 鑑別を要する病態	A. 失語	
		B. 昏迷状態	
		C. もうろう状態	
		D. 知能障害	
		E. 閉じ込め症候群	
	(4) 緊急度・重症度の判断	A. 意識レベル	
		B. 随伴症候	
		C. 原因疾患	
	(5) 現場活動	A. 観察	バイタルサイン、意識レベル、瞳孔、運動麻痺、血糖値
		B. 処置	気道確保、酸素投与、体位管理、ブドウ糖投与
		C. 医療機関選定	
2 頭痛	(1) 発症機序	A. 頭蓋内の要因	
		B. 頭蓋外の要因	
	(2) 分類	A. 機能性の頭痛と症候性の頭痛	一次性頭痛、二次性頭痛
	(3) 原因疾患	A. 機能性の頭痛	片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛
		B. 脳疾患	脳出血、脳梗塞、くも膜下出血、髄膜炎、脳炎、脳症、頭部外傷

大項目	中項目	小項目	備考
3 痙攣	(4) 発症の状況 (5) 頭痛の性状 (6) 随伴症候	C. 脳以外の疾患	急性緑内障発作、副鼻腔炎、低酸素血症、高二酸化炭素血症、一酸化炭素中毒
		A. 誘因 B. 前兆 C. 発症様式	閃輝暗点 突発性、急性、慢性
		A. 部位 B. 拍動性、非拍動性 C. 強さの経時的変化	
		A. 嘔吐 B. めまい C. 眼の症候	羞明、毛様充血、瞳孔異常、複視、視力・視野の障害 顔面紅潮、発汗、鼻汁、流涙
		D. 自律神経症状 E. 意識障害 F. 運動麻痺 G. 髄膜刺激症候 H. 頭蓋内圧亢進症候 I. その他の神経学的異常 J. バイタルサインの異常	構音障害、運動失調 発熱、血圧上昇
	(7) 緊急度・重症度の判断	A. 性状 B. 随伴症候 C. 原因疾患	
	(8) 現場活動	A. 観察 B. 処置 C. 医療機関選定	バイタルサイン、意識レベル、運動麻痺
	(1) 定義・概念 (2) 病態	A. 定義・概念 A. 発症機序 B. 脳に対する影響	てんかん 過剰放電による影響、呼吸・循環を介した影響
	(3) 種類	C. 全身に対する影響 A. 強直性痙攣 B. 間代性痙攣 C. ミオクローヌス	低酸素血症、混合性アシドーシス
	(4) 原因疾患	A. 脳疾患 B. 脳以外の疾患	脳出血、脳梗塞、くも膜下出血、髄膜炎、脳炎、脳症、脳腫瘍、心停止後症候群、てんかん、熱性痙攣、子癇、アルコール離脱、頭部外傷 低血糖、高浸透圧高血糖症候群、肝不全、腎不全、血清電解質異常、中毒、熱中症
	(5) 随伴症候	A. 前兆 B. 頭痛 C. 意識障害 D. 運動麻痺 E. チアノーゼ F. 失禁	トッド麻痺

大項目	中項目	小項目	備考
4 運動麻痺	(6) 鑑別を要する病態	G. 眼球上転 A. クランプ B. スパズム C. 不随意運動	重積状態
	(7) 緊急度・重症度の判断	A. 性状 B. 随伴症候 C. 原因疾患	
	(8) 現場活動	A. 痙攣中の対応 B. 痙攣後の対応	
	(1) 定義・概念	A. 定義・概念	大脳半球、脳幹、脊髄、末梢神経、 神経筋接合部、筋肉 完全麻痺、不全麻痺 単麻痺、片麻痺、交叉性片麻痺、 対麻痺、四肢麻痺 脳出血、脳梗塞、くも膜下出血、 一過性脳虚血発作、トッド麻痺、 頭部外傷 脊髄損傷、ギラン・バレー症候群、 末梢神経損傷、四肢の急性阻血、 神経筋疾患、コンパートメント症 候群、フグ中毒、ボツリヌス中毒 分布パターン
	(2) 発症機序	A. 障害部位	
	(3) 分類	A. 程度による分類 B. 分布による分類	
	(4) 原因疾患	A. 脳疾患 B. 脳以外の疾患	
	(5) 随伴症候	A. 感覚障害 B. 意識障害 C. 眼と瞳孔の異常 D. その他の神経学的異常 E. バイタルサインの異常	
	(6) 鑑別を要する病態	A. 運動失調 B. 疼痛による運動制限	
	(7) 緊急度・重症度の判断	A. 性状 B. 随伴症候 C. 原因疾患	
	(8) 現場活動	A. 観察 B. 処置	
	(1) 定義・概念	A. 定義・概念	
5 めまい	(2) 発症機序	A. 障害部位	
	(3) 分類	A. 性状による分類 B. 病変の部位による分類	前庭、半規管、視覚、深部感覚、 中枢神経 回転性、浮動性、失神性 末梢性、中枢性
	(4) 原因疾患	A. 末梢性めまい B. 中枢性めまい	良性発作性頭位めまい、メニエール病、 前庭神経炎、突発性難聴 椎骨脳底動脈循環不全、小脳・脳幹の梗塞または出血

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考	
6 呼吸困難	(5) 随伴症候	C. 失神性めまい	アダムス・ストークス症候群、急性大動脈解離、弁膜症、反射性失神、起立性低血圧、循環血液量減少	
		D. 末梢性めまいと中枢性めまいの鑑別		
		A. 蝸牛症状	難聴、耳鳴、耳閉塞感	
		B. 悪心・嘔吐		
		C. 頭痛		
		D. 意識障害		
		E. 眼振		
	(6) 緊急度・重症度の判断	F. 眼前暗黒感		
		G. その他の神経学的異常	複視、運動麻痺、運動失調、感覚障害、坐位保持困難、構音障害	
		A. 発症様式		
	(7) 現場活動	B. 随伴症候		
		C. 原因疾患		
		A. 観察	鼻指鼻試験	
	(1) 定義・概念	B. 処置		
		C. 医療機関選定		
		(2) 分類	A. 定義・概念	
A. 呼吸相との関係			吸気性、呼気性、混合性	
B. 程度による分類			労作時、安静時	
A. 呼吸系疾患			急性喉頭蓋炎、クループ、アナフィラキシー、気管支喘息、肺炎、肺水腫、気胸、肺血栓塞栓症、COPD <慢性閉塞性肺疾患>の増悪、ARDS <急性呼吸促迫症候群>	
B. 循環系疾患			心不全、心タンポナーデ	
C. 外因性疾患			気道異物、胸部外傷、中毒	
D. その他			代謝性アシドーシス、神経筋疾患、過換気症候群、貧血	
(4) 随伴症候			A. 胸痛	
			B. 喘鳴	吸気性、呼気性
			C. 咳・痰	
			D. 発熱	
			E. 意識障害	
			F. 起坐呼吸	
	G. 頸静脈怒張			
	H. ばち指			
	I. 下腿浮腫			
(5) 緊急度・重症度の判断	A. 性状			
	B. 随伴症候			
	C. 原因疾患			
(6) 現場活動	A. 観察	バイタルサイン、意識、SpO ₂ 、呼吸様式、呼吸音		
	B. 処置	体位、気道確保、酸素投与、補助換気		
7 咯血	(1) 定義	A. 定義		

大項目	中項目	小項目	備考
8 失神	(2) 咯血による影響	A. 呼吸への影響 B. 循環への影響	気管支拡張症、肺結核、肺癌、慢性気管支炎、肺血栓塞栓症 僧帽弁狭窄症、大動脈瘤破裂 気道異物、肺挫傷、気管・気管支損傷 出血傾向
	(3) 原因疾患	A. 呼吸系疾患 B. 循環系疾患 C. 外因性疾患 D. 全身性疾患	
	(4) 鑑別を要する病態	A. 吐血 B. 鼻出血	
	(5) 緊急度・重症度の判断	A. 呼吸状態 B. 咯血の程度	
	(6) 現場活動	A. 観察 B. 処置 C. 医療機関選定	
	(1) 定義・概念	A. 定義・概念	
	(2) 原因疾患	A. 起立性低血圧 B. 神経調節性失神 C. 心原性失神 D. その他	
	(3) 鑑別を要する病態	A. てんかん発作 B. くも膜下出血 C. 椎骨脳底動脈循環不全 D. 代謝性疾患 E. 解離性昏迷	
	(4) 緊急度・重症度の判断	A. 随伴症候 B. 原因疾患	
	(5) 現場活動	A. 観察 B. 処置 C. 医療機関選定	
9 胸痛	(1) 発症機序	A. 体性痛 B. 内臓痛 C. 関連痛	放散痛 急性冠症候群、心筋炎、心筋症、弁膜症 急性大動脈解離、大動脈瘤破裂、肺血栓塞栓症 気胸、胸膜炎 帯状疱疹、肋骨骨折 上腹部臓器疾患、心因性
	(2) 原因疾患	A. 心疾患 B. 血管疾患 C. 胸膜疾患 D. 食道疾患 E. 胸壁疾患 F. その他	
	(3) 緊急度・重症度の判断	A. 性状 B. 随伴症候	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
10 動悸	(4) 現場活動	C. 原因疾患 A. 観察 B. 処置 C. 医療機関選定	
	(1) 定義・概念	A. 定義・概念	
	(2) 原因疾患	A. 不整脈 B. 不整脈以外的心疾患 C. 全身性 D. その他	頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、心室期外収縮 虚血性心疾患、心不全、高血圧、弁膜症、心筋炎、心筋症、先天性心疾患 低血糖、発熱、貧血、甲状腺機能亢進症 薬剤性、嗜好品、心因性、生理的
	(3) 随伴症候	A. 失神 B. 胸痛 C. 発熱 D. 振戦	
	(4) 緊急度・重症度の判断	A. 随伴症候 B. 心電図所見 C. 原因疾患	
11 腹痛	(5) 現場活動	A. 観察 B. 処置 C. 医療機関選定	バイタルサイン、SpO ₂ 、心電図
	(1) 発症機序	A. 内臓痛 B. 体性痛 C. 関連痛	疝痛 放散痛
	(2) 原因疾患	A. 消化管の疾患 B. 肝臓・胆道・膵臓疾患 C. 泌尿・生殖系疾患 D. 血管疾患 E. 隣接部位等の疾患 F. 全身性疾患	胃・十二指腸潰瘍穿孔、急性胃粘膜病変、急性胃腸炎、イレウス、腸閉塞、急性虫垂炎、虚血性大腸炎、大腸穿孔、アニサキス症 胆石症、急性胆嚢炎、急性胆管炎、急性膵炎、肝癌破裂 尿管結石、卵巣嚢腫茎捻転、骨盤内感染症、異所性妊娠 腹部大動脈瘤、上腸間膜動脈閉塞症 急性冠症候群、精巣捻転症、带状疱疹 糖尿病ケトアシドーシス、アレルギー性紫斑病、副腎発症（クリーゼ）、鉛中毒
	(3) 部位	A. 各分画の代表的疾患	腹部9分画
	(4) 既往歴	A. 開腹手術 B. 大量飲酒 C. 心房細動	
	(5) 随伴症候	A. 悪心・嘔吐 B. 下痢 C. 吐血・下血	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
12 吐血・下血	(6) 緊急度・重症度の判断	D. 黄疸	食道静脈瘤破裂、マロリー・ワイス症候群、胃・十二指腸潰瘍、急性胃粘膜病変、胃癌 上部消化管出血、腸重積、腸管出血性大腸菌、虚血性大腸炎、潰瘍性大腸炎、大腸癌、痔核 コーヒー残渣様吐血、鮮紅色吐血 タール様便、赤黒色便、鮮血便、粘血便、膿粘血便、血性下痢 窒息、誤嚥、循環血液量減少、肝性脳症悪化
		A. 腹膜刺激症候 B. 随伴症候 C. 原因疾患	
	(7) 現場活動	A. 観察 B. 処置 C. 医療機関選定	
	(1) 定義・概念	A. 吐血の定義 B. 下血の定義 C. 出血部位	
	(2) 原因疾患	A. 吐血	
		B. 下血	
	(3) 病態	A. 吐血の性状 B. 下血の性状	
		C. 出血による影響	
	(4) 鑑別を要する病態	A. 咯血 B. 鼻出血、口腔内出血	
13 腰痛・背部痛	(5) 緊急度・重症度の判断	A. 性状 B. 随伴症候 C. 原因疾患	胃・十二指腸潰瘍穿孔、膵炎、胆石症、尿管結石、女性生殖器疾患 腹部大動脈瘤破裂、急性大動脈解離 急性腰痛症、腰椎椎間板ヘルニア、脊椎圧迫骨折、腰部脊柱管狭窄症
		A. 観察 B. 処置 C. 医療機関選定	
	(6) 現場活動		
	(1) 原因疾患	A. 内臓疾患 B. 血管疾患 C. 筋・骨格系疾患	
	(2) 緊急度・重症度の判断	A. 性状 B. 随伴症候 C. 原因疾患	
		A. 観察 B. 処置 C. 医療機関選定	
	(3) 現場活動		
14 体温上昇	(1) 定義・概念	A. 発熱の定義 B. 高体温の定義	
	(2) 発症機序	A. 発熱の機序 B. 高体温の機序	
		A. 生体機能に与える影響	
	(3) 病態		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	(4) 発熱の分類 (5) 原因疾患	A. 程度による分類 A. 感染症	微熱、高熱 脳炎、髄膜炎、インフルエンザ、肺炎、結核、急性上気道炎、急性扁桃炎、急性胆嚢炎、虫垂炎、腎盂腎炎、中耳炎、麻疹、突発性発疹
		B. その他の原因による発熱	腫瘍、膠原病、アレルギー、薬剤
	(6) 緊急度・重症度の判断	C. 高体温の原因疾患 A. 程度 B. 随伴症候 C. 原因疾患	熱中症、覚醒剤中毒、悪性症候群
	(7) 現場活動	A. 観察 B. 処置	体温管理

Ⅲ 疾病救急医学

緊急度・重症度が高い疾病を中心に、救急現場で遭遇しやすい疾病に関わる基本的な知識と、傷病者を適切に観察、判断、処置、搬送を行うために必要な知識について問う。

大項目	中項目	小項目	備考
1 神経系疾患	(1) 総論	A. 疫学 B. 主要症候 C. 基本的対応	意識障害、運動麻痺、運動失調、失語、構音障害、複視、振戦、感覚障害
	(2) 主な神経系疾患	A. 概要 B. 脳卒中	神経筋疾患 概念、疫学、病院前評価法
	(3) 脳血管障害	A. 脳梗塞 B. くも膜下出血 C. 脳出血 D. 一過性脳虚血発作	主幹動脈閉塞、血栓溶解療法、血栓回収療法 椎骨脳底動脈循環不全
	(4) 感染症	A. 髄膜炎 B. 脳炎	
	(5) てんかん	A. てんかん	症候性てんかん、てんかん大発作、外傷後後遺症、脳卒中後後遺症
	(6) 頭痛	A. 片頭痛 B. 緊張型頭痛	群発頭痛
	(7) その他の神経系疾患	A. パーキンソン病 B. 筋萎縮性側索硬化症 C. ギラン・バレー症候群 D. 糖尿病性ニューロパチー	パーキンソン症候群
2 呼吸系疾患	(1) 総論	A. 疫学 B. 主要症候 C. 基本的対応	咳嗽、喀痰、喀血、呼吸困難、胸痛
	(2) 主な呼吸系疾患	A. 概要	急性呼吸不全、慢性呼吸不全、CO ₂ ナルコーシス
	(3) 上気道の疾患	A. 急性喉頭蓋炎 B. 扁桃周囲膿瘍	急性扁桃炎
	(4) 下気道と肺胞の疾患	A. 気管支喘息 B. COPD＜慢性閉塞性肺疾患＞ C. 無気肺 D. 気管支拡張症	増悪、肺気腫、慢性気管支炎
	(5) 感染症	A. 肺炎 B. 肺結核 C. 急性上気道炎	市中肺炎、医療・介護関連肺炎、新型コロナウイルス感染症
	(6) 胸膜疾患	A. 気胸 B. 胸膜炎	自然気胸
	(7) その他の呼吸系疾患	A. 肺血栓塞栓症 B. 過換気症候群 C. ARDS＜急性呼吸促迫症候群＞ D. 間質性肺炎	肺線維症

大項目	中項目	小項目	備考
3 循環系疾患	(1) 総論	A. 疫学 B. 主要症候 C. 基本的対応	胸痛、呼吸困難、動悸、失神、アダムス・ストークス症候群、浮腫 心電図モニター
	(2) 主な循環系疾患	A. 概要 B. 急性冠症候群 C. 心電図の基本	
	(3) 虚血性心疾患	A. 心筋梗塞 B. 不安定狭心症 C. 安定狭心症	
	(4) 心不全	A. うっ血性心不全	非典型的症状、心電図変化、PCI ＜経皮的冠インターベンション＞ 冠攣縮性狭心症
	(5) 心筋疾患	A. 心筋炎	
	(6) 心膜疾患	A. 心タンポナーデ	心筋症 心破裂
	(7) 不整脈	A. 心臓突然死 B. 心室細動 C. 心室頻拍 D. 心房細動 E. 房室ブロック	
	(8) その他の心疾患	A. 感染性心内膜炎 B. 弁膜症 C. 先天性心疾患	心臓振盪、心室期外収縮、R on T、QT 延長症候群、トルサード・ポアンツ アダムス・ストークス症候群
	(9) 血管疾患	A. 急性大動脈解離 B. 大動脈瘤 C. 急性四肢動脈閉塞症 D. 深部静脈血栓症	
	(10) 高血圧症	A. 高血圧緊急症	大動脈瘤破裂 閉塞性動脈硬化症
4 消化系疾患	(1) 総論	A. 疫学 B. 主要症候 C. 基本的対応	腹痛、吐血、下血、下痢、黄疸、腹部膨満 腹膜刺激症候
	(2) 主な消化系疾患	A. 概要 B. 急性腹症	
	(3) 食道疾患	A. 食道静脈瘤 B. マロリー・ワイス症候群	食道静脈瘤破裂、肝硬変
	(4) 胃・十二指腸疾患	A. 胃・十二指腸潰瘍 B. 急性胃粘膜病変 C. 急性胃腸炎 D. アニサキス症	胃・十二指腸潰瘍穿孔、出血
	(5) 腸疾患	A. イレウス B. 上腸間膜動脈閉塞症 C. 急性虫垂炎 D. ヘルニア嵌頓 E. 大腸穿孔 F. 虚血性大腸炎	腸閉塞

大項目	中項目	小項目	備考
5 泌尿・生殖系疾患	(6) 腹膜疾患 (7) 肝臓・胆道・膵臓疾患	G. 潰瘍性大腸炎 H. 痔核 A. 急性腹膜炎 A. 急性肝炎 B. 肝硬変 C. 胆石症 D. 急性胆嚢炎・急性胆管炎 E. 急性膵炎	クローン病 肝不全、肝癌破裂
	(1) 総論	A. 疫学 B. 主要症候 C. 基本的対応 A. 概要	下腹部痛、乏尿、頻尿、血尿、膿尿、高熱、ショック
	(2) 主な泌尿・生殖系疾患		
	(3) 腎臓の疾患	A. 急性腎不全 B. 慢性腎不全	血液透析、腹膜透析
	(4) 尿路の疾患	A. 尿管結石 B. 急性腎盂腎炎 C. 膀胱炎	尿路結石
6 内分泌・代謝・栄養系疾患	(5) 女性生殖器の疾患	A. 卵巣嚢腫茎捻転 B. 骨盤内感染症	
	(6) 男性生殖器の疾患	A. 精巣捻転症	
	(1) 総論	A. 疫学 B. 主要症候 C. 基本的対応 A. 概要	容貌、体形、発汗、頻脈、徐脈、意識障害、ショック
	(2) 主な内分泌・代謝・栄養系疾患		
	(3) 糖尿病と低血糖	A. 糖尿病 B. 低血糖 C. 糖尿病ケトアシドーシス D. 高浸透圧高血糖症候群	病態、非薬物治療、薬物治療（経口血糖降下薬、インスリン）、慢性合併症、急性代謝失調、感染症 清涼飲料水症候群
	(4) その他の代謝疾患	A. 脱水 B. 電解質異常 C. 酸塩基平衡異常 D. 痛風	アシドーシス、アルカローシス 偽痛風
	(5) 内分泌疾患	A. 甲状腺機能亢進症 B. 甲状腺機能低下症 C. 副腎機能不全	甲状腺クリーゼ 粘液水腫性昏睡 副腎発症（クリーゼ）
	(6) 栄養疾患	A. 肥満 B. るいそう C. ビタミン欠乏症	メタボリックシンドローム

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
7 血液・免疫系疾患	(1) 総論	A. 疫学 B. 主要症候 C. 基本的対応	出血傾向
	(2) 主な血液・免疫系疾患	A. 概要	
	(3) 血液系疾患	A. 貧血 B. DIC <播種性血管内凝固症候群> C. 血友病 D. 薬剤の影響	
	(4) 免疫系疾患	A. アナフィラキシー B. アレルギー C. 膠原病	
8 筋・骨格系疾患	(1) 総論	A. 疫学 B. 主要症候 C. 基本的対応	腰痛、関節痛、運動麻痺
	(2) 脊椎疾患	A. 急性腰痛症 B. 椎間板ヘルニア C. 脊柱管狭窄症 D. 後縦靱帯骨化症	
	(3) 関節疾患	A. 化膿性関節炎 B. 変形性関節症	
	(4) 筋疾患	A. 重症筋無力症 B. 横紋筋融解症	
9 皮膚疾患	(1) 総論	A. 皮疹	抗血小板薬、抗凝固薬 食物依存性運動誘発アナフィラキシー、喉頭浮腫 食物アレルギー、薬剤アレルギー 全身性エリテマトーデス、関節リウマチ
	(2) 皮膚軟部組織の感染症	A. 壊死性筋膜炎 B. 蜂窩織炎	
	(3) アレルギー性疾患	A. 蕁麻疹 B. クイケン浮腫	
	(4) その他の皮膚疾患	A. 褥瘡	
10 眼・耳・鼻の疾患	(1) 総論	A. 眼に関する主要症候 B. 耳に関する主要症候	羞明、眼痛、視力低下、視野異常、半盲 難聴 急性緑内障発作
	(2) 眼の疾患	A. 緑内障 B. 網膜中心動脈閉塞症 C. 流行性角結膜炎 D. 白内障	
	(3) 耳の疾患	A. 良性発作性頭位めまい症 B. メニエール病 C. 前庭神経炎 D. 突発性難聴	
	(4) 鼻の疾患	A. 鼻出血	

大項目	中項目	小項目	備考
11 感染症	(1) 総論	B. 副鼻腔炎	季節性インフルエンザ、新型インフルエンザ、高病原性鳥インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症 ロタウイルス 黄色ブドウ球菌、ビブリオ、カンピロバクター、サルモネラ AIDS <後天性免疫不全症候群>
		A. 感染症法 B. 予防接種 C. 敗血症	
	(2) 結核・インフルエンザ	A. 結核 B. インフルエンザ	
	(3) 食中毒	A. ノロウイルス B. 腸管出血性大腸菌 C. その他の食中毒	
	(4) 輸入感染症	A. マラリア B. デング熱 C. アメーバ赤痢	
	(5) 発疹性感染症	A. 麻疹 B. 風疹 C. 水痘・带状疱疹	
	(6) 性感染症	A. ヒト免疫不全ウイルス	
12 小児と救急疾患	(1) 総論	A. 破傷風 B. ガス壊疽 C. 疥癬	スキャモンの発育型、パーセントイル、在胎週数、出生時体重 心拍数、呼吸数、年齢別正常値 好発年齢 熱性痙攣、痙攣重積 クループ RSウイルス感染症 代理人によるミュンヒハウゼン症候群
		A. 小児の発育	
		B. 小児の特徴 C. 基本的対応	
	(2) 神経系疾患	A. 痙攣 B. 髄膜炎 C. 脳炎、脳症	
	(3) 呼吸系疾患	A. 気管支喘息 B. 急性喉頭蓋炎 C. 急性細気管支炎	
	(4) 消化系疾患	A. 腸重積	
	(5) 感染症	A. 流行性耳下腺炎 B. 突発性発疹 C. 溶連菌感染症	
	(6) その他の疾患	A. 乳児突然死症候群 B. 被虐待児症候群	
		C. 溶血性尿毒症症候群	
		D. 川崎病	
13 高齢者と救急疾患	(1) 総論	A. 加齢と老化 B. 高齢者の特徴 C. 基本的対応	非典型的症状 中核症状、BPSD <周辺症状>
	(2) 高齢者に特有な疾患	A. 認知症 B. せん妄	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
14 妊娠・分娩と救急疾患	(1) 総論	C. 肺炎 D. 肺気腫 E. 脱水 F. 骨粗鬆症 G. 廃用症候群 H. 高齢者虐待	誤嚥性肺炎 熱中症 大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折
		A. 受精と着床 B. 妊娠 C. 正常分娩	妊娠時期、母体の変化 陣痛、分娩の進行、破水、排臨、 発露、胎盤娩出 車内分娩、自宅分娩
		D. 基本的対応 A. 妊娠と関連した疾患の特徴 B. 異所性妊娠 C. 子癇 D. 流産・早産 E. 常位胎盤早期剝離 F. 前置胎盤	妊娠高血圧症候群 切迫流産、切迫早産
15 精神障害	(1) 総論	A. 弛緩出血 B. 骨盤位分娩 C. 子宮破裂 D. 羊水塞栓 E. 新生児仮死	NCPR <新生児蘇生法>、アプガースコア
		A. 疫学 B. 主要症候	せん妄、精神運動興奮、昏迷、幻覚・妄想、躁、抑うつ、不安・パニック
		C. 基本的対応	自殺企図、他害行為、精神運動興奮
	(2) 主な精神障害	A. 統合失調症 B. 気分障害 C. 器質性精神障害 D. 中毒性精神障害 E. その他の精神障害	うつ病、双極性障害 認知症 アルコール、規制薬物、依存症 不安障害（パニック障害）、急性ストレス障害、PTSD <心的外傷後ストレス障害>、解離性（転換性）障害、摂食障害、パーソナリティ障害、知的障害、自閉症スペクトラム障害 悪性症候群
		F. 抗精神病薬の副作用	

IV 外傷救急医学

救急救命士として理解しておくべき、外傷に関わる基本的な知識と、外傷傷病者を適切に観察、判断、処置、搬送を行うために必要な知識について問う。

大項目	中項目	小項目	備考
1 外傷総論	(1) 外傷の定義と分類	A. 定義 B. 分類 C. 単独外傷 D. 多発外傷	損傷部位、受傷機転
	(2) 外傷の疫学	A. 外傷死 B. 診療 C. 救急搬送	PTD <防ぎえた外傷死>
	(3) 受傷機転	A. 外傷と運動力学 B. 高エネルギー外傷 C. 鈍的外傷 D. 鋭的外傷 E. 外力の種類 F. 四輪車の外傷 G. 自動二輪車の外傷 H. 自転車の外傷 I. 歩行者の外傷 J. 墜落と転落による外傷 K. 重量物落下による外傷 L. 動力機械による外傷 M. 挟圧外傷 N. 刺創 O. 杵創 P. 銃創 Q. 爆傷 R. 高圧注入外傷 S. スポーツによる外傷 T. 受傷の要因となる疾病	運動・位置エネルギー、力学的仕事 多発外傷、高リスク受傷機転 直達外力、介達外力、伸張力、剪断力、圧縮力 正面衝突、側面衝突、オフセット衝突、シートベルト損傷、エアバッグ損傷 腕神経叢引き抜き損傷 重症度に関する因子 デコルマン損傷、デグロービング損傷 外傷性窒息、クラッシュ症候群 圧力波
2 外傷の病態生理	(1) 侵襲への反応	A. 代償反応 B. 代償反応の破綻	交感神経、アドレナリン 外傷死の三徴
	(2) 外傷に伴うショック	A. 定義・概念 B. 循環血液量減少性ショック C. 心外閉塞・拘束性ショック D. 血液分布異常性ショック	出血性ショック、出血量と生体反応 心タンポナーデ、緊張性気胸 神経原性ショック
3 現場活動	(1) 現場活動の流れ	A. 活動の手順 B. ロードアンドゴー	ゴールデンアワー

大項目	中項目	小項目	備考
4 頭部外傷	(2) 外傷現場活動	A. 状況評価 B. 初期評価 C. 全身観察 D. 重点観察 E. 緊急度・重症度の判断 F. 医療機関と搬送手段の選択 G. 詳細観察 H. 継続観察	資器材の確認、感染防御、現場の安全確認、傷病者数の確認、応援要請、受傷機転の評価 生理学的評価、緊急処置 解剖学的評価、処置 局所受傷部位の観察、処置 トラウマバイパス、ドクターヘリ、ドクターカー バイタルサイン、神経学的所見、全身の詳細観察、情報の聴取
	(1) 特徴	A. 疫学 B. 一次性脳損傷 C. 二次性脳損傷 D. 脳ヘルニア E. 直撃損傷と反衝損傷 F. 回転外力による脳損傷 G. 開放性頭部外傷	
	(2) 主な外傷	A. 頭皮外傷 B. 頭蓋骨骨折 C. 頭蓋底骨折 D. 急性硬膜外血腫 E. 急性硬膜下血腫 F. 脳挫傷 G. 外傷性脳内出血 H. 外傷性くも膜下出血 I. びまん性脳損傷 J. 外傷性てんかん K. 慢性硬膜下血腫 L. 高次脳機能障害	円蓋部骨折、線状骨折、陥没骨折 脳神経損傷、パンダの眼徴候、バトル徴候 意識清明期 遅発性脳内出血 脳震盪、びまん性軸索損傷
	(3) 観察と処置	A. 観察 B. 髄液漏 C. 処置 D. 緊急度・重症度の判断 E. 医療機関での診療	意識消失の有無、出血性素因、JCS、GCS、瞳孔、呼吸様式 ダブルリングサイン 緊急開頭術
5 顔面・頸部外傷	(1) 特徴	A. 疫学 B. 気道閉塞 C. 出血 D. 機能障害 E. 整容的な問題	鼻出血、口腔内出血 視覚障害、聴覚障害
	(2) 主な外傷	A. 鼻骨骨折	

大項目	中項目	小項目	備考
6 脊椎・脊髄外傷	(3) 観察と処置	B. 頬骨骨折	気道閉塞
		C. 上顎骨（中部顔面骨）骨折	
		D. 下顎骨骨折	気道閉塞
		E. 眼窩吹き抜け損傷	複視
	(1) 特徴	F. 眼損傷	気道損傷、頸動脈損傷 皮下気腫、気管偏位、頸部拍動性腫瘍、頸部前方三角 気道確保、頸椎保護、眼球保護 頸髄損傷の合併
		G. 鼻損傷	
		H. 耳損傷	
		I. 口唇・口腔・歯牙・舌損傷	
	(2) 主な外傷	J. 頸部損傷	後方脱臼 前方脱臼 圧迫骨折、破裂骨折、骨粗鬆症
		A. 観察	
		B. 処置	
		C. 緊急度・重症度の判断	
7 胸部外傷	(3) 観察と処置	D. 医療機関での診療	環椎後頭関節脱臼、環軸関節脱臼 むち打ち症 骨粗鬆症 膀胱直腸障害 前脊髄型損傷、中心性脊髄損傷 後縦靱帯骨化症 椎間板ヘルニア
		A. 疫学	
		B. 過伸展	
		C. 過屈曲	
	(1) 特徴	D. 圧迫	神経原性ショック、高位判断、斜頸、呼吸様式、陰茎持続勃起、対麻痺 脊椎運動制限（SMR）、頸椎固定、全身固定
		E. 伸長	
		F. 回旋	
		G. 骨折	
	(2) 主な外傷	A. 脊椎損傷	神経原性ショック、高位判断、斜頸、呼吸様式、陰茎持続勃起、対麻痺 脊椎運動制限（SMR）、頸椎固定、全身固定
		B. 頸椎の脱臼・骨折	
		C. 外傷性頸部症候群	
		D. 胸腰椎の脱臼・骨折	
7 胸部外傷	(3) 観察と処置	E. 脊髄損傷	膀胱直腸障害 前脊髄型損傷、中心性脊髄損傷 後縦靱帯骨化症 椎間板ヘルニア
		F. 脊髄完全損傷	
		G. 脊髄不全損傷	
		H. 骨傷のない脊髄損傷	
	(1) 特徴	I. 椎間板損傷	神経原性ショック、高位判断、斜頸、呼吸様式、陰茎持続勃起、対麻痺 脊椎運動制限（SMR）、頸椎固定、全身固定
		J. 神経根損傷	
		K. 引き抜き損傷	
		A. 観察	
7 胸部外傷	(3) 観察と処置	B. 処置	神経原性ショック、高位判断、斜頸、呼吸様式、陰茎持続勃起、対麻痺 脊椎運動制限（SMR）、頸椎固定、全身固定
		C. 緊急度・重症度の判断	
		D. 医療機関での診療	
	(1) 特徴	A. 疫学	
		B. 受傷機転	
		C. 呼吸不全	
		D. 出血性ショック	
	(2) 主な外傷	E. 心外閉塞・拘束性ショック	

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
8 腹部外傷	(2) 主な外傷	A. 心損傷	心筋挫傷、不整脈
		B. 心タンポナーデ	頸静脈怒張、奇脈、低電位
		C. 心臓振盪	
		D. 大血管損傷	
		E. 肺損傷	肺挫傷
		F. 気胸	
		G. 緊張性気胸	
		H. 開放性気胸	吸い込み創
		I. 血胸	血気胸
		J. 気管・気管支損傷	
	(3) 観察と処置	K. 肋骨骨折	嚙音、胸郭動揺
		L. フレイルチェスト	奇異呼吸
		M. 横隔膜損傷	外傷性横隔膜ヘルニア
		N. 外傷性窒息	結膜点状出血、溢血点
		A. 観察	心臓外傷危険区域、皮下気腫、気管偏位、頸静脈怒張
		B. 処置	フレイルチェスト、開放性気胸、穿通性異物
		C. 緊急度・重症度の判断	
		D. 医療機関での診療	胸腔ドレナージ、心嚢穿刺、緊急開胸術、開胸式心マッサージ
8 腹部外傷	(1) 特徴	A. 疫学	
		B. 受傷機転	鈍的腹部外傷、鋭的腹部外傷
		C. 病態	腹腔内出血、腹膜炎
	(2) 主な外傷	A. 腹腔内実質臓器損傷	肝損傷、脾損傷
		B. 管腔臓器損傷	消化管損傷
		C. 血管損傷	腸間膜損傷、腹部大動脈損傷
		D. 後腹膜臓器損傷	腎損傷、睪損傷、十二指腸損傷
		E. 腹壁損傷	腸管脱出
	(3) 観察と処置	A. 観察	腹部膨隆、筋性防御
		B. 処置	腸管脱出、穿通性異物
		C. 緊急度・重症度の判断	
		D. 医療機関での診療	腹部コンパートメント症候群、ダメージコントロール手術
9 骨盤外傷	(1) 特徴	A. 疫学	
		B. 受傷機転	前後圧迫外力、側方圧迫外力、垂直剪断外力
		C. 病態	後腹膜出血
		D. 合併症	尿路損傷、直腸損傷
	(2) 主な外傷	A. 安定型骨盤骨折	
		B. 不安定型骨盤骨折	
		C. 寛骨臼骨折	
	(3) 観察と処置	A. 観察	下肢長差、骨盤動揺、膀胱直腸障害
		B. 処置	フラットリフト、骨盤固定
		C. 緊急度・重症度の判断	

大項目	中項目	小項目	備考
10 四肢外傷	(1) 特徴	D. 医療機関での診療 A. 疫学 B. 筋肉・腱損傷 C. コンパートメント症候群 D. 捻挫 E. 脱臼 F. 骨折	TAE <経皮的動脈塞栓術>、骨盤固定術 筋区画症候群（同義語） 亜脱臼、完全脱臼、脱臼骨折 開放骨折、病的骨折、疲労骨折、出血量
	(2) 主な外傷	G. 末梢神経損傷 H. 血管損傷 A. 大腿骨 B. 膝関節 C. 足関節 D. 手関節 E. 四肢切断	頸部・転子部骨折、骨幹部骨折 アキレス腱断裂 橈骨遠位端骨折、リストカット 指趾切断
	(3) 観察と処置	A. 観察 B. 処置 C. 緊急度・重症度の判断 D. 医療機関での診療	急性阻血症状（5P） 固定、切断指 開放骨折 脱臼整復術、骨接合術、再接着術、断端形成術
11 皮膚・軟部組織外傷	(1) 定義と分類	A. 定義 B. 分類	創、傷 切創、刺創、裂創、割創、擦過傷、挫傷、挫創、剥皮創、咬傷、杵創、銃創、爆傷、轢過創
	(2) 特殊な損傷	A. 広範囲皮膚剥皮創 B. クラッシュ症候群 C. コンパートメント症候群	デコルマン損傷、デグロービング損傷 圧挫症候群（同義語） 筋区画症候群（同義語）
12 小児・高齢者・妊婦の外傷	(1) 小児の外傷	A. 特徴 B. 主な外傷 C. 観察と処置 D. 緊急度・重症度の判断	虐待 肘内障、上腕骨骨折、ピンポンボール骨折、若木骨折、乳幼児揺さぶられ症候群
	(2) 高齢者の外傷	A. 特徴 B. 主な外傷 C. 観察と処置 D. 緊急度・重症度の判断	虐待 大腿骨頸部・転子部骨折、脊椎圧迫骨折
	(3) 妊婦の外傷	A. 特徴 B. 合併症	流産、早産、胎盤剥離、子宮破裂、胎児死亡

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
13 熱傷	(1) 定義と分類	C. 観察と処置 D. 医療機関の選定	浮腫 一酸化炭素中毒、シアン中毒 9 の法則、5 の法則、手掌法 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ度 熱傷指数、熱傷予後指数、アルツ の基準 冷却、保温、被覆 輸液、減張切開、植皮術 通電経路、心室細動、雷撃症 合併損傷
		A. 定義 B. 分類 C. 疫学	
	(2) 病態	A. 毛細血管透過性亢進 B. 敗血症 C. 気道熱傷	
	(3) 観察と処置	A. 熱傷面積の測定 B. 熱傷深度の判定 C. 緊急度・重症度の判断 D. 処置 E. 医療機関での診療	
14 化学損傷	(1) 定義と分類	A. 原因と病態 B. 観察と処置	吸入、嚥下、付着 酸、アルカリ、金属、非金属、腐 食性芳香族化合物、脂肪族化合物 安全確認、二次汚染防止 化学物質等安全データシート 気道粘膜刺激、肺水腫
		A. 定義 B. 特徴 C. 原因	
	(2) 観察と処置	A. 状況評価 B. 原因物質の特定 C. 皮膚症状 D. 呼吸器症状 E. 眼症状 F. 緊急度・重症度の判断 G. 除染 H. 医療機関での診療	
15 縊頸・絞頸	(1) 定義と分類	A. 定型的縊頸 B. 非定型的縊頸 C. 絞頸	扼頸 安全確認と現場保存 索状痕、頸椎保護
	(2) 観察と処置	A. 状況評価 B. 観察と処置	
16 刺咬症	(1) 特徴	A. 定義 B. 分類 C. 哺乳類 D. 爬虫類 E. 昆虫類等 F. 海洋生物	マムシ、ハブ、ヤマカガシ ハチ、クモ、ダニ

V 環境障害・急性中毒学

救急救命士として理解しておくべき、環境障害・急性中毒に関わる基本的な知識と、環境障害・急性中毒による傷病者を適切に観察、判断、処置、搬送を行うために必要な知識について問う。

大項目	中項目	小項目	備考
1 中毒総論	(1) 定義と分類	A. 定義 B. 疫学 C. 分類 D. 中毒物質	急性中毒、慢性中毒
	(2) 病態と生理	A. 吸収 B. 代謝・排泄	経口、経気道、経静脈、経皮 排泄過程、腸肝循環、呼吸、尿中、便中排泄
	(3) 観察と処置	C. 中毒作用 A. 中毒の判断 B. 中毒物質の推定	臭気、着色、特徴的症状、トキシドローム 除染、換気
		C. 安全確保 D. 中毒物質等の保存 E. 緊急度・重症度の判断 F. 医療機関での診療	吸収阻止、排泄促進、吸着、解毒薬、拮抗薬、全身管理
2 中毒各論	(4) 中毒情報	A. 中毒物質の特定 B. 中毒情報センター	
	(1) 急性エタノール中毒	A. 定義と分類 B. 疫学 C. 病態生理	アシドーシス、離脱症状、振戦せん妄
		D. 観察と処置	呼吸抑制、血圧低下、低体温、低血糖
		E. 緊急度・重症度の判断 F. 医療機関での診療	輸液、呼吸管理
	(2) 医薬品中毒	A. 睡眠薬 B. 抗精神病薬 C. 抗うつ薬 D. 鎮痛・解熱薬	
	(3) 乱用薬物	A. 覚醒剤	アセトアミノフェン、アスピリン アンフェタミン、メタンフェタミン マリファナ（同義語）
		B. 大麻 C. 危険ドラッグ D. その他の薬物	コカイン、モルヒネ
	(4) 農薬中毒	A. 除草剤 B. 殺虫剤	パラコート、グルホシネート 有機リン、PAM、硫酸アトロピン
	(5) 工業用品中毒	A. 重金属 B. 有機溶剤 C. アルコール類 D. シアン	砒素、水銀、鉛 シンナー メタノール、エチレングリコール 青酸化合物（同義語）
	(6) ガス中毒	A. 一酸化炭素	一酸化炭素ヘモグロビン、高気圧酸素治療
		B. 硫化水素 C. 亜硫酸ガス D. 塩素ガス	

大項目	中項目	小項目	備考
3 異物	(7) 自然毒中毒	E. 神経毒ガス	サリン、タブン、ソマン、VX ガスマスタードガス、カプサイシン アマニタトキシシン テトロドトキシシン
		F. 刺激性ガス	
	(8) 家庭用品中毒	A. 毒キノコ	ニコチン
		B. フグ	
		C. トリカブト	
		A. タバコ	
		B. 防虫剤	
	(1) 定義と分類	C. 酸・アルカリ	小児、高齢者
		D. 界面活性剤	
	(2) 気道異物	E. 殺鼠剤	餅、ピーナッツ
		A. 定義	
	(3) 消化管異物	B. 疫学	窒息のサイン、シーソー呼吸、陥没呼吸 用手的気道異物除去、器具による気道異物除去 気管支ファイバースコープ ボタン電池、PTP、義歯
		C. 分類	
		A. 種類と特徴	
		B. 観察	
		C. 処置	
4 溺水	(1) 定義と分類	D. 医療機関での診療	消化管内視鏡
		A. 種類と特徴	
	(2) 病態生理	B. 観察	溺水、溺死 溺水のリスク、入浴中の溺水
		C. 処置	
	(3) 観察と処置	D. 医療機関での診療	喉頭痙攣 致死性不整脈
		A. 種類と特徴	
	(4) 眼・耳・鼻の異物	B. 観察	安全確認、救出時の留意点 頸椎保護、気道確保、心肺蘇生 保温
		C. 処置	
	(5) 泌尿器・生殖器の異物	D. 医療機関での診療	
		A. 種類と特徴	
5 熱中症	(1) 定義と分類	B. 観察	WBGT <暑さ指数>
		C. 処置	
	(2) 病態生理	D. 医療機関での診療	発汗
		A. 種類と特徴	
	(3) 観察と処置	B. 初期評価	
		C. 体温管理	

大項目	中項目	小項目	備考
6 偶発性低体温症	(3) 観察と処置	B. 発生機序	暑熱順化
		A. 観察	意識障害、体温、発汗、気象と環境、合併疾患
		B. 処置	冷却
		C. 重症度分類	I・II・III度
7 放射線障害	(1) 定義と分類	D. 医療機関での診療	深部体温、冷却、輸液、循環管理
		A. 定義	
		B. 疫学	
		C. 発生機序	シバリング
8 その他の外因性疾患	(2) 病態生理	A. 体温調節	
		B. 発生機序	体温、徐呼吸、徐脈、低血圧
		A. 観察	心室細動、J波
		B. 心電図異常	保温
9 緊急性・重症度の判断	(3) 観察と処置	C. 処置	
		D. 緊急度・重症度の判断	深部体温、内部加温、外部加温、体外循環
		E. 医療機関での診療	
10 放射線障害	(1) 放射線への対応	A. 放射線防護の三原則	時間、距離、遮へい
		B. 線量測定	空間線量率、個人被ばく線量、表面汚染、GMサーベイメータ
		C. 養生	救急車内、救急資器材
		D. ゴーニング	区域設定（同義語）、放射線危険区域、準危険区域
11 除染	(2) 観察と処置	E. スクリーニング	
		F. 健康管理	
		A. 観察と処置	除染
		B. 緊急度・重症度の判断	初期被ばく医療機関、二次被ばく医療機関、三次被ばく医療機関
12 高山病	(1) 高山病	A. 定義	
		B. 病態	脳浮腫、肺水腫
		C. 観察と処置	
		D. 医療機関での診療	
13 減圧障害	(2) 減圧障害	A. 定義	
		B. 病態	病型、圧損傷
		C. 観察と処置	皮膚痒痒感、発赤、関節痛
		D. 医療機関での診療	高気圧酸素治療
14 酸素欠乏症	(3) 酸素欠乏症	A. 定義	
		B. 病態	
		C. 観察と処置	安全管理
		D. 医療機関での診療	
15 凍傷	(4) 凍傷	A. 定義	
		B. 病態	深度分類
		C. 観察と処置	急速加温
		D. 医療機関での診療	
16 紫外線による障害	(5) 紫外線による障害	A. 定義	
		B. 病態	電気性眼炎、雪眼炎、表層角膜炎
		C. 観察と処置	
		D. 医療機関での診療	

救急救命士国家試験出題基準索引

数字・ギリシャ文字

I・II・III度 20, 70, 73
 3S 36
 5疾病・6事業及び在宅医療 4, 30
 5の法則 20, 70
 5H5T 50
 5P 69
 9の法則 20, 70
 12誘導心電図 41
 119番受信と出動指令 6, 34
 α 線 47
 β 線 47
 γ 線 47

A

ACP 5, 32
 AIDS 63
 ARDS 54, 59
 ATP 2, 24

B

BLS 5, 13, 14, 33, 45
 BPSD 63

C

CBRNE 災害 37
 CO_2 ナルコーシス 59
 COPD 18, 59
 — の増悪 54
 CPC 50
 CSCATTT 7, 36
 CT 検査 46

D

DIC 62
 DMAT 7, 36
 DNAR 5, 32
 DV 30

E

EBM の意味 34
 EC 法 12, 42
 EMIS 37

G

GCS 8, 9, 38, 39, 66
 GM サーベイメータ 73

H

HBV 7, 36
 HCV 7, 36
 HIV 7, 36

J

JCS 8, 9, 38, 39, 66
 JMAT 36

M

MRI 検査 46

N

NCPR 64

O

OPC 50

P

P波 10, 41
 PA 連携 6, 34
 PaCO_2 46
 PAD 5, 33
 PAM 71
 PaO_2 46
 PAT 法 7, 36
 PCI 47, 60
 PDCA サイクル 33
 PETCO_2 40
 PPE 36
 PQ 間隔 10, 41
 PTD 65
 PTP 72
 PTSD 36, 64

Q

QOL 5, 32
 QRS 波 10, 41
 QT 延長症候群 60
 QT 間隔 10, 41

R

R on T 60
 RS ウイルス感染症 63

S

SCU 36
 SMR 13, 44, 67

SpO_2 54, 56
 ST 10, 41
 START 法 7, 36

T

T波 10, 41
 TAE 47, 69

V

VX ガス 71

W

WBGT 72

X

X線 47

あ

亜急性 3, 28
アキレス腱断裂 69
アクシデント 6, 35
悪性症候群 51, 58, 64
握雪感 9, 39
アクトミオシン 27
アシドーシス 28, 61, 71
 呼吸性 — 52
 混合性 — 48, 54
亜硝酸薬 46
アスピリン 46, 71
アセトアミノフェン 71
アセトン臭 39
亜脱臼 69
アダムス・ストークス症候群 54, 60
暑さ指数 72
圧挫症候群 20, 69
圧縮力 65
圧損傷 73
圧痛 8, 38
圧迫 67
圧迫骨折 67
圧力波 65
アドバンス・ケア・プランニング (ACP) 5, 32
アドレナリン 15, 46, 65
アナフィラキシー 19, 49, 54, 55, 62
 — 反応 15, 46
 食物依存性運動誘発 — 62
アニサキス症 56, 60
アネロイド血圧計 10, 40
アプガースコア 64
アポトーシス 28
アマニタトキシシン 72
アメーバ赤痢 63
亜硫酸ガス 71
アルカリ 70
アルカローシス 28, 61
アルコール 64
 — 臭 39
 — 離脱 52
 — 類 71
アルツの基準 20, 70
アルファ (α) 線 47
アルブミン 27
アレルギー 8, 19, 35, 38, 58, 62
アレルギー性疾患 62
アレルギー性紫斑病 56
安静時 54
安全確認 38, 70, 72
 — と現場保存 70
 — と二次災害の防止 6, 8, 34
安全確保 71
安全管理 36, 73
アンダートリアージ 9, 40
安定型骨盤骨折 68
安定狭心症 18, 60

アンフェタミン 71

い

胃 26
胃癌 57
医業の独占 5, 33
医師会 37
意識 8, 25, 38, 54
 — 消失の有無 66
 — 清明期 66
 — のある傷病者への対応 35
 — の概念 25
 — の中枢 25
 — のない患者の権利 32
 — のない傷病者への対応 35
 — レベル 8, 9, 38, 40, 51, 52
意識障害 17, 51, 52, 53, 54, 59, 61, 73
 — の発症機序 50
 遷延性 — 50
 特殊な — 50
医師の具体的指示 5, 33
医師への引き継ぎ 6, 34
医師法 5, 33
胃・十二指腸潰瘍 18, 57, 60
 — 穿孔 56, 57, 60
胃・十二指腸疾患 18, 60
萎縮 28
異常温度 28
異常肢位 51
異状死体 29
医師要請 6, 34
異所性妊娠 19, 56, 64
依存症 64
一次救命処置の手技 5, 33
一次救命処置の手順 5, 33
一次止血 27
一次性頭痛 51
一次性脳損傷 66
一次性脳病変 16, 50
 — と二次性脳病変の鑑別 51
一次治癒 28
一次トリアージ 7, 36
一次予防 28
一過性脳虚血発作 18, 53, 59
縊頸・絞頸 70
溢血点 68
一酸化炭素 71
 — 中毒 10, 40, 52, 70
一酸化炭素ヘモグロビン 71
遺伝障害 47
遺伝性 28
遺伝的影響 47
異物 72
 眼・耳・鼻の — 72
 気道 — 54, 55, 72
 消化管 — 72
 穿痛性 — 13, 44, 68
 泌尿器・生殖器の — 72

異物除去 5, 33
医薬品 15, 46
 — の種類 46
 — 中毒 21, 71
医療・介護関連肺炎 59
医療過誤 6, 35
医療機関 4, 6, 30, 34, 37
 — での治療 14, 45
 — の選定 6, 34
医療計画 4, 30, 32
医療圏 4, 30
医療事故 6, 35
医療提供体制 4, 30
医療と消防の連携 5, 33
医療扶助 30
医療法 33
医療保険制度 4, 30
医療保護入院 4, 30
医療を取り巻く環境 4, 30
イレウス 18, 56, 60
陰茎 26
陰茎持続勃起 39, 67
インシデント 6, 35
インスリン 18, 26, 46, 61
咽頭 25, 26
陰囊 26
インフォームドコンセント 5, 32
 — の理解 34
インフルエンザ 58, 63
 季節性 — 63
 高病原性鳥 — 63
 新型 — 7, 36, 63

う

ウイルス動脈輪 24
ウイルス 29
植込み型除細動器 14, 45
植込み型ペースメーカー 14, 45
右心不全 49
うっ血 16, 28
 — による症候 49
うっ血性心不全 18, 49, 60
ウツタイン様式 6, 34, 50
うつ病 64
運動・位置エネルギー 65
運動機能 9, 39
運動失調 51, 52, 53, 54, 59
運動障害 9, 40
運動の伝導路 25
運動麻痺 17, 51, 52, 53, 54, 59, 62

え

エアウェイを用いた気道確保 11, 41
エアバッグ損傷 65
永久気管瘻 14, 45
鋭的外傷 65
鋭的腹部外傷 68

栄養管理 28
栄養疾患 61
栄養素 24
腋窩温 41
液性免疫 27
壊死 28
壊死性筋膜炎 62
エチレングリコール 71
エックス (X) 線 47
エネルギー産生 2, 24
円蓋部骨折 66
嚥下 26, 70
炎症 28
塩素ガス 71

お

応援要請 6, 34, 66
横隔神経 25
横隔膜 2, 25
— 損傷 68
応急処置 5, 33
応急手当講習 33
応急入院 4, 30
黄色ブドウ球菌 63
黄染 9, 39
黄疸 9, 39, 57, 60
嘔吐 8, 38, 52
横紋筋 27
— 融解症 62
オーバートリージ 9, 40
オシロメトリック法 40
悪心・嘔吐 56, 54
汚染の種類 47
オフセット衝突 65
オフラインメディカルコントロール 5, 33
主な外傷 66, 67
主な骨格筋 27
主な精神障害 64
オンラインメディカルコントロール 5, 33

か

外因性疾患 55
開胸式心マッサージ 68
外頸静脈怒張 9, 39
外見の観察 8, 38
外呼吸 25
介護支援専門員 30
介護保険制度 4, 30
外出血 8, 38
外傷現場活動 20, 66
外傷後遺症 59
外傷死 65
— の三徴 65
外傷性横隔膜ヘルニア 68
外傷性くも膜下出血 66
外傷性頸部症候群 67

外傷性窒息 20, 65, 68
外傷性てんかん 66
外傷性脳内出血 66
外傷と運動力学 65
外傷に伴うショック 20, 65
外傷の疫学 65
外傷の定義と分類 20, 65
外傷の病態生理 65
海上保安庁 37
外性器 26
疥癬 7, 36, 63
回旋 67
咳嗽 59
介達外力 65
回腸 26
回転外力による脳損傷 66
回転性 53
外毒素 29
ガイドライン 13, 14, 44, 45
灰白質 24
回復 28
— への支援 28
開腹手術 56
回復体位 13, 44
外部被ばく 47
外分泌 26
— 機能 26
解剖学的指標 2, 24
解剖学的評価 66
開放骨折 69
開放性気胸 13, 20, 44, 68
開放性頭部外傷 66
界面活性剤 72
潰瘍性大腸炎 57, 61
海洋生物 70
解離性昏迷 55
解離性 (転換性) 障害 64
外力の種類 65
顔色 8, 38
下顎挙上法 10, 41
— 修正 — 10, 41
下顎骨骨折 67
化学受容体 25
化学損傷 70
化学的因子 28
科学的思考の醸成 34
下顎引上げ法 10, 41
化学物質 28
化学物質等安全データシート 70
過換気 50
— 症候群 18, 54, 55, 59
下気道 2, 25
— と肺胞の疾患 18, 59
蝸牛症状 54
覚醒剤 71
— 中毒 58
喀痰 59
過屈曲 67
確定的影響 47
学童の事故と疾病 30

獲得免疫 27
確率の影響 47
下肢長差 9, 40, 68
過剰放電による影響 52
過伸展 67
下垂体 26
— 後葉 26
— 前葉 26
ガス壊疽 63
ガス交換 24
ガス中毒 21, 71
画像検査 46
家族歴・社会歴 35
学会発表 34
咯血 54, 57, 59
— による影響 55
— の程度 55
学校保健管理 30
学校保健の仕組み 30
割創 69
活動中の事故予防 6, 35
合併疾患 73
合併症 48, 69
合併損傷 70
家庭用品中毒 21, 72
化膿性関節炎 62
下腹部痛 61
カプサイシン 72
カプノメータ 10, 40
加齢と老化 63
川崎病 63
眼位 9, 39, 51
感覚系の役割 25
感覚障害 40, 53, 54, 59
眼窩吹き抜け損傷 67
肝癌破裂 56, 61
換気 71
眼球・眼瞼結膜 9, 39
眼球上転 53
眼球彷徨 51
眼球保護 67
環境 30
— 整備 36
環境基準 30
環境障害 21, 71
環境保健の仕組み 30
管腔臓器損傷 68
看護 28
肝硬変 18, 60, 61
寛骨臼骨折 68
幹細胞 27
観察の基本 8, 38
環軸関節脱臼 67
間質性肺炎 59
眼・耳・鼻の異物 72
眼・耳・鼻の疾患 62
患者の意思に反する処置 32
患者の権利 5, 32
冠循環 50
眼症状 70

眼振 51, 54
肝性口臭 39
肝性脳症悪化 57
関節運動方向 24
関節可動域制限 40
関節疾患 62
関節痛 62, 73
関節リウマチ 62
感染 3, 6, 29, 35
— 対策 6, 35
— の成り立ち 29
空気 — 3, 29
顕性 — 29
垂直 — 29
水平 — 29
接触 — 3, 29
飛沫 — 3, 29
日和見 — 29
不顕性 — 29
汗腺 27
眼前暗黒感 54
感染経路 3, 29
— 別予防策 35
感染事故と対策 7, 36
感染症 18, 58, 59, 61, 63
— 法 7, 36, 63
感染性心内膜炎 60
感染性廃棄物 7, 36
完全脱臼 69
完全閉塞 72
感染防御 8, 38, 66
感染防止 10, 41
— 器具 7, 36
— 対策 6, 34
完全麻痺 53
感染予防策の意義 35
乾燥 8, 38
肝臓 26
肝臓・胆道系 26
肝臓・胆道・膵臓疾患 18, 56, 61
肝損傷 20, 68
眼損傷 67
間代性痙攣 52
環椎後頭関節脱臼 67
眼痛 62
冠動脈 2, 25
癌による末期状態 28
間脳 24
カンピロバクター 63
カンファランス 34
肝不全 51, 52, 61
顔貌 8, 38
陥没呼吸 8, 9, 38, 39, 72
陥没骨折 66
ガンマ (γ) 線 47
顔面・頸部外傷 66
顔面紅潮 52
顔面骨骨折 20
顔面の左右差 9, 39
冠攣縮性狭心症 60

関連痛 56

き

奇異呼吸 9, 39, 68
既往歴 8, 35, 38
気管カニューレ 14, 45
気管・気管支 25
— 損傷 55, 68
気管吸引 42
気管支炎 18, 55, 59
気管支拡張症 55, 59
気管支拡張薬 46
気管支喘息 18, 19, 54, 59, 63
気管支ファイバースコープ 72
気管切開 14, 45
気管挿管 11, 42
気管挿管困難症への対応 11, 42
気管内チューブ 11, 42
気管偏位 9, 39, 67, 68
気胸 18, 54, 55, 59, 68
器具による気道異物除去 11, 41, 72
器具を用いた気道確保プロトコール 14, 45
器具を用いた搬送 14, 45
危険因子 28
危険ドラッグ 71
起坐位 13, 44
義歯 72
器質性精神障害 64
気象と環境 73
創 69
傷 69
寄生虫 29
規制薬物 64
季節性インフルエンザ 63
基線 10, 41
偽痛風 61
拮抗薬 71
気道 2, 25
— 損傷 67
— と換気 24
— に関する観察 8, 38
— の障害 16, 48
— の分類 25
気道異物 54, 55, 72
気道開通と閉塞 8, 38
気道確保 51, 54, 67, 72
— エアウェイを用いた — 11, 41
— 手動的 — 10, 41
気道狭窄音 8, 38
気道熱傷 20, 70
気道粘膜刺激 70
気道閉塞 66, 67
機能障害 66
機能性の頭痛 51
— と症候性の頭痛 51
亀背 39
気分障害 64
奇脈 68

義務 5, 33
虐待 69
虐待防止 30
嗅覚器 25
吸気性 54
救急医療機関 5, 32
救急医療情報 32
— センター 32
救急医療体制 5, 32, 33
— の沿革 32
救急外来 34
救急活動記録票 6, 34
救急活動でのインフォームドコンセント 35
救急活動での感染防御 7, 36
救急活動での説明と同意 35
救急活動の記録 6, 34
救急・救助の現況 5, 6, 32, 34
救急救命士が行う処置 10, 41
救急救命士の業務 5, 33
救急救命士の生涯教育 34
救急救命士の役割 5, 32
救急救命士の養成 34
救急救命士の養成課程 34
救急救命士法 5, 33
救急救命処置に用いられる薬剤 15, 46
救急救命処置の実施 6, 34
救急救命処置の定義 5, 33
救急救命処置の範囲 5, 33
救急救命処置の変遷 5, 33
救急救命処置録 5, 6, 33, 34
救急告示医療機関 5, 32
救急資器材 73
救急自動車 5, 33
— への搬入と搬出 45
救急車内 36, 73
救急症候 17, 51
救急蘇生統計 6, 34
救急蘇生法 13, 44
小児の — 14, 45
成人の — 13, 44
乳児の — 14, 45
救急隊員 5, 33
— による一次救命処置 13, 14, 45
救急隊が対応する在宅療法 14, 45
救急統計 5, 32
救急搬送システム 5, 32
救急ワークステーション 34
救護活動 36
休日・夜間急患センター 5, 32
吸収 26, 71
— 阻止 71
救出時の留意点 72
救出方法 45
急性 3, 28, 48, 52
— 胃腸炎 56, 60
— 胃粘膜病変 56, 57, 60
— エタノール中毒 21, 71

— 肝炎 61
— 冠症候群 18, 55, 56, 60
— 喉頭蓋炎 18, 19, 54, 59, 63
— 硬膜外血腫 20, 66
— 硬膜下血腫 20, 66
— 呼吸促進症候群 54, 59
— 呼吸不全 59
— 細気管支炎 63
— 四肢動脈閉塞症 60
— 障害 47
— 上気道炎 58, 59
— 腎盂腎炎 18, 61
— 心不全 49
— 腎不全 18, 61
— 腭炎 18, 56, 61
— ストレス障害 36, 64
— 増悪 48, 49
— 阻血症状 69
— 代謝失調 18, 61
— 大動脈解離 18, 54, 55, 57, 60
— 胆管炎 18, 56, 61
— 胆嚢炎 18, 56, 58, 61
— 虫垂炎 56, 60
— 腹膜炎 18, 61
— 扁桃炎 58, 59
— 放射線症候群 47
— 腰痛症 57, 62
— 緑内障発作 52, 62
急性中毒 21, 71
急性腹症 60
急速加温 73
吸着 71
吸入 70
救命救急センター 32
 高度 — 32
救命の連鎖 5, 32
 — の意義 5, 32
挟圧外傷 65
教育 5, 33
仰臥位 13, 44
胸郭 25
 — 運動 9, 39
 — 動揺 68
 — ポンプ説 50
胸腔 2, 24, 25
 — ドレナージ 68
凝固 27
胸骨圧迫 12, 42
 — の質 16, 50
頬骨骨折 67
胸腺 27
強直性痙攣 52
胸痛 17, 55, 56, 59, 60
共同偏視 9, 39
共同利用型病院 32
胸部外傷 20, 54, 67
胸壁疾患 55
胸膜 25
胸膜炎 55, 59
胸膜疾患 18, 55, 59

業務の独占 33
業務を行う場所 5, 33
胸腰椎の脱臼・骨折 67
局所受傷部位の観察 66
局所の観察 9, 39
虚血 28, 50
虚血性心疾患 18, 49, 56, 60
虚血性大腸炎 56, 57, 60
距離 73
ギラン・バレー症候群 53, 59
起立性低血圧 54, 55
筋萎縮性側索硬化症 59
緊急 40
緊急開胸術 68
緊急開頭術 66
緊急検査 46
緊急消防援助隊 36
緊急処置 66
緊急措置入院 4, 30
緊急度・重症度の判断 9, 40, 68
緊急度・重症度分類 6, 34
緊急度判定 34
緊急搬送 14, 45
筋区画症候群 69
筋・骨格系疾患 57, 62
筋疾患 62
筋収縮 27
筋性防御 9, 39, 68
筋線維 27
金属 70
緊張 9, 39
緊張型頭痛 51, 59
緊張性気胸 20, 49, 65, 68
筋肉 53
筋肉・腱損傷 69

く

区域設定 73
クインケ浮腫 62
空間線量率 73
空気感染 3, 29
 — 予防策 6, 35
空腸 26
偶発性低体温症 21, 73
具体的指示 33
 — と包括的指示 5
クッシング徴候 50
組手搬送 14, 45
クモ 70
くも膜 24
くも膜下出血 18, 51, 52, 53, 55, 59
 外傷性 — 66
クラッシュ症候群 20, 69
クランプ 53
クループ 19, 54, 63
グルカゴン 26
グルホシネート 71
グレイ (Gy) 47
クローン病 61

群発頭痛 51, 59

け

ケアマネジャー 30
経管栄養 45
経気道 71
経口 71
 — 感染 29
 — 血糖降下薬 18, 46, 61
経口エアウェイ 11, 41
携行資器材の確認 8, 38
警察 6, 34, 37
軽症 9, 40
経静脈 71
頸静脈怒張 68
頸髄損傷の合併 67
継続観察 6, 8, 20, 34, 38, 66
頸椎カラー 13, 44
頸椎固定 13, 44, 67
頸椎の脱臼・骨折 67
頸椎保護 67, 70, 72
頸動脈損傷 67
頸動脈洞反射 55
経皮 71
経鼻エアウェイ 11, 41
経皮的冠インターベンション 47, 60
経皮的動脈塞栓術 47, 69
頸部前方三角 67
頸部損傷 67
頸部・転子部骨折 69
頸部拍動性腫瘍 67
痙攣 17, 19, 51, 52, 63
 — 重積 19, 63
 間代性 — 52
 強直性 — 52
 喉頭 — 72
 熱性 — 19, 52, 63
下血 57, 60
 — の性状 57
 — の定義 57
血圧 8, 9, 38, 39, 40
 — 上昇 52
 — 低下 71
 — を規定する因子 8, 38
血圧計 10, 40
 アネロイド — 10, 40
血液型 46
血液凝固 49
血液系疾患 19, 62
血液製剤 46
血液透析 18, 45, 61
血液の役割 27
血液分布異常性ショック 16, 20, 49, 65
血液・免疫系疾患 19, 62
結核 6, 7, 35, 36, 58, 63
血管撮影検査 47
血管疾患 18, 55, 56, 57, 60

血管収縮薬の効果 50
血管損傷 68, 69
血管迷走神経反射 49, 55
血気胸 68
血球 27
—— の産生と分化 27
血胸 20, 68
血漿の成分と機能 27
血漿の役割 27
血小板 27
血性下痢 57
血清電解質異常 52
血栓 28
血栓回収療法 59
血栓溶解療法 59
結腸 26
血糖測定器 10, 41
血糖値 51
血糖の調節 26
血尿 40, 61
結膜点状出血 68
血友病 62
血流の調整 25
解毒薬 71
解熱鎮痛薬 46
下痢 56, 60
ケロイド 28
腱 27
減圧障害 73
減圧装置 11, 42
検案 29
原因治療 28
幻覚・妄想 64
嫌気性代謝 2, 24
健康管理 73
健康寿命 4, 30
健康増進 30
言語コミュニケーション 34
検査 46
—— の目的と種類 46
検視 29
顕性感染 29
検体検査 46
減張切開 70
現場活動 6, 20, 34, 65
—— の基本 8, 38
—— の流れ 20, 65
現場救護所 36
現場の安全確認 66
現場報告 6, 34
現病歴 8, 35, 38

こ

コア業務 5, 33
高圧注入外傷 65
降圧薬 46
広域医療搬送 36
広域災害救急医療情報システム 37
高位判断 67

口咽頭エアウェイ 11, 41
抗うつ薬 71
高エネルギー外傷 20, 65
構音障害 51, 52, 53, 54, 59
公害 30
鉤回ヘルニア 50
効果の判定 48
交感神経 2, 24, 65
高気圧酸素治療 71, 73
好気性代謝 2, 24
抗凝固薬 46, 62
工業用品中毒 21, 71
口腔 26
—— ・鼻腔 25
口腔内出血 57, 66
口腔内の吸引 11, 41
絞頸 70
高血圧 49, 56
—— 緊急症 60
高血圧症 60
抗血小板薬 46, 62
高血糖 51
膠原病 58, 62
交叉性片麻痺 9, 40, 51, 53
高山病 73
高次脳機能障害 66
公衆衛生の関係行政 30
公衆衛生の仕組み 30
公衆衛生の定義 30
後縦靱帯骨化症 62, 67
拘縮 40
咬傷 69
甲状腺 26
—— 機能亢進症 56, 61
—— 機能低下症 51, 61
—— クリーゼ 51, 61
口唇・口腔・歯牙・舌損傷 67
高浸透圧高血糖症候群 18, 52, 61
構成員 33
抗精神病薬 71
—— の副作用 64
公正・正義の原則 5, 32
梗塞 28
高体温の機序 57
高体温の原因疾患 58
高体温の定義 57
紅潮 9, 39
抗てんかん薬 46
後天性 28
—— 免疫不全症候群 63
喉頭 25
—— 痙攣 72
—— 浮腫 62
喉頭鏡 11, 41, 42
口頭指導 6, 34
—— プロトコール 13, 44
高度救命救急センター 32
高二酸化炭素血症 16, 51, 52
高熱 58, 61
高拍出性心不全 49

好発年齢 63
広範囲皮膚剥皮創 69
高病原性鳥インフルエンザ 63
後負荷 25, 49
後腹膜 24
—— 出血 68
—— 臓器損傷 68
項部硬直 39
抗不整脈薬 46
興奮の伝導 24
後方脱臼 67
硬膜 24
肛門 26
高リスク受傷機転 20, 65
行旅病人、生活保護適用患者に関する法令 34
高齢化 4, 30
高齢者 72
高齢者虐待 19, 30, 64
高齢者と救急疾患 19, 63
高齢者に特有な疾患 19, 63
高齢者の外傷 69
高齢者の特徴 19, 63
高齢者福祉 4, 30
高齢者保健事業 30
高齢者を支える仕組み 30
誤嚥 6, 35, 57
誤嚥性肺炎 64
コーヒー残渣様吐血 57
コーマック分類 11, 42
ゴールデンアワー 20, 65
鼓音 38
コカイン 71
股関節脱臼 44
呼気 71
—— 延長 39
—— 臭 39
呼気終末二酸化炭素分圧 40
呼気性 54
呼気吹き込み人工呼吸 42
呼吸 8, 9, 38, 40
—— に関する観察 8, 39
—— の有無 8, 39
—— の性状 9, 39
—— の調節 25
—— パターン 9, 39
—— への影響 55
—— 様式 54, 66, 67
—— 抑制 71
呼吸運動の障害 16, 48
呼吸音 8, 9, 38, 39, 54
呼吸管理 71
呼吸器症状 70
呼吸筋 2, 25
呼吸系疾患 18, 55, 59, 63
呼吸系の役割 25
呼吸困難 17, 54, 59, 60
呼吸仕事量 48
呼吸・循環を介した影響 52
呼吸数 8, 19, 38, 63

呼吸中枢 25
呼吸不全 16, 48, 67
— による心肺停止 16, 50
急性 — 59
慢性 — 59
呼吸補助筋 25, 39
国際保健 30
告示 33
国民医療費 30
国民負担率 30
心とからだの関連 28
個人被ばく線量 73
個人防護具 36
国家扶助 30
骨幹部骨折 69
骨傷のない脊髄損傷 67
骨髄 27
骨折 69
— の治療 28
骨接合術 69
骨粗鬆症 19, 64, 67
骨盤位分娩 64
骨盤外傷 68
骨盤腔 2, 24
骨盤骨折 9, 20, 40
骨盤固定 68
骨盤固定術 69
骨盤・四肢外傷 20
骨盤動揺 9, 40, 68
骨盤内感染症 56, 61
固定 13, 44, 69
孤発性 28
鼓膜温 41
コロトコフ音 40
混合性 54
— アシドーシス 52
昆虫類等 70
コンパートメント症候群 53, 69
腹部 — 68
昏迷 64
— 状態 51
解離性 — 55

さ

サービスの種類 4, 30
サービスの施設 30
災害医療対策の法的骨格 36
災害医療体制 7, 36
災害救助法 36
災害拠点病院 7, 36
災害対策基本法 36
災害の概念 36
災害の定義 36
災害の分類 36
災害派遣医療チーム 7, 36
再灌流障害 50
細菌 29
採血用穿刺器具 10, 41
再接着術 69

臍帯結紮・切断 13, 44
在胎週数 63
臍帯処置 13, 44
在宅酸素療法 14, 45
在宅人工呼吸 14, 45
在宅当番医 5, 32
在宅療法継続中の傷病者の処置 14, 45
再発と転移 28
細胞 2, 24
— 外液 2, 24
— 内液 2, 24
細胞性免疫 27
坐位保持困難 54
索状痕 70
挫傷 69
左心不全 49
挫創 69
左側臥位 13, 44
擦過傷 69
殺鼠剤 72
殺虫剤 71
左右差 9, 39
サリン 71
サルモネラ 63
酸 70
酸・アルカリ 72
酸塩基平衡 24
— 異常 61
— 障害 28
三次救急医療機関 5, 32
惨事ストレス 36
三次被ばく医療機関 73
三次予防 28
酸素運搬 24
酸素解離曲線 24
酸素カスケード 24
酸素欠乏症 73
酸素代謝 25
酸素投与 11, 42, 49, 51, 54
酸素の取り込み 2, 25
酸素ボンベ 11, 42
散瞳 9, 39, 51
産婦人科領域の処置 13, 44

し

死 3, 29
— の概念 3, 29
指圧痕 40
シアン 71
— 中毒 70
シーソー呼吸 8, 9, 38, 39, 72
シートベルト損傷 65
シーベルト (Sv) 47
死因 4, 30
— の種類 29
— の推定 29
自衛隊 37
歯牙 26

紫外線による障害 73
視覚 39, 53
痔核 57, 60
視覚器 25
視覚障害 66
視覚路 25
子癇 19, 52, 64
時間 73
弛緩出血 19, 64
磁気共鳴画像検査 46
資器材 36
— 準備 6, 34
— による観察 10, 40
— の確認 66
色調 8, 38
指揮命令 36
子宮 26
— 破裂 64, 69
— 輪状マッサージ 13, 44
糸球体 26
軸 24
刺激性ガス 72
刺激伝導系 2, 25
止血 5, 13, 33, 44
— のしくみ 27
止血帯 13, 44
止血点止血法 13, 44
止血法の種類 13, 44
刺咬症 70
嗜好品 56
事後検証 5, 33
— 会 34
— 票 6, 34
事故車両からの救出 45
自己注射用アドレナリン 12, 43
事故の検証 6, 35
事故の報告 6, 35
自殺企図 64
指示 5, 33
四肢外傷 69
四肢骨折・脱臼 13, 44
指示助言要請 35
四肢切断 20, 69
指趾切断 20, 69
四肢の急性阻血 53
四肢の変形 8, 38
支持搬送 14, 45
四肢麻痺 9, 40, 51, 53
指示要請 6, 34
視診 8, 38
脂腺 27
自然気胸 18, 59
死戦期呼吸 8, 39
自然毒中毒 21, 72
事前評価 11, 42
自然免疫 27
刺創 65, 69
耳損傷 67
死体検案書 29
死体現象 3, 29

早期 — 3, 29
晩期 — 3, 29
自宅分娩 64
市中肺炎 59
市町村保健センター 30
膝関節 69
失禁 8, 38, 52
膝屈曲位 13, 44
失語 51, 53, 59
実施困難例 11, 42
湿潤 8, 38
失神 17, 55, 56, 60
失神性 53
失神性めまい 54
疾病構造の変化 4, 30
児童虐待 30
自転車の外傷 65
自動血圧計 10, 40
自動式人工呼吸器 42
自動式心マッサージ器の使用 43
指導・助言 5, 33
自動二輪車の外傷 65
児童福祉 30
シナプス 24
自閉症スペクトラム障害 64
耳閉塞感 54
死亡 9, 40
— 診断書 29
死亡者に関する法令 33
脂肪族化合物 70
市民教育 5, 33
市民による一次救命処置 5, 33
耳鳴 54
視野異常 39, 62
社会福祉施設 30
社会福祉の理念 30
社会保険制度の理念 30
社会保障給付費 30
社会保障・社会福祉の仕組み 30
社会保障の費用 30
社会保障の理念 30
斜頸 67
車内活動 6, 34
車内分娩 64
遮へい 73
主因と誘因 28
臭気 71
重金属 71
周産期医療情報センター 32
周産期医療体制 30, 32
周産期母子医療センター 32
重症 9, 40
重症筋無力症 62
重症度に関する因子 65
重症脳障害 16, 49
修正下顎挙上法 10, 41
重積状態 53
銃創 65, 69
重点観察 8, 20, 38, 66
重篤 9, 40

十二指腸 26
— 損傷 68
羞明 52, 62
重量物落下による外傷 65
手関節 69
主幹動脈閉塞 59
縮瞳 9, 39, 51
受験資格 34
手指衛生 7, 36
手術室 34
受傷機転 20, 65, 67, 68
— の評価 66
— ・発症状況の確認 8
— ・発症状況の把握 6, 34
手掌法 20, 70
受精と着床 64
主訴 8, 35, 38
腫脹 9, 39, 40
出血 18, 28, 49, 60, 66
— に対する生体の反応 49
— による影響 57
出血傾向 55, 62
出血後の体液変動 16, 49
出血性ショック 20, 65, 67
出血性素因 66
出血斑 39
出血部位 57
出血量 69
— と生体反応 20, 65
— とバイタルサインの関係 16, 48
出生 30
— 時体重 63
出動 6, 34
出動経路の確認 6, 34
手動吸引器 41
手動トリガー式人工呼吸器 42
受動免疫 27
ジュネーブ宣言 32
守秘義務 5, 33
腫瘍 28, 58
循環管理 73
循環系疾患 18, 55, 59
循環系の役割 25
循環血液量減少 54, 55, 57
循環血液量減少性ショック 16, 20, 48, 65
循環障害 28
循環動態の変化 48, 49
循環に関する観察 9, 39
循環の制御 26
循環発生の機序 50
循環不全 10, 40
循環への影響 55
準危険区域 73
準緊急 40
傷 69
昇圧薬 46
常位胎盤早期剝離 19, 64
消化 26

障害者手帳 30
障害臓器 50
消化管 26
— 異物 72
— 損傷 68
— 内視鏡 72
上顎骨骨折 67
消化系疾患 18, 60, 63
消化系の役割 26
上気道 2, 25
— の疾患 18, 59
— 閉塞 16, 48
状況評価 6, 8, 20, 34, 38, 66, 72
症候性てんかん 18, 59
詳細観察 8, 20, 38, 66
少子化 4, 30
小腸 26
上腸間膜動脈閉塞症 56, 60
消毒 7, 36
消毒方法 36
消毒薬 36
— と消毒方法 36
小児 5, 72
— と救急疾患 19, 63
— の外傷 69
— の救急蘇生法 14, 45
— の特異性 14, 45
— の特徴 19, 63
— の発育 63
小児救急医療体制 32
小児救急電話相談 32
小脳 2, 24
小脳・脳幹の梗塞または出血 53
傷病者観察 6, 34
傷病者数の確認 8, 66
傷病者数の把握 6, 34
傷病者搬送 14, 45
上腹部臓器疾患 55
上部消化管出血 57
情報端末を用いた救急搬送システム 32
情報通信対策 37
情報伝達 36
情報の聴取 66
消防法 5, 33
— による法制化 33
静脈 2, 25
静脈内投与薬剤 46
静脈路確保 12, 43
正面衝突 65
常用薬 46
省令 33
上腕骨骨折 69
初期救急医療機関 5, 32
初期被ばく医療機関 73
初期評価 6, 8, 20, 34, 38, 66, 72
触診 8, 38
触診法 10, 40
褥瘡 62
触知部位 9, 39

食中毒 30, 63
食道 26
— 疾患 18, 55, 60
— 挿管 10, 40
— 閉鎖式エアウェイ 11, 42
食道静脈瘤 18, 60
— 破裂 57, 60
職場での自己研鑽 34
植皮術 70
食品衛生 30
食物アレルギー 19, 62
食物依存性運動誘発アナフィラキシー 62
助言要請 6, 34
除細動 12, 43
女性生殖器 26
— の疾患 57, 61
除染 70, 71, 73
除草剤 71
ショック 16, 48, 51, 61
— 体位 13, 44
外傷に伴う — 20, 65
血液分布異常性 — 16, 20, 49, 65
出血性 — 20, 65, 67
循環血液量減少性 — 16, 20, 48, 65
心外閉塞・拘束性 — 16, 20, 49, 65, 68
神経原性 — 20, 65, 67
心原性 — 16, 49
ショックパンツ 44
暑熱順化 72
除脳肢位 9, 39, 51
除皮質肢位 9, 39, 51
徐脈 8, 38, 61
徐脈性不整脈 55, 56
自律神経 49
— 障害 55
— 症状 52
自律神経系 2, 24
— による制御 26
自律の尊重 5, 32
視力・視野の障害 52
視力低下 62
心因性 55, 56
腎盂腎炎 58
— 急性 — 18, 61
心音 8, 38, 39
心外閉塞・拘束性ショック 16, 20, 49, 65, 67
心外膜 25
新型インフルエンザ 7, 36, 63
新型コロナウイルス感染症 7, 36, 59, 63
心機能 25
— 曲線 49
真菌 29
心筋 25, 27
— 炎 55, 56, 60

心筋梗塞 18, 60
心筋挫傷 68
心筋疾患 60
心筋症 18, 49, 55, 56, 60
神経学的異常 51, 52, 53
神経学的所見 66
神経筋疾患 53, 54, 59
神経筋接合部 53
神経系疾患 18, 59, 63
神経系の構造 24
神経原性ショック 20, 65, 67
神経膠細胞 24
神経根損傷 67
神経細胞 24
神経調節性失神 55
神経伝達物質 24
神経毒ガス 71
神経・内分泌系の反応 49
神経に関する観察 9, 39
神経の支配領域 40
心原性 50
— 失神 55
— ショック 16, 49
人権擁護 30
人口構造の変化 4, 30
人工肛門 45
人工呼吸 11, 42
進行と増悪 3, 28
心室 2, 25
心疾患 55
心室期外収縮 56, 60
心室細動 60, 70
心室細動 / 無脈性心室頻拍 16, 50
心室頻拍 60
心周期 25
心収縮力 49
侵襲への反応 65
心静止 16, 50
新生児仮死 64
新生児死亡 30
新生児蘇生法 64
新生児への対応 13, 44
浸漬症候群 72
振戦 56, 59
振戦せん妄 71
心臓 2, 25, 50
— 突然死 60
— ポンプ説 50
腎臓 26
心臓外傷危険区域 68
心臓死 3, 29
— の三徴候 3, 29
心臓振盪 60, 68
腎臓の疾患 18, 61
心損傷 68
腎損傷 68
靱帯 27
身体各部の構造と名称 2, 24
身体各部の役割 2, 24
身体的影響 47

心タンポナーデ 18, 20, 49, 54, 55, 60, 65, 68
伸長 67
伸張力 65
陣痛 64
心停止後症候群 50, 52
心停止傷病者へのアドレナリン投与 12, 43
心的外傷後ストレス障害 36, 64
心電図 56
— 検査 46
— 所見 56
— 伝送 10, 41
— の基礎 10, 41
— の基本 60
— 分類 16, 50
— 変化 60
— モニター 10, 41, 60
進展と増殖 28
浸透圧 24
深度分類 73
シンナー 71
心内膜 25
心嚢 25
— 穿刺 68
心肺機能停止対応業務プロトコール 14, 45
心肺蘇生 72
心肺蘇生中の循環 16, 50
心肺停止 16, 50
— 低心拍出量による — 16, 50
心拍再開後の病態 50
心拍出量 16, 25, 49
心拍数 10, 19, 41, 49, 63
心破裂 18, 60
真皮 27
深部感覚 53
深部静脈血栓症 60
心不全 16, 18, 49, 54, 56, 60
— 右 — 49
— うっ血性 — 10, 49, 60
— 急性 — 49
— 高拍出性 — 49
— 左 — 49
— 慢性 — 49
腎不全 51, 52
— 急性 — 18, 61
— 慢性 — 18, 61
深部体温 73
心房 2, 25
心房細動 56, 60
心膜疾患 18, 60
蕁麻疹 62
診療所 4, 30
診療の補助 5, 33

す

髄液漏 9, 39, 66
睪炎 57

急性 — 18, 56, 61

水銀 71

吸い込み創 68

臍臓 26

臍損傷 68

錐体路 25

垂直感染 29

垂直剪断外力 68

水痘 6, 35

水痘・带状疱疹 63

水平感染 29

髄膜 24

髄膜炎 18, 19, 51, 52, 58, 59, 63

髄膜刺激症候 51, 52

睡眠薬 71

頭蓋外の要因 51

頭蓋腔 2, 24

頭蓋骨骨折 66

頭蓋底骨折 20, 66

頭蓋内圧亢進 16, 50

— 症候 51, 52

頭蓋内圧に係わる因子 50

頭蓋内血腫 20

頭蓋内の要因 51

頭蓋内の容積と圧の関係 50

スキヤモンの発育型 63

スクープストレッチャー 13, 14, 44, 45

スクリーニング 37, 73

スタンダードプリコーション 6, 35

頭痛 17, 51, 52, 54, 59

— の性状 52

機能性の — 51

緊張型 — 51, 59

群発 — 51, 59

症候性の — 51

片 — 51, 59

ストレス障害 36

ストレス対応 36

ストレス対策 36

ストレス耐性 36

ストレスの概念 36

ストレス反応 36

スパスム 53

スポーツによる外傷 65

せ

精液 26

生活習慣病 28, 30

生活の質 5, 32

生活保護 30

性感染症 63

性器出血 39

清潔と不潔 36

製剤の種類 48

製剤の投与手段 48

青酸化合物 71

清拭方法 36

性周期 26

— とホルモン 26

正常分娩 64

成人 5, 43

精神運動興奮 64

精神科救急医療体制 32

精神科救急情報センター 32

精神障害 64

主な — 64

器質性 — 64

その他の — 64

中毒性 — 64

精神障害者に関する法令 33

成人の救急蘇生法 13, 44

精神保健指定医 30

精神保健福祉 4

— の仕組み 30

生前意思表示 5, 32

— への対応 35

精巣 26

— と卵巣 27

精巣上体 26

精巣捻転症 56, 61

生体機能に与える影響 57

生体酸素状況 50

生物学的因子 28

生命の維持 2, 24

生命倫理と医の倫理 5, 32

声門上気道デバイスを用いた気道

確保 11, 42

整容的な問題 66

生理学的検査 46

生理学的評価 9, 40, 66

生理的 56

清涼飲料水症候群 61

政令 33

背負い搬送 14, 45

咳 7, 36

赤黒色便 57

脊髄 2, 24, 53

— 完全損傷 67

— 損傷 20, 49, 53, 67

— 不全損傷 67

脊髄神経 24

脊髄反射 25

脊柱管狭窄症 62

脊椎圧迫骨折 57, 64, 69

脊椎運動制限 (SMR) 13, 44, 67

脊椎疾患 62

脊椎・脊髄外傷 20, 67

脊椎損傷 20, 67

雪眼炎 73

接遇 34

赤血球 27

接触感染 3, 29

— 予防策 7, 36

摂食障害 64

切創 69

切断指 69

切断指趾 13, 44

切迫早産 19, 64

切迫流産 19, 64

セミファウラー位 13, 44

線 24

遷延性意識障害 50

閃輝暗点 52

鮮血便 57

前後圧迫外力 68

穿孔 18

胃・十二指腸潰瘍 — 60

鮮紅色吐血 57

善行の原則 5, 32

全国メディカルコントロール協議

会連絡会 33

洗浄 7, 36

— 方法 36

線状骨折 66

全身観察 6, 8, 20, 34, 38, 66

全身管理 71

全身固定 13, 44, 67

全身状態の観察 8, 38

全身性エリテマトーデス 62

全身性疾患 55, 56

全身に対する影響 52

全身の詳細観察 66

前脊髄型損傷 67

剪断力 65

前置胎盤 64

先着隊の活動 36

前兆 52

疝痛 56

穿通性異物 13, 44, 68

前庭 53

前庭神経炎 53, 62

先天異常 28

先天性 28

— 心疾患 56, 60

— 風疹症候群 28

前負荷 25, 49

前方脱臼 67

喘鳴 9, 39

せん妄 63, 64

線溶 27

前立腺 26

線量測定 73

そ

躁 64

創 69

増悪 59

— 因子 49

臓器 2, 24

— 移植 32

— 提供 32

早期死体現象 3, 29

双極性障害 64

造血 27

早産 69

爪床圧迫テスト 40

創傷汚染 47

創傷処置 13, 44
創傷の治癒 28
相談窓口 36
蒼白 9, 39
僧帽弁狭窄症 55
ゾーニング 36, 37, 73
側臥位 13, 44
足関節 69
塞栓 28
足側高位 13, 44
続発症と合併症 28
側方圧迫外力 68
側面衝突 65
組織 2, 24
— 低灌流による症候 49
咀嚼 26
措置入院 4, 30
ソマン 71
損傷 28
— の原因 28
— 部位 65

た

ターナー症候群 28
ターボリン担架 14, 45
タール様便 57
帯 24
体位 8, 38, 49, 54
— 管理 13, 44, 51
体液 7, 36
— の移動 49
— の組成 2, 24
— の調整 24
体温 8, 38, 73
— 管理 58, 72
— 上昇 57
— 測定部位 8, 38
体温計 41
体温調節 24, 72
— 機能 27
大規模災害 7, 36
体形 61
大血管損傷 68
退行性病変 28
対光反射 9, 39
大孔ヘルニア 50
胎児死亡 69
代謝 49
— 障害 28
— の概念 2, 24
代謝性アシドーシス 48, 54
代謝性疾患 55
代謝・排泄 71
体循環 25
— と肺循環 2
代償反応 65
— の破綻 65
带状疱疹 55, 56
対症療法 28

体性痛 56
大腿骨 69
大腿骨頸部骨折 64
大腿骨頸部・転子部骨折 69
大腿骨骨折 20
大腸 26
大腸癌 57
大腸穿孔 56, 60
大動脈瘤 18, 60
— 破裂 55, 60
大脳 2, 24
大脳半球 53
胎盤処理 13, 44
胎盤剝離 69
胎盤娩出 64
代表的プロトコル 14, 45
体表面汚染 47
大麻 71
代理人によるミュンヒハウゼン症候群 63
大量飲酒 56
大量喀血 55
ダウン症候群 28
他害行為 64
抱き上げ搬送 14, 45
他機関との連携 37
濁音 38
多剤耐性菌 7, 36
打診 8, 38
多数傷病者対応 7, 36
脱臼 69
脱臼骨折 69
脱臼整復術 69
脱水 18, 19, 49, 61, 64
ダニ 70
タバコ 72
多発外傷 20, 65
ダブルリングサイン 9, 39, 66
タブン 71
ダメージコントロール手術 68
単純X線検査 46
男性生殖器 26
— の疾患 61
胆石症 56, 57, 61
断続性ラ音 9, 39
断端形成術 69
胆道 26
単独外傷 20, 65
胆嚢 26
単麻痺 9, 40, 53

ち

チアノーゼ 9, 39, 52
地域包括ケア 32
地域包括ケアシステム 30
地域保健の仕組み 30
地域メディカルコントロール協議会 33
知覚 9, 27, 39

— の伝導路 25
致死性不整脈 72
腔 26
窒息 57, 72
— のサイン 72
外傷性 — 20, 65, 68
知的障害 64
知的・身体障害者福祉 30
知能障害 51
遅発性脳内出血 66
地方自治体 37
着色 71
中核症状 63
中耳炎 58
中心静脈栄養 45
中心性脊髄損傷 67
中心性ヘルニア 50
虫垂 26
虫垂炎 58
— 急性 — 56, 60
中枢神経 53
中枢神経系 2, 24
中枢性 53
— めまい 53
中性子線 47
中断 16, 50
中等症 9, 40
中毒 51, 52, 54, 71
— の判断 71
— 一酸化炭素 — 10, 40, 52, 70
医薬品 — 21, 71
覚醒剤 — 58
ガス — 21, 71
家庭用品 — 21, 71
急性 — 21, 71
急性エタノール — 21, 71
工業用品 — 21, 71
シアン — 70
自然毒 — 21, 72
食 — 30, 63
代表的な — 21
鉛 — 56
農薬 — 21, 71
フグ — 53
ボツリヌス — 53
慢性 — 71
薬物 — 15, 46
中毒作用 71
中毒情報 71
— センター 71
中毒性精神障害 64
中毒物質 71
— 等の保存 71
— の推定 71
— の特定 71
肘内障 69
チューブ・カテーテル類の事故 6, 35
中部顔面骨骨折 67
チューブ閉塞 10, 40

超音波検査 46
聴覚 39
— 障害 66
聴覚器 25
腸管出血性大腸菌 57, 63
腸肝循環 71
腸管損傷 20
腸管脱出 13, 20, 44, 68
腸間膜 26
— 損傷 20, 68
腸雑音 8, 9, 38, 39
腸疾患 18, 60
腸重積 19, 57, 63
聴診 8, 38
聴診器 10, 40
聴診法 10, 40
腸閉塞 18, 56, 60
調律 9, 39
直撃損傷 66
直接圧迫止血法 13, 44
直達外力 65
直腸 26
— 損傷 68
鎮痛・解熱薬 71

つ

追加講習 34
椎間板損傷 67
椎間板ヘルニア 62, 67
椎骨脳底動脈系 24
椎骨脳底動脈循環不全 53, 55, 59
対麻痺 9, 40, 53, 67
墜落と転落による外傷 65
通信指令員の役割 6, 34
通信体制 6, 34
通知 33
通電経路 70
痛風 61
爪 27

て

低緊急 40
定型的縊頸 70
低血糖 18, 51, 52, 55, 56, 61, 71
低酸素血症 16, 51, 52, 55
低心拍出量による心肺停止 16, 50
低体温 51, 71, 72
低電位 68
溺死 72
溺水 21, 72
— のリスク 72
デグロビン損傷 65, 69
デコルマン損傷 65, 69
テトロドトキシン 72
デフュージング 36
デブリーフィング 36
デマンドバルブ 11, 42
点 24

電解質 2, 24
— 異常 18, 51, 61
血清 — 52
てんかん 18, 52, 59
— 大発作 18, 59
— 発作 55
— 発作後 51
電気 28
電気性眼炎 73
デング熱 63
点状出血 9, 39
電動吸引器 41
転倒・転落 6, 35
伝導と伝達 24
伝導路 25
テンポ 16, 50

と

動悸 56, 60
統計の意義 34
瞳孔 9, 39, 51, 66
— 異常 52
— 不同 9, 39, 51
統合失調症 64
橈骨遠位端骨折 69
凍傷 73
疼痛による運動制限 53
導尿 45
糖尿病 18, 61
糖尿病ケトアシドーシス 18, 56, 61
糖尿病性ニューロパチー 59
頭皮外傷 66
頭部外傷 51, 52, 53, 66
— 開放性 — 66
頭部・顔面外傷 20
頭部高位 13, 44
頭部後屈あご先挙上法 10, 41
洞不全症候群 55
動脈 2, 25
動脈血液ガス検査 46
動脈血酸素分圧 46
動脈血二酸化炭素分圧 46
動脈拍動 9, 40
動揺 8, 38
投与経路とその特徴 15, 46
投与手段 48
動力機械による外傷 65
トキシドローム 21, 71
特異的体質 46
毒キノコ 72
特殊災害 37
特殊な意識障害 50
特殊な損傷 69
毒素 29
ドクターカー 5, 32, 66
ドクターヘリ 5, 32, 66
特徴的症狀 71
特定行為 5, 33
吐血 55, 57, 60

— の性状 57
— の定義 57
吐血・下血 56, 57
閉じ込め症候群 51
徒手筋力テスト 9, 39
徒手搬送 14, 45
トッド麻痺 52, 53
突発性 52
— 難聴 53, 62
— 発疹 58, 63
都道府県メディカルコントロール
協議会 33
トラウマバイパス 20, 66
トリアージ 7, 36
— の概念 36
アンダー — 9, 40
一次 — 7, 36
オーバー — 9, 40
二次 — 7, 36
トリアージタグ 36
トリカブト 72
トリプルエアウェイマニューバ
10, 41
努力呼吸 39
トルサード ド ポアンツ 60
ドロッピングテスト 9, 39
鈍的外傷 65
鈍的腹部外傷 68

な

内因と外因 3, 28
内頸動脈系 24
内呼吸 25
内視鏡検査 47
内視鏡的止血術 47
内臓疾患 57
内臓痛 56
内毒素 29
内部汚染 47
内部被ばく 47
内分泌 49
— の概念 26
内分泌器官 26
内分泌機能 26
内分泌系による制御 26
内分泌系の役割 26
内分泌疾患 61
内分泌・代謝・栄養系疾患 18, 61
鉛 71
— 中毒 56
難聴 39, 54, 62
— 突発性 — 53, 62
軟膜 24

に

ニコチン 72
二酸化炭素の運搬 24
二酸化炭素の排出 25

二次汚染防止 70
二次救急医療機関 5, 32
二次災害防止 38
二次止血 27
二次性頭痛 51
二次性脳損傷 66
二次性脳病変 50, 16, 51
二次治癒 28
二次トリアージ 7, 36
二次被ばく医療機関 73
二次予防 28
ニトログリセリン 46
入院形態 4, 30
乳酸値上昇 48
乳酸リンゲル液 15, 46
乳児 5, 43
乳児死亡 30
乳児突然死症候群 19, 63
乳児の救急蘇生法 14, 45
入電時の対応 13, 14, 44, 45
乳幼児揺さぶられ症候群 69
入浴中の溺水 72
尿管 26
— 結石 18, 56, 57, 61
尿検査 46
尿細管 26
尿色調異常 40
尿中 71
尿道 26
尿路 26
— 結石 61
— 損傷 68
— の疾患 18, 61
妊娠婦死亡 30
妊娠 64
— と関連した疾患の特徴 64
— の異常 19, 64
— ・分娩と救急疾患 19, 64
異所性 — 19, 56, 64
妊娠高血圧症候群 19, 64
妊娠時期 64
認知症 19, 63, 64
妊婦の外傷 69

ぬ

布担架 14, 45

ね

熱感 8, 9, 38, 39
熱傷 13, 20, 44, 70
— 指数 20, 70
— 気道 — 20, 70
熱傷深度の判定 20, 70
熱傷面積の測定 20, 70
熱傷予後指数 20, 70
熱性痙攣 19, 52, 63
熱中症 21, 51, 52, 58, 64, 72
— 弱者 72

粘液水腫性昏睡 61
年金制度 30
粘血便 57
捻挫 69
年齢別正常値 19, 63

の

脳 50
— 以外の疾患 52
— に対する影響 52
脳炎 19, 51, 52, 58, 59, 63
脳幹 2, 24, 53
— の障害 16, 50
— 反射 25
— 網様体 25
脳血管 24
脳血管障害 18, 59
脳血流減少 55
脳血流の障害 16, 49
脳梗塞 18, 51, 52, 53, 59
脳挫傷 20, 66
脳死 29, 32
— 判定 29
脳室 24
脳疾患 51, 52
脳出血 18, 51, 52, 53, 59
脳腫瘍 52
脳循環 50
脳症 19, 51, 52, 63
脳神経 24
— 損傷 66
脳震盪 66
脳脊髄液 24
脳卒中 59
— 後遺症 59
脳代謝の障害 16, 49
能動免疫 27
膿尿 40, 61
膿粘血便 57
脳浮腫 73
脳ヘルニア 16, 20, 50, 66
— 徴候 51
農薬中毒 21, 71
ノロウイルス 63

は

パーキンソン症候群 59
パーキンソン病 59
パーセントイル 63
パーソナリティ障害 64
肺 2, 25
— 損傷 68
肺炎 18, 54, 58, 59, 64
— 医療・介護関連 — 59
— 間質性 — 48, 59
— 市中 — 59
肺癌 55
肺間質の障害 48

肺気腫 18, 19, 59, 64
配偶者からの暴力 (DV) 30
肺結核 18, 55, 59
敗血症 49, 51, 63, 70
肺血栓塞栓症 18, 49, 54, 55, 59
肺挫傷 55, 68
肺循環 25
肺水腫 54, 70, 73
排泄 26
— 過程 71
— 促進 71
肺線維症 59
バイタルサイン 8, 38, 51, 52, 54, 56, 66
— の異常 51, 52, 53
肺内シャント 25
排尿失神 55
背部叩打法 11, 41
肺胞 2, 25
— 死腔 25
— の障害 16, 48
肺毛細血管 25
廃用症候群 64
排臨 64
ハインリッヒの法則 6, 35
白質 24
爆傷 65, 69
拍動性 52
— 腫瘍 39
白内障 47, 62
剥皮創 69
播種性血管内凝固症候群 62
破傷風 63
破水 64
ハチ 70
爬虫類 70
ばち指 40
発汗 9, 39, 52, 61, 72, 73
発癌 28, 47
— のしくみ 28
発癌性物質 28
バッグ・バルブ・マスク 11, 42
— 人工呼吸 12, 42
バックボード 13, 14, 44, 45
白血球 27
発症機序 48, 50
発症状況の把握 6, 34
罰則 33
発熱 52, 56
— の機序 57
— の定義 57
— の分類 58
発露 64
鳩胸 39
バトル徴候 39, 66
鼻カニューレ 11, 42
鼻の疾患 62
鼻指鼻試験 54
パニック障害 64
バビンスキー反射 9, 39, 51

ハブ 70
パラコート 71
針刺し事故 7, 36
パルスオキシメータ 10, 40
バレエ徴候 9, 39
破裂骨折 67
半規管 53
晩期死体現象 3, 29
癍痕 28
半坐位 13, 44
反射 25
— のしくみ 25
反射性失神 54
反衝損傷 66
搬送・受入れの実施基準 5, 33, 34
搬送先医療機関 35
搬送手段 5, 32
搬送と車内活動 8, 38
搬送方法 14, 45
半側空間無視 9, 39
パンダの眼徴候 39, 66
判断と処置 8, 38
反跳痛 9, 39
晩発障害 47
半盲 39, 62

ひ

ピーナッツ 72
ビール樽状胸郭 39
鼻咽頭エアウェイ 11, 41
皮下気腫 8, 9, 38, 39, 67, 68
皮下組織 27
鼻カニユーレ 11, 42
引き抜き損傷 67
被虐待児症候群 19, 63
非緊急 40
非金属 70
非言語コミュニケーション 35
鼻骨折 66
鼻汁 52
鼻出血 55, 57, 62, 66
皮疹 62
非侵襲的陽圧換気装置 14, 45
微生物 29
砒素 71
脾臓 27
脾損傷 20, 68
鼻損傷 67
ビタミン欠乏症 61
左側臥位 13, 44
非定型的縊頸 70
ビデオ硬性挿管用喉頭鏡 11, 42
非典型的の症状 18, 19, 60, 63
ヒト免疫不全ウイルス 63
泌尿器・生殖器の異物 72
泌尿系の役割 26
泌尿・生殖系疾患 18, 56, 61
微熱 58
非拍動性 52

被ばくの分類 47
皮膚 8, 38
— 感覚器 25
— 疾患 62
— 障害 47
— 症状 70
— 所見 9, 40
— 掻痒感 73
— の構造 27
— の役割 27
— 付属器の構造 27
被覆 13, 44, 70
皮膚・軟部組織外傷 69
皮膚軟部組織の感染症 62
ビブリオ 63
ヒポクラテスの誓い 32
飛沫感染 3, 29
— 予防策 6, 35
肥満 61
びまん性軸索損傷 20, 66
びまん性脳損傷 20, 66
非薬物治療 18, 61
ヒヤリハット 6, 35
ヒューマンエラー 6, 35
病院 4, 30
病院群輪番制 32
病院実習 34
— ガイドライン 34
— が行われる場所 34
— の記録 34
— の目的 34
病院前医療 5, 32
病院前評価法 59
病院連絡 6, 34
標準プロトコル 11, 12, 42, 43
標準予防策 6, 35
表情 8, 38
病床 30
表層角膜炎 73
病的骨折 69
病棟 34
表皮 27
表面汚染 73
日和見感染 29
疲労骨折 69
貧血 19, 54, 56, 62
品質確保のための保管 46
頻尿 61
ピンポンボール骨折 69
頻脈 8, 38, 61
頻脈性不整脈 55, 56

ふ

ファウラー位 13, 44
不安障害 64
不安定型骨盤骨折 20, 68
不安定狭心症 18, 60
不安・パニック 64
フィブリノゲン 27

フィンガースイープ 41
風疹 63
フェイスマスク 11, 42
フェニルケトン尿症 28
深さ 16, 50
不完全閉塞 72
フグ 72
腹臥位 13, 44
腹腔 2, 24
腹腔内実質臓器損傷 68
腹腔内出血 20, 68
副交感神経 2, 24
副甲状腺 26
副子 13, 44
複視 39, 52, 54, 59, 67
腹式呼吸 39
福祉事務所 6, 30, 34
副腎 26
副腎機能不全 61
副腎髄質 26
副腎発症（クリーゼ）51, 56, 61
副腎皮質 26
— ステロイド 46
フグ中毒 53
腹痛 17, 56, 60
副鼻腔炎 52, 63
腹部9分画 56
腹部外傷 20, 68
— 鋭的 — 68
— 鈍的 — 68
腹部コンパートメント症候群 68
腹部大動脈損傷 68
腹部大動脈瘤 56
— 破裂 57
腹部突き上げ法 11, 41
腹部膨満 9, 39, 60
腹部膨隆 68
腹壁 9, 39
— 損傷 68
腹壁静脈怒張 9, 39
腹膜 26
腹膜炎 20, 68
— 急性 — 18, 60
腹膜刺激症候 9, 39, 57, 60
腹膜疾患 18, 61
腹膜透析 45, 61
服用薬 8, 35, 38
不顕性感染 29
浮腫 8, 28, 38, 39, 40, 60, 70
腐食性芳香族化合物 70
不随意運動 53
不整脈 10, 56, 60, 68
— による心肺停止 16, 50
— 徐脈性 — 55, 56
— 致死性 — 72
— 頻脈性 — 55, 56
防ぎえた外傷死 65
不全麻痺 53
付着 70
物理学的因子 28

浮動性 53
ブドウ糖 2, 15, 24, 46
— の投与 12, 43, 51
不妊 47
不搬送 29
プラスミノゲン 27
フラットリフト 68
プリオン 29
フレイルチェスト 13, 20, 44, 68
プロトコール 5
— 策定 5, 33
器具を用いた気道確保 — 14, 45
口頭指導 — 13, 44
心肺機能停止対応業務 — 14, 45
代表的 — 14, 45
標準 — 11, 12, 42, 43
包括的指示下除細動 — 14, 45
薬剤投与 — 14, 45
分布パターン 53
分娩介助 13, 44
分娩の異常 19, 64
分娩の進行 64

へ

平滑筋 27
平均寿命 4, 30
平衡感覚器 25
閉塞性動脈硬化症 60
ベータ (β) 線 47
ベクレル (Bq) 47
ヘッドイモビライザー 13, 44
ヘリコプターへの搬入と搬出 45
ヘルシンキ宣言 32
ヘルニア 39
— 嵌頓 60
外傷性横隔膜 — 68
鉤回 — 50
大孔 — 50
中心性 — 50
椎間板 — 62, 67
脳 — 16, 20, 50, 66
腰椎椎間板 — 57
弁 25
変形 9, 39, 40
変形性関節症 62
弁疾患 49, 55
片頭痛 51, 59
変性 28
便中排泄 71
ベンチュリーマスク 11, 42
扁桃周囲膿瘍 59
弁膜症 54, 55, 56, 60
片麻痺 9, 40, 51, 53
— 交叉性 — 9, 40, 51, 63

ほ

蜂窩織炎 62
包括的指示 33
— 下除細動プロトコール 14, 45
防御機能 27
暴言・暴力への対応 6, 35
膀胱 26
— 炎 61
— 直腸障害 67, 68
防災基本計画 36
放散痛 55, 56
房室ブロック 60
放射線 28, 47
— 危険区域 73
— 障害 73
— と放射能 47
— の概要 47
— への対応 73
— 防護の三原則 73
防虫剤 72
法的に無能力な患者の権利 32
法的脳死判定 29
乏尿 61
法による規制 46
泡沫状血痰 49
法律 33
保温 13, 44, 70, 72
保健医療従事者 4, 30
保健師助産師看護師法 33
保健指標 30
保健所 6, 30, 34, 37
歩行者の外傷 65
母指球法 12, 42
母子健康手帳 30
母子保健指導 30
母子保健指標 30
母子保健の仕組み 30
補助換気 54
母体の変化 64
ボタン電池 72
勃起不全治療薬 46
発疹 39
— 突発性 — 58, 63
発疹性感染症 63
発赤 73
ボツリヌス中毒 53
ボディメカニクス 14, 45
哺乳類 70
骨と骨髄 27
ホメオスターシス 24

ま

マギール鉗子 11, 41
麻疹 6, 35, 58, 63
マスギャザリングへの対応 36
マスタードガス 72
末梢気道 2, 25
末梢血液検査 46

末梢循環不全 10, 40
末梢神経 53
— 系 24
— 損傷 53, 69
末梢性 53
— めまい 53
— めまいと中枢性めまいの鑑別 54
マムシ 70
麻薬中毒者等に関する法令 34
マラリア 63
マリファナ 71
マルファン症候群 28
マロリー・ワイス症候群 18, 57, 60
慢性 3, 28, 48, 52
慢性合併症 18, 61
慢性気管支炎 18, 55, 59
慢性硬膜下血腫 66
慢性呼吸不全 59
慢性心不全 49
慢性腎不全 18, 61
慢性中毒 71
慢性閉塞性肺疾患 18, 59
— の増悪 54

み

ミオクロームス 52
ミオグロビン尿 40
味覚器 25
耳鳴 54
耳に関する主要症候 62
耳の疾患 62
脈管 2, 25
脈拍 8, 9, 38, 40
— の有無 9, 39
— の性状と様式 9, 39
ミュンヒハウゼン症候群 63

む

無危害の原則 5, 32
無気肺 59
むち打ち症 67
無脈性電気活動 16, 50

め

名称の独占 33
酩酊者に関する法令 33
メインストレッチャー 14, 45
メタノール 71
メタボリックシンドローム 61
メタンフェタミン 71
滅菌 7, 36
メディカルコントロール協議会 33
— の種類 33
— の役割 33
メディカルコントロール業務 5, 33
メディカルコントロール体制 5, 33

メディカルコントロールの役割 5, 33

眼と瞳孔の異常 51, 53

メニエール病 53, 62

眼に関する主要症候 62

眼の疾患 62

眼の症候 52

めまい 17, 51, 52, 53

失神性 — 54

中枢性 — 53, 54

末梢性 — 53, 54

良性発作性頭位 — 53

眼・耳・鼻の異物 72

眼・耳・鼻の疾患 62

面 24

免疫グロブリン 27

免疫系疾患 19, 62

免疫系の役割 27

免疫の種類 27

免疫の役割 27

も

毛細血管 25

— 再充満時間 40

— 透過性充進 70

盲腸 26

毛髪 27

網膜中心動脈閉塞症 62

毛様充血 52

もうろう状態 51

餅 72

モニタリング 49

モルヒネ 71

問診 8, 35, 38

— の意義 35

門脈 26

や

扼頸 70

薬剤 58

— アレルギー 19, 62

— の影響 62

薬剤性 56

薬剤投与プロトコール 14, 45

薬物 55

— 中毒 46

— 治療 18, 61

— の代謝 15, 46

— の定義 46

— の分類 46

— の保存と保守管理 46

— の有害作用 15, 46

— アレルギー 46

薬物過量 46

— と薬物中毒 15

ヤマカガシ 70

ゆ

有害反応の種類 46

有機溶剤 71

有機リン 71

輸液 12, 43, 48, 70, 71, 73

— の影響 16, 49

輸液製剤 46

輸入感染症 63

よ

陽圧換気の影響 50

要介護認定 4, 30

溶血性尿毒症症候群 63

用手的気道異物除去 11, 41, 72

用手的気道確保 10, 41

養生 73

羊水塞栓 64

腰椎椎間板ヘルニア 57

腰痛 62

腰痛・背部痛 17, 57

要配慮者への対応 36

腰部脊柱管狭窄症 57

容貌 61

溶連菌感染症 63

抑うつ 64

杓創 65, 69

予防 5, 28, 33

一次 — 28

二次 — 28

予防医学 28

予防接種 63

四輪車の外傷 65

ら

雷撃症 70

ラ音 9, 39

断続性 — 9, 39

連続性 — 9, 39

ラリゲアルマスク 11, 42

卵管 26

ランゲルハンス島 26

卵巣 26

卵巣・子宮内膜の変化 26

卵巣嚢腫茎捻転 56, 61

乱用薬物 21, 71

り

力学的仕事 65

リコイル 16, 50

リザーバ付きフェイスマスク 11,

42

リスクマネージメント 6, 35

リストカット 69

リスボン宣言 32

離脱症状 71

立毛筋 27

リハビリテーション 28

リビングウィル 5, 32

硫化水素 71

流行性角結膜炎 62

流行性耳下腺炎 63

流産 69

硫酸アトロピン 71

流産・早産 19, 64

流涙 52

良性と悪性 28

良性発作性頭位めまい 53

— 症 62

緑内障 62

リンパ管 25

リンパ球 27

リンパ系 25

る

るいそう 61

れ

冷汗 8, 9, 38, 39

冷感 9, 39

冷却 70, 73

轢音 8, 38, 68

轢過創 69

裂創 69

連続性ラ音 9, 39

連絡調整 36

ろ

労作時 54

労働衛生の仕組み 30

労働災害 30

労働災害事故と関連疾患 30

漏斗胸 39

ロードアンドゴー 20, 65

ロタウイルス 63

肋間筋 25

肋骨骨折 55, 68

わ

若木骨折 69

ワクチン 27

ワルファリン 46

腕神経叢引き抜き損傷 65

【参 考】

救急救命士国家試験のあり方等に関する検討会報告書

平成 26 年 12 月 19 日

1 はじめに

平成 3 年に救急救命士法が制定されて以来、救急救命士国家試験は平成 4 年度から平成 25 年度末までに、東日本大震災のための追加試験 1 回を含めて 38 回行われてきた。免許登録者は平成 25 年度末現在で 46,190 人となっており、日本全国で活躍している。救急救命士は、医師の指示のもとで救急救命処置を行う事を業とするものである。特定行為として医師の具体的指示を必要とする救急救命処置は、従来、気管挿管、エピネフリンの投与など、心肺機能停止状態の傷病者に対する処置だけであった。平成 26 年 4 月から、低血糖傷病者へのブドウ糖溶液の投与、ショック傷病者への輸液等、心肺機能停止前の傷病者に対する処置も含まれるようになった。

救急救命士国家試験に関わる諸課題に対しては、これまで救急救命士国家試験のあり方等に関する検討会が 2 度にわたって開催され、国家試験の年 1 回化、必修問題の導入など救急救命士国家試験に関する問題点の改善が図られてきた。第 2 期の検討会報告書（平成 17 年 8 月 11 日）で、「今後継続して審議すべき事項」や「今後の検討事項」とされていた課題に加え、前回の検討会以降に生じた新たな課題について審議すべく、第 3 期の救急救命士国家試験のあり方等に関する検討会が平成 26 年 1 月に設置された。5 回の審議を重ね、救急救命士国家試験に関する改善事項を整理したのでここに報告する。

なお、これらの改善事項のうち、改善可能なものについては早急に実施することが望ましい。

2 今回の検討会で一定の方向性が得られた事項

(1) 出題基準について

国家試験の妥当な内容、範囲及び適切なレベル等を確保するため、試験委員は救急救命士国家試験出題基準に準拠して問題を作成する。救急救命士国家試験問題に救急救命士の職種の特徴が反映されるような出題基準が作成されることが望ましい。

平成 26 年 4 月から救急救命士の処置範囲に「心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液」、「血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与」（以後、「新しい処置」）が加えられたことに伴い、救急救命士学校養成所指定規則（教育内容）が改正された。国家試験に合格した救急救命士には、新しい処置に関する知識と技能が求められるため、今後、救急救命士国家試験出題基準は、新しい処置に関する事項も含まれるよう改訂されるべきである。

救急救命士国家試験出題基準の改訂頻度については、医師等他の国家試験が 4 年を目途に改訂することとされていることから、救急救命士国家試験においても概ね 4 年を目途とする

ことが望ましい。さらに、処置範囲の拡大等、時勢の変化に応じた事項を国家試験に迅速に盛り込むことができるような方法を検討しておくことが望ましい。

また、現在の救急救命士国家試験出題基準には、医師国家試験のブループリント（医師国家試験設計表）に相当するものがないため、救急救命士国家試験においても、ブループリントを作成し公表することが望ましい。

（2）出題数について

救急救命士国家試験は、平成4年度の第1回から総問題数200問として実施されている。平成26年4月以降に新たな処置が求められるため、救急救命士学校養成所指定規則（教育内容）の養成カリキュラムが1単位増加されたが、従来の教育内容の枠の中での出題が可能であること、従来の問題数でも必要な知識と技能を問えることなどから、当面は従来通りの出題数（200問）とすることが望ましい。

状況設定問題については、医師、看護師と比べ救急救命士が実施できる行為が少ないため、問題の作成に制約があるとの意見があるが、他の国家試験の状況も鑑みて現在の状況設定問題数50問を維持することが望ましい。

救急救命士国家試験における必修問題とは、「救急救命士に必要な基本的医学知識及びその業務に直結する事項」を問う問題であり、平成18年度（第30回）の救急救命士国家試験から導入されている。必修問題の問題数は第2期の検討会の報告書を受けて30問となっている。医師等他の国家試験では必修問題数が総問題数に占める割合は概ね20%であることを鑑み、救急救命士国家試験においても、必修問題数は総問題数200問の概ね20%とし、一般問題及び状況設定問題を合わせて概ね40問とすることが望ましい。

（3）試験時間について

現在の試験時間の配分は、午前170分（127問）、午後140分（73問）の合計310分であり、午前の試験時間が長いのではないかという指摘があった。しかしながら、午前午後の入れ替えや分割等、試験時間の大きな変更は受験者の負担につながるのではないかと意見があり、当面は現状維持とされた。今後、必修問題数の変更が行われる際に、試験時間の配分を適切に行うべきである。

（4）必修問題の合否判定基準について

現在の必修問題の合否判定基準は、一般問題1問1点、状況設定問題1問2.5点としたうえで、最低の合格レベルを一般問題と状況設定問題の合計点の80%としている（絶対基準）。必修問題に含まれる状況設定の問題数（第30回～第38回まで各7問出題）が少ないことから、状況設定問題の1問の正誤が合否を左右しかねないという意見があった。しかし、状況設定問題は救急救命士にとって最も必要な現場対応能力を問う問題なので重みをおくべきであること、必修問題数の増加により上記のリスクが軽減することから、当面は現在の合否判定基準を引き続き採用することが望ましい。

また、必修問題は、救急救命士に必要な基本的医学知識及びその業務に直結する事項を問

う問題であることから、一般問題及び状況設定問題のいずれも80%以上を得点した者を合格とすることが良いのではないかという意見があったが、それぞれに80%以上を求めることは受験者に一層のストレスを与えることから、合計点での評価が望ましい。

(5) プール制について

救急救命士国家試験においては、過去に出題された問題をプールし、試験の質の維持向上のために継続すべきとしていたが、プール制を整備するためには試験問題を回収する必要がある。医師国家試験、看護師等国家試験においては、試験問題と正答肢の開示請求による情報公開・個人情報審査会の答申を受けて、平成19年から試験問題の持ち帰りを認めたことから、事実上プール制への移行が困難となっている。救急救命士国家試験においては、第2期の検討会では継続して審議することとなっているが、現在、救急救命士国家試験終了後に試験問題の回収が行われていないことから既出問題を用いたプール制は困難である。

3 今後継続して検討すべき事項

(1) 出題形式について

現在の出題形式は、5肢Aタイプ及び5肢X2タイプである。正答肢を3つ選ぶX3タイプがより幅の広い出題が可能になるのではないかとの意見があったが、受験者の負担を軽減し知識を問うという意味においては、出題形式を複雑にすることは望ましくないとの意見もあった。当面は現在の出題形式である5肢Aタイプ及び5肢X2タイプを維持したうえで、引き続き議論していく。

(2) 禁忌肢の導入について

現在の救急救命士国家試験には禁忌肢は導入されていない。医師国家試験及び歯科医師国家試験では、生命や臓器機能の廃絶に関わるような解答や倫理的に誤った解答をする受験者の合格を避ける目的などで、禁忌肢が導入されている。救急救命士国家試験においては、禁忌肢は受験者に必要以上のストレスを与えることが予測されるという意見や、禁忌肢に関する適切な問題を作成することが非常に難しいとの意見があったことから、禁忌肢を導入することは時期早尚であるとの結論に至った。今後の導入については引き続き議論していく。

(3) 合否判定基準について

合否判定基準については、合否境界にある受験者の必修問題の得点数と通常問題の得点数との相関を見るなどの分析を試験委員会などで行っていく必要があるとの意見があり、今後、引き続き議論していく。

(4) 実技試験について

救急救命士は緊急の現場で、限られた時間の中で適切に判断し、必要な処置を行うことが求められていることから、国家試験で技能を評価すべきではないかとの意見があった。しかしながら、国家試験に位置づけて実技試験を実施するにあたっては他の国家試験と同様に、

模擬傷病者の育成、試験の客観的評価の手法等の課題が多く、時期早尚であるとの結論に至った。今後、救急救命士に求められる技能の評価方法については引き続き議論していく必要がある。

なお、救急救命士に技能が求められることは明らかであるため、養成課程において一定の技能が修得されていることは重要である。

(5) 救急救命士の資格を持つ試験委員の登用について

救急救命士は医師の指示のもとに救急救命処置を行うものであり、医師の試験委員の数はある程度必要であると同時に、救急救命士の資格を持つ者も試験委員に登用され、国家試験問題を作成することは重要である。救急救命士の資格を持つ試験委員数の定数を設定することは現時点では困難であるものの、救急救命士の資格を持つ試験委員の登用が少ないのではないかと意見があったことをふまえ、今後とも関係機関の協力を得るなど、必要に応じて救急救命士の資格を持つ試験委員を増員することが望まれる。平成26年度には1名が増員され5名となっているが、今後は、平成25年度消防庁の救急業務のあり方に関する検討会報告書でとりまとめられた指導救命士が試験委員として採用されることが期待される。

(6) 国家試験が予定通り実施出来なかった場合への対応について

救急救命士国家試験においては、不測の事態により、国家試験が予定通り実施できなかった場合等に備え、予め追加の国家試験を実施するための計画を作成し、対処できる体制を確保しておくことが望ましい。

4 前回の報告書で課題とされ、今回の検討会で改善されたと確認した事項

(1) 応用力試験（タクソノミー）について

現在出題されている状況設定問題においては、前回の報告書に沿った形で、タクソノミーⅡ型及びタクソノミーⅢ型が中心となっていた。今後も、この方針を維持していくことが望ましい。

(2) 救急救命士学校養成所に所属する試験委員増員について

前回の報告書に沿った形で、救急救命士学校養成所所属の試験委員が増員され改善が図られた。平成25年度には1名が増員され5名となっている。今後も、この方針を維持していくことが望ましい。

5 おわりに

本検討会では、救急救命士の資質の向上を目指した国家試験のあり方等について、各委員による活発な審議が行われた。今後も病院前医療体制の現状等を考慮しながら議論を継続し、必要に応じて改善を図っていくべきである。

「救急救命士国家試験のあり方等検討会」委員

安達 一彦	一般財団法人救急振興財団専務理事
石井 正三	公益社団法人日本医師会常任理事
劔持 功	公益社団法人日本看護協会
郡山 一明	一般財団法人救急振興財団救急救命九州研修所教授
坂本 哲也	帝京大学医学部救急医学講座主任教授
鈴川 正之	自治医科大学救急医学教室教授
田中 秀治	全国救急救命士教育施設協議会副代表理事
野口 宏	愛知県救急医療情報センター統括センター長
樋口 範雄	東京大学大学院法学政治学研究科教授
益子 邦洋	医療法人社団永生会南多摩病院長
松川 茂夫	全国消防長会救急委員会
安田 康晴	広島国際大学保健医療学部教授
◎行岡 哲男	日本救急医学会代表理事
○横田順一郎	日本臨床救急医学会代表理事
横山 正巳	帝京大学医療技術学部教授
岡田 安正	厚生労働省医政局医事課試験免許室長※第1回
古川 浩二	厚生労働省医政局医事課試験免許室長※第2～5回
斎藤 秀生	総務省消防庁救急企画室長※第1～3回
山口 最丈	総務省消防庁救急企画室長※第4～5回
田中 剛	厚生労働省医政局指導課 救急・周産期医療等対策室長※第1～3回
西嶋 康浩	厚生労働省医政局地域医療計画課 救急・周産期医療等対策室長※第4～5回

◎座長 ○座長代理（五十音順、敬称略）

一般財団法人 日本救急医療財団

〒113-0034 東京都文京区湯島 3-37-4

HF 湯島ビルディング 7 階

TEL 03-3835-0099(代表)

(非売品)